



@server

iSeries

制御言語 (CL) 概念

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

制御言語 (CL) 概念

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、141 ページの『付録 A. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、Operating System/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
Control Language (CL) Concepts
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

CL の概念および参照情報	1	LABEL パラメーター	70
制御言語 (CL) について	1	LICOPT パラメーター	71
コマンド	2	MAXACT パラメーター	76
コマンド名	2	OBJ パラメーター	76
OS/400 オブジェクトを処理するコマンド	3	OBJTYPE パラメーター	77
複数のオブジェクトを処理するコマンド	3	OUTPUT パラメーター	78
コマンドの記述形式	4	PRTTXT パラメーター	79
コマンドの構成要素	9	REPLACE パラメーター	80
CL プログラム	25	スケジューリング優先順位パラメーター (JOBPTY、OUTPTY、PTYLMT)	81
コマンド定義ステートメント	42	SEV パラメーター	83
テストおよびデバッグに使用するパラメーター値	44	SPLNBR パラメーター	84
OS/400 オブジェクト	47	TEXT パラメーター	84
ライブラリー・オブジェクト	47	VOL パラメーター	85
外部オブジェクト・タイプ	48	WAITFILE パラメーター	86
単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名	51	CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置フ 	87
総称オブジェクト名	51	ファイル	87
オブジェクトの命名規則	53	サーバーでのコマンド記述の印刷	140
一般に使用されるパラメーター: 補足説明	57	付録 A. 特記事項	141
AUT パラメーター	58	商標	142
CLS パラメーター	59	付録 B. 資料に関するご使用条件	143
COUNTRY パラメーター	60	付録 C. コードに関する特記事項	145
FILETYPE パラメーター	65		
FRCRATIO パラメーター	66		
IGCFEAT パラメーター	67		
JOB パラメーター	68		

CL の概念および参照情報

このセクションでは、制御言語 (CL) の概念について説明し、制御言語 (CL) コマンドを使用する際に必要な参照情報を提供します。

- [▶ 『制御言語 \(CL\) について』 ◀](#)
- 2 ページの『コマンド』
- 47 ページの『OS/400 オブジェクト』
- 57 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』
- 87 ページの『CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置ファイル』
- 140 ページの『サーバーでのコマンド記述の印刷』



制御言語 (CL) について

このトピックでは、基本オペレーティング・システムの一部である制御言語 (CL) コマンドおよび基本オペレーティング・システムの一部として導入可能な制御言語コマンド (CL) すべてについて説明します。また、iSeriesTM サーバーで使用できる関連ライセンス・プログラム製品の多くのコマンドについても説明します。


CL コマンドを使用する前に、このトピックで説明する概念についてよく理解してください。時には、他の IBM[®] ブックやトピックで、特定のトピックについてさらに具体的な情報を参照する必要があるでしょう。

この情報を印刷したり、関連する情報を検索するには、『トピックの印刷』を参照してください。

以下はこのトピックに関する追加の一般情報です。

- 対象となるコマンドの使用者 (1 ページ)
- これらの情報の構成方法 (1 ページ)
- コードに関する特記事項 (2 ページ)

対象となるコマンドの使用者

CL コマンドは通常、プログラマー、データ処理マネージャー、およびシステム管理者が使用します。OS/400[®] コマンド・メニュー、強力なコマンド・プロンプター・ツール、およびオンライン・コマンド・ヘルプを使用することで、技術者でないユーザーも CL コマンドを使用できます。コマンドを使用するには、OS/400 に関する一般的知識が必要です。複数の CL コマンドを組み合わせると 制御言語 (CL) プログラムを作成したい場合は、プログラミングの予備知識が役に立ちます。「**CL プログラミング**」 には、CL プログラムの作成や、ユーザー独自の CL コマンドの定義に関する多くの情報が掲載されています。

これらの情報の構成方法

CL コマンド検索プログラムでは、プロダクト、コマンド名、記述名、または名前の一部でコマンドを検索することができます。また、新しいコマンドおよび変更されたコマンドも検索することができます。

コードに関する特記事項

このトピックにはプログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



コマンド

制御言語 (CL) コマンドを使用して、システム機能を要求することができます。コマンドの概念については、以下を参照してください。

- 『コマンド名』
- 3 ページの『OS/400 オブジェクトを処理するコマンド』
- 3 ページの『複数のオブジェクトを処理するコマンド』
- 4 ページの『コマンドの記述形式』
- 9 ページの『コマンドの構成要素』
- 25 ページの『CL プログラム』
- 42 ページの『コマンド定義ステートメント』
- 44 ページの『テストおよびデバッグに使用するパラメーター値』

コマンド名


コマンド名は、動詞およびその対象となるオブジェクトを組み合わせたものです (コマンド = 動詞 + 対象となるオブジェクト)。例えば、ライブラリーは、作成、削除、または表示することができることから、各動詞の略である CRT、DLT、および DSP が、ライブラリーの略である LIB と組み合わせられます。したがって、ライブラリーを処理できる 3 つのコマンドは、CRTLIB、DLTLIB、および DSPLIB です。

動詞およびその対象となるオブジェクトを組み合わせて名前とする規則は、以下のとおりです。

- 第 1 の規則として、上記のようにコマンドの記述名を構成する各語からそれぞれ 3 文字をとり、それを、システムが認識できる省略コマンド名として使用します。
- 第 2 の規則として、コマンド・タイトルの最後の 1 語または複数の語から 1 文字ずつ取り、それをコマンド名の終わりに使用します。例えば、DLTDLO (Delete Document Library Object (文書ライブラリー・オブジェクト削除)) コマンドでは、3 つの文字 DLO が加えられています。
- ただし、いくつかの例外もあり、語を代表する文字がいくつか、コマンド名の中央で使用される場合もあります (通常、3 文字の動詞と目的語の間)。例えば、CRTCLPGM (Create CL Program (CL プログラム作成)) コマンドでは、文字 CL が使用されています。

MOV (移動) または DATA (データ) コマンドのように動詞のみ、またはオブジェクトのみで構成されているコマンド名もあります。

▶ オブジェクト・タイプの完全なリストについては、OBJTYPE パラメーターのページ (77 ページ) の表を参照してください。

コマンド (およびキーワード) 名に使用されているすべての省略形のリストについては、「CL プログラミング」  の付録『CL コマンドおよびキーワードの省略形』を参照してください。 ◀

OS/400[®] コマンド名が付いたコマンドもいくつかありますが、OS/400 システム以外のシステムを使用しているユーザーは、1 つ以上の使い慣れた代替名で呼ぶこともできます。代替名は、**別名**とも呼ばれます。例えば、CD は CHGCURDIR (現行ディレクトリー変更) コマンドの別名です。

OS/400 オブジェクトを処理するコマンド

OS/400 の各オブジェクト・タイプには、そのオブジェクト・タイプを処理する 1 組のコマンドがあります。ほとんどの OS/400 オブジェクト・タイプには、次の作業を実行するコマンドがあります。

- 作成 (CRT): オブジェクトを作成し、その属性を指定します。
- 削除 (DLT): システムからオブジェクトを削除します。
- 変更 (CHG): オブジェクトの属性や内容を変更します。
- 表示 (DSP): オブジェクトの内容を表示します。表示コマンドは、オブジェクトの処理には使用できません。
- 処理 (WRK): オブジェクトの属性や内容を処理します。表示コマンドの場合と異なり、処理コマンドではオブジェクトを操作しアプリケーションを変更することができます。

詳細については、『複数のオブジェクトを処理するコマンド』を参照してください。

複数のオブジェクトを処理するコマンド

単一オブジェクト・タイプに対して機能するコマンドに加えて、複数のオブジェクト・タイプに対して機能するコマンドもあります。これらのコマンドは、異なるタイプの複数のオブジェクトを同時に扱えるので、より強力です。例を以下に示します。

- ▶ オブジェクト記述表示 (DSPOBJD または DSPLNK): オブジェクトの共通属性を表示します。
- オブジェクト移動 (MOV OBJ または MOV): オブジェクトをあるライブラリーまたはディレクトリーから別のライブラリーまたはディレクトリーへ移します。
- オブジェクト名変更 (RNMOBJ または RNM): オブジェクトの新しい名前を指定します。
- オブジェクト保管 (SAVOBJ または SAV): オブジェクトとその内容を、テープ、光メディア、または保管ファイルに保管します。
- オブジェクト復元 (RSTOBJ または RST): 保管バージョンのオブジェクトを、テープ、光メディア、または保管ファイルから復元します。 ◀

▶ 複数のオブジェクト・タイプに対して機能するコマンドのリストを確認するには、4 ページの『複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド』(オブジェクトはオブジェクト名、ライブラリー、およびタイプによって認識される場合) の表および『複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド (オブジェクトはパス名によって認識される場合)』(4 ページの『複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド』) の表を参照してください。 ◀ 一部のコマンド (オブジェクト移動 (MOV OBJ) コマンドなど) では、一度に処

理できるオブジェクトは 1 つのみですが、そのオブジェクトは任意のタイプの OS/400^(R) オブジェクトとすることが可能です。例えば、MOV OBJ コマンドは、ファイルを移動することもジョブ記述を移動することもできます。

また、77 ページの『OBJTYPE パラメーター』の OBJTYPE パラメーターのページ (77 ページ) の表を参照することで、これらの複数オブジェクト・コマンドが特定のオブジェクト・タイプにどのように影響を与えるかを調べることができます。

詳細については、3 ページの『OS/400 オブジェクトを処理するコマンド』を参照してください。

複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド

(オブジェクトがオブジェクト名、ライブラリー、およびタイプによって認識される場合)

対象	処置	識別コード
オブジェクト	ALC、CHK、CPR、DCP、DLC、DMP、MOV、RNM、RST、SAV、WRK、CRTDUP、SAVCHG	OBJ
オブジェクト・アクセス	SET	OBJACC
オブジェクト監査	CHG	OBJAUD
オブジェクト権限	DSP、EDT、GRT、RVK	OBJAUT
オブジェクト記述	DSP	OBJD
▶ オブジェクト・ジャーナル処理	CHG、END、STR	JRNOBJ ◀
オブジェクト・ロック	WRK	OBJLCK
オブジェクト所有者	CHG、WRK	OBJOWN
オブジェクト基本グループ	CHG、WRK	OBJPGP

複数のオブジェクト・タイプを処理するコマンド

(オブジェクトがパス名によって識別される場合)


対象	処置	識別コード
オブジェクト	CPY、MOV、RNM、RST、SAV	適用されない
オブジェクト監査	CHG	AUD
オブジェクト権限	CHG、DSP、WRK	AUT
オブジェクト記述	DSP、WRK	LNK
オブジェクト整合	CHK	OBJITG
オブジェクト・ジャーナル処理	END、STR	JRN
オブジェクト所有者	CHG	OWN
オブジェクト基本グループ	CHG	PGP



コマンドの記述形式

各コマンドの記述は同じ形式に従っており、以下に説明する構成要素を持っています。▶ コマンド記述の文書の始めには、「パラメーター」、「例」、および「エラー・メッセージ」のセクションへのリンクがあります。◀

コマンドは OS/400^(R) のオブジェクトであるため、各コマンドは、特定のユーザーに対してのみその使用権限を与えることも、共通権限ユーザー (何らかの形でシステムを使用する権限が与えられているすべてのユーザー) に対して使用権限を与えることも可能である点に注意してください。これはほぼすべてのコマン

ドについて当てはまるため、各コマンドの記述の項では触れません。「iSeries 機密保護解説書」 には、IBM^(R) 提供のユーザー・プロファイルおよびそれぞれに認可されるコマンドの関する追加情報が記載されています。



環境およびスレッド・セーフ分類

コマンド記述文書の最上部にあるのは環境とスレッド・セーフ分類です。**実行許可環境:** では、そのコマンドを実行することができる環境を示します。**スレッド・セーフ:** は、コマンドがスレッド・セーフであるかどうかを示します。

詳細については、6 ページの『環境』を参照してください。スレッド・セーフ分類についての詳細は、7 ページの『スレッド・セーフの分類』を参照してください。◀

コマンドの記述

▶ 環境およびスレッド・セーフ分類に続いてコマンドの一般的説明があります。◀ ここでは、コマンドの機能およびコマンドとプログラムや他のコマンドとの関係について簡潔に説明しています。コマンドに使用上の制約があれば、“制約条件”の見出しで説明します。

パラメーター

▶ 『パラメーター』セクションには、パラメーター要約表があります。パラメーター要約表には、コマンドで使用できるパラメーターおよび値がすべて示されています。選択項目欄には、指定可能な値を示しています。IBM 出荷時のデフォルト値には選択項目欄に下線が引かれています。デフォルト値は、ユーザーがパラメーター (またはその一部) をコーディングしなかった場合、またはシステムにより使用される値です。

詳細については、7 ページの『パラメーターの要約表』を参照してください。◀

パラメーターの記述

▶ パラメーター要約表に続いてパラメーターの記述があります。パラメーターの記述では、各パラメーターは、パラメーター要約表に示されている順序で提示されます。それぞれのパラメーター記述には、パラメーターの機能の記述に続いて指定可能なパラメーター値についての説明があります。デフォルト・パラメーター値があれば、通常それは最初に示され、デフォルト値であることがわかるように見出しには下線が付けられています。◀

各パラメーターの説明では、パラメーターの意味、指定する値、およびコマンドの他のパラメーターとの従属関係が説明されています。パラメーターに複数の値がある場合には、パラメーター全体に適用される情報を先に示し、その後、各値についての個別の情報を値の名前ごとに記述してあります。

コマンドのコーディング例

『例』セクションでは、コード化されたコマンドの例が少なくとも 1 つ用意されています。パラメーター数が多く論理的な組み合わせがいくつかあるコマンドの場合には、必要に応じて複数のコーディング例を示しています。

▶ 明確にするため、例はキーワード形式のみでコード化されます。1 つ以上の定位置形式パラメーターをサポートするコマンドのために、同じ例を、定位置形式またはキーワード形式と定位置形式との組み合わせを使用してコーディングすることもできます。◀

コードの例に関する情報は、『コードに関する特記事項 (2 ページ)』を参照してください。



エラー・メッセージ

『エラー・メッセージ』セクションでは、コマンドで発行される可能性があるエラー・メッセージをリストしています。◀▶

環境

実行許可環境では、そのコマンドを入力できる環境を示します。これは、コマンド表示 (DSPCMD) コマンドの出力で示される情報と同じで、コマンド定義オブジェクトが作成されたときの ALLOW パラメーターに指定されたものを表します。“実行許可環境” 値には、ALLOW パラメーターのために指定された記号特殊値、およびコマンドの実行が許可された環境を説明する短い記述が含まれます。

コマンドの多くは、ALLOW(*ALL) で作成されます。*ALL も ALLOW パラメーターの出荷時のデフォルト値です。この場合、記述は、“すべての環境 (*ALL)” になります。

対話式に実行する必要があるコマンドの場合は、コマンドが作成されたときに指定された ALLOW 値は通常、(*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC) または (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX *EXEC) です。これら 2 つの場合、表示される記述は、“対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)” または、“対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX *EXEC)” です。

コンパイルされた CL またはインタープリットされた REXX プログラムの場合、コマンドが作成されたときに指定された ALLOW 値は通常、(*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX) または、(*BPGM *IPGM *BMOD *IMOD *BREXX *IREXX) です。これら 2 つの場合、表示される記述は“コンパイルされた CL プログラム、インタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)” または“コンパイルされた CL あるいはインタープリットされた REXX (*BPGM *IPGM *BMOD *IMOD *BREXX *IREXX)” です。

コマンドが作成されたときに ALLOW パラメーターに指定された値の組み合わせが、上記のうちの一つでない場合は、指定されたそれぞれの値の簡単な記述を示す黒丸つきリストが表示されます。

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ ILE CL モジュール (*BMOD)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)
- QCMDXEC、QCAEXEC、または QCAPCMD API の使用 (*EXEC)

注: OS/400[®]の一部として出荷されるコマンド定義オブジェクトには、CL コマンドとしての使用を意図していないものがあります。例えば、CMD および PARM コマンド定義オブジェクトはコマンド定義ソースで使用されます。これら特別な目的のコマンド・オブジェクトには、“実行許可環境”情報はありません。 <<

スレッド・セーフの分類

スレッド・セーフの分類は、コマンドがスレッド・セーフかどうかを示します。各コマンドにはスレッド・セーフの分類があります。スレッド・セーフの分類の 3 つのタイプを以下に示します。

- **Threadsafe: Yes**

この分類のコマンドは、制約なしで同時に複数のスレッドから安全に呼び出すことができます。また、この分類のコマンドによって呼び出された機能も、すべてスレッド・セーフです。

- **Threadsafe: Conditional**

この分類は、コマンドの提供する機能が必ずしもすべてスレッド・セーフではないことを示しています。コマンドの制約条件の項には、スレッド・セーフの制限に関する情報が記載されています。多くのコマンドは、下位のシステム・サポートのいくつかがスレッド・セーフではなかったり、出口点を呼び出したりできるため、条件付きスレッド・セーフに分類されます。条件付きスレッド・セーフのコマンドの中には、状況によってはアクセスが拒否されるものもあります。コマンドの制約条件の項には、コマンドがアクセスを拒否する原因となる条件が記載されています。

- **Threadsafe: No**

この分類のコマンドはスレッド・セーフでないため、マルチスレッド化されたプログラムで使用してはなりません。スレッド・セーフでないコマンドの中には、アクセスを拒否するものもありますが、スレッド・セーフでないコマンドのほとんどはアクセスを拒否しません。診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信され、非スレッド・セーフのコマンドが呼び出されたことが示される場合があります。診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信されるかどうかは、そのコマンドの「マルチスレッド・ジョブ・アクション」属性によって決まります。この属性は、コマンド表示 (DSPCMD) コマンドを使用して判別することができます。指定可能な値および実行可能な処置は次のとおりです。

- *SYSVAL - システム値 QMLTTHDACN に基づいた処置が行われます。
- *RUN - コマンドが実行されます。メッセージは送信されません。
- *MSG - 診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信されます。コマンドは実行されます。
- *NORUN - 診断メッセージ CPD000D がジョブ・ログに送信され、エスケープ・メッセージ CPF0001 が送信されます。コマンドは実行されません。

このコマンドは、実行されても予測できない結果を生じます。

注: OS/400[®]の一部として出荷されるコマンド定義オブジェクトには、CL コマンドとしての使用を意図していないものがあります。例えば、CMD および PARM コマンド定義オブジェクトは、コマンド定義ソースで使用されます。これらの特殊目的コマンド・オブジェクトには、“スレッド・セーフ”情報はありません。



パラメーターの要約表

パラメーターの要約表は、CL コマンドのパラメーターと値を要約したものです。このパラメーターの要約表は、過去のリリースで使用した構文図を置き換えます。

パラメーターの要約表の形式については、以下のトピックを参照してください。

- 『キーワード欄』 (8 ページ)
- 『記述欄』 (8 ページ)
- 『選択項目欄』 (8 ページ)
- 『注欄』 (8 ページ)

キーワード欄

この欄は、パラメーター・キーワード名を示します。各 CL コマンド・パラメーターには、そのコマンドに関連したキーワード名があります。ブラウザを使用してコマンドの資料を表示する場合、コマンドの資料ファイル内にある、パラメーターの情報の始まりにリンクするキーワード名の上でクリックすることができます。

記述欄

この欄は、パラメーター、パラメーター修飾子、またはパラメーター要素に定義されたプロンプト・テキストを示します。修飾子は、通常修飾オブジェクト名または修飾ジョブ名で使用されます。要素は、単一のパラメーターに複数の入力フィールドを定義するために使用されます。修飾子または要素の記述には、パラメーター内の修飾子または要素数が含まれています。

選択項目欄

この欄は、パラメーター、修飾子、または要素で使用可能な値を示します。

- 事前定義値 (別名特殊値) は、この欄にリストされています。事前定義値は、通常、アスタリスク (*) または Q で始まり、その後が大文字のみが続きます。
- パラメーター、修飾子、または要素でユーザー定義の値を使用できる場合、パラメーター・タイプの記述は、イタリック (例えば、名前) で示されます。
- オプション・パラメーターには、デフォルト値が定義されていることがあります。デフォルト値は、太字の下線付きテキスト (例えば、***NO**) で示されます。
- 複数の修飾子または要素を持つ複合パラメーターの場合、あるいはパラメーターまたは要素が値のリストをサポートする場合は、任意の単一値を選択することができます。単一値は、1 度のみ選択できます。
- パラメーターによっては、反復値を指定できます。反復値では、この欄は使用できる反復の数を示します。

注欄

この欄は、各パラメーターに関する追加情報を示します。

- この欄に表示される「必須」は、入力値を指定するために常に必要なパラメーターである、必須パラメーターを示します。
- この欄に表示される「オプション」は、入力値を必要としないパラメーターである、オプション・パラメーターを示します。
- この欄に表示される「キー」は、プロンプト指定変更プログラムを持つコマンドが使用する、キー・パラメーターを示します。
- コマンド・ストリングでパラメーターを (関連パラメーター・キーワードを使用せずに) 定位置形式で指定できる場合、この欄には「定位置」が表示されます。パラメーターの定位置番号は次の「定位置 (Positional)」に示されます。



コマンドの構成要素

この図は、コマンドの構成要素を示しています。構成要素には、コマンド・ラベル (オプション)、コマンド名 (略号)、および 1 つ以上のパラメーターがあります。パラメーターにはキーワードおよび値があります。



コマンドの構成要素については、以下を参照してください。

- 『コマンド・ラベル』
- 10 ページの『コマンド名』
- 10 ページの『コマンド・パラメーター』

また、コマンドのコーディングに関する詳細情報は、以下を参照してください。

- 19 ページの『コマンド構文』
- 19 ページの『コマンド区切り文字』
- 22 ページの『コマンドの継続』
- 22 ページの『コマンドへの注記の入力』
- 23 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』
- 24 ページの『CL コマンドでの 2 バイト文字テキスト』

一般的に使用するパラメーターの詳細については、57 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』を参照してください。

コマンド・ラベル

コマンド・ラベルは、CL プログラム内でブランチを行うために特定のコマンドを識別します。また、デバッグ中の CL プログラム内のステートメントを識別するためにも、ラベルが使用されます。ラベルは、ブレークポイントとして使用するステートメントや、トレースのための開始ステートメントおよび終了ステートメントを識別することができます。

▶ ラベルは、コマンド名の直前に入力します。ここでは、単純名 (*SNAME) を指定する際の標準的な規則が適用されます。ラベルは、コロンの直後にあります。コロンとコマンド名の間には、必須ではありませんが、空白を使用できます。ラベルには、コロンに加えて 10 文字まで含めることができます。◀ 例
例えば、START: や TESTLOOP: はコマンド・ラベルの例です。

コマンド・ラベルは必須ではありませんが、どのコマンドにもラベルを付けることができます。実行不能のコマンド (CL 変数宣言 (DCL) コマンドなど) にラベルを付けた場合、プログラムがそのラベルにブランチすると、そのラベルの次のコマンドが実行されます。ラベルの次のコマンドが実行可能なコマンドではない場合には、プログラムは後続の実行可能なコマンドに進みます。同様に、ラベルは 1 行に 1 つのみ指定することができます。その行にコマンドがない場合は、プログラムは実行可能な次のコマンドに進みます。

複数のラベルを指定する場合には、次の例のようにコマンドの前に、1 行に 1 つの追加ラベルを入れた行を指定する必要があります。

```
LABEL1:  
LABEL2: CMDX
```

コマンド行の前のラベル行で、継続文字 (+ または -) を使用することはできません。

コマンド名

コマンド名は、コマンドの実行時に呼び出されるプログラムが実行する機能を識別します。コマンド名は、コマンド記述の省略形になっています。例えば、MOV OBJ という名前は、オブジェクトをあるライブラリーから別のライブラリーに移す CL コマンド (オブジェクト移動コマンド) を指します。他のオブジェクトの場合と同様に、コマンド名もライブラリー名で任意に修飾することができます。

オブジェクト名および CL コマンドの命名方法に関する詳細については、51 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』および 53 ページの『オブジェクトの命名規則』を参照してください。

コマンド・パラメーター

ほとんどの CL コマンドは、そのコマンドを実行するために使用するオブジェクトおよび値を指定する、1 つ以上のパラメーターを持っています。コマンドを入力する際に、コマンドで使用するコマンド・オブジェクト名、パラメーター・キーワード名、およびパラメーター値を指定します。指定するパラメーターの数はコマンドによって異なります。パラメーターのないコマンドもありますが (例えば、実行 (DO) コマンドやバッチ・ジョブ終了 (ENDBCHJOB) コマンドなど)、ほとんどのコマンドには 1 つ以上のパラメーターがあります。

1 つのパラメーターで値のグループを指定する方法については、18 ページの『値のリスト』で説明します。

このトピックでは、パラメーター という用語は、通常、パラメーター・キーワードとその値の組み合わせを意味します。例えば、オブジェクト移動 (MOV OBJ) コマンドには OBJ というパラメーターがあり、これにはオブジェクト名を指定しなければなりません。OBJ はパラメーター・キーワードであり、オブジェクト名は OBJ パラメーターに入力する値です。

以下のトピックを参照してください。

- 『必須パラメーター、オプション・パラメーター、およびキー・パラメーター』
- 『キーワード形式および定位置形式のパラメーター』
- 12 ページの『パラメーター値』

必須パラメーター、オプション・パラメーター、およびキー・パラメーター: コマンドのパラメーターには、必ず指定しなければならないパラメーター (必須パラメーター) と、必ずしも指定を必要としないパラメーター (オプション・パラメーター) があります。オプション・パラメーターに対してコマンドの入力時にパラメーター値を指定しなかった場合、通常は、システム定義のデフォルト値が割り当てられます。

コマンドには、キー・パラメーターが存在することもあります。ユーザーがコマンドのプロンプト画面を表示した場合に画面に表示されるのは、キー・パラメーターのみです。キー・パラメーターに値を入力すると、残りのパラメーターが表示されます。このとき、残りのパラメーターには、デフォルト値 (*SAME、*PRV など) の代わりに実際の値が入っています。

キーワード形式および定位置形式のパラメーター: CL におけるパラメーターは、キーワード (11 ページ) 形式、定位置 (11 ページ) 形式、あるいはこの両方の組み合わせ (11 ページ) のいずれかを使用して指定できます。

キーワード形式のパラメーター

キーワード形式のパラメーターの場合には、キーワードのすぐ後に、1つの値（または空白で区切った複数の値）を括弧で囲んで入力します。キーワードと、パラメーター値の前の左括弧の間に空白を使用することはできません。括弧とパラメーター値との間には空白があっても構いません。例えば、LIB(MYLIB) は、ライブラリー名に MYLIB を指定するキーワード・パラメーターです。どのように使用されるかは、この LIB パラメーターを使用するコマンドによって異なります。

1つのコマンドのパラメーターをすべてキーワード形式で指定する場合には、パラメーターはどのような順序で指定しても構いません。例えば、次の2つのコマンドは同じものであると見なされます。

```
CRTLIB LIB(MYLIB) TYPE(*TEST)
CRTLIB TYPE(*TEST) LIB(MYLIB)
```

定位置形式のパラメーター

定位置形式のパラメーターの場合は、キーワードをコーディングせず、値（またはリストの場合は複数の値）のみを指定します。指定した値の働きは、そのコマンドに指定するパラメーター・セットでのその値の位置によって決まります。コマンド名とパラメーター値との間、およびパラメーター値とパラメーター値との間は、1つ以上の空白で区切ります。コーディングできるパラメーターの定位置順序は1つのみであり、上記の CRTLIB の例の定位置形式は、以下のとおりです。

```
CRTLIB MYLIB *TEST
```

あるパラメーターの値を入力したくない場合は、そのパラメーターの位置に事前定義値 *N（ヌル値）を入力できます。システムは、*N をパラメーターの省略と解釈し、それに対してデフォルト値を割り当てるか、あるいはそのままヌルにしておきます。前記の CRTLIB コマンドの2番目の例で、TYPE パラメーターに *TEST ではなく *N をコーディングしたとすれば、コマンドの実行時にはデフォルト値である *PROD が使用され、MYLIB という名前の実働ライブラリーが作成されます。各パラメーターの説明は、CRTLIB コマンドの項を参照してください。

注:

- 定位置形式のコーディング限度を超えて、パラメーターを定位置形式でコーディングすることはできません。この限界点を超えて、定位置形式でパラメーターをコーディングしようとする、システムはエラー・メッセージを戻します。
- ▶ CL プログラム・ソースで定位置形式を使用すると、プログラムの作成時に時間を節約できますが、ユーザーや他のユーザーによる保守がより困難になります。キーワード形式を使用して作成したコマンドは、通常理解しやすく、簡単に拡張できます。◀

キーワード形式と定位置形式の組み合わせ

1つのコマンドで、キーワード形式と定位置形式の両方を用いてパラメーターをコーディングすることもできます。次の例では、CL 変数宣言 (DCL) コマンドの3通りのコーディング方法を示します。

キーワード形式:

```
DCL VAR(&QTY) TYPE(*DEC) LEN(5) VALUE(0)
```

定位置形式:

```
DCL &QTY *DEC 5 0
```

定位置形式とキーワード形式の組み合わせ:

```
DCL &QTY *DEC VALUE(0)
```

最後の例では、オプションの LEN パラメーターをコーディングしなかったため、VALUE パラメーターはキーワード形式でコーディングしなければなりません。

注: キーワード形式で指定したパラメーターより後に、定位置形式でパラメーターを指定することはできません。

詳細については、23 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

パラメーター値: パラメーター値は、コマンドの実行中に使用されるユーザー提供の情報です。個々のパラメーター値は、次のいずれかで指定することができます。

- 『定数値』 (その実際の値): 定数には、文字ストリング定数 (名前、日付、および 16 進数値を含む)、10 進定数、および論理定数の 3 つのタイプがあります。
- **▶▶** 17 ページの『変数名』 (値を含む変数の名前): 変数には、文字ストリング変数 (名前を含む)、10 進変数、論理変数、および整数の 4 つのタイプがあります。10 進変数および論理変数の値は、パラメーターとして求められている値のタイプに一致していなければなりません。文字変数にはどのようなタイプの値でも指定することができます。例えば、10 進数値が求められている場合には、10 進変数と同様に、文字変数によってもその値を指定することができます。◀◀
- 18 ページの『式』 (式の評価結果が値として使用されます): 式には、算術式、文字ストリング式、比較式、および論理式の 4 つのタイプがあります。式は、CL プログラム中のコマンドのパラメーター値としてのみ使用することができます。
- 18 ページの『値のリスト』 (値のリストとは、1 つのパラメーターに指定できる 1 つ以上の値): すべてのパラメーターが値のリストを受け入れるわけではありません。リスト・パラメーター を定義することで、1 つ以上のタイプからなる複数の値の具体的な組み合わせを受け入れることができます。リスト中の値は、1 つ以上の空白で区切らなければなりません。値のリストはそれぞれ、1 つのパラメーターとして扱うことを指示するために、全体を括弧で囲みます。定位置形式でパラメーターを指定する場合にも括弧を使用します。あるパラメーターについてリストを指定することができるかどうか、およびどのようなリストを指定することができるかについては、該当するコマンドの項の該当するパラメーターの説明を参照してください。

パラメーターには、コマンドにおけるそのパラメーターの定義に従って、上記の値を 1 つ以上指定することができます。複数の値を指定できるパラメーターは、値のリストを含むことができるので、リスト・パラメーター と呼ばれます。

キー・パラメーターおよび定位置パラメーターを持つコマンドでは、値はキーワード形式、定位置形式、または両形式の組み合わせで指定することができます。次のいずれかの条件があてはまる場合には、パラメーター値を括弧で囲む必要があります。

- 値の前にキーワードがある場合。
- 値が式である場合。
- 値のリストを指定する場合。

注: リストに値を 1 つしか指定しない場合には、括弧は不要です。

詳細については、23 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

定数値: 定数値は、実際の数値または特定の文字ストリングであり、その値は常に不変です。制御言語では、文字ストリング (引用符付き、または引用符のない文字ストリング)、10 進定数、および論理定数の 3 つのタイプの定数を使用することができます。

定数値に関する詳細については、以下を参照してください。

- 文字ストリング (13 ページ)
- 10 進数値 (16 ページ)
- 論理値 (16 ページ)

文字ストリング

文字ストリングとは、任意の EBCDIC 文字 (英数字および特殊文字) からなる文字ストリングであり、1 つの値として使用されるものです。これには、日付 (15 ページ) および 16 進数 (16 ページ) の値も含まれます。文字ストリングには、引用符付きのストリングと引用符のないストリングの 2 つの形式があります。どちらの形式の文字ストリングにも、最大 5000 文字まで使用することができます。

引用符付き文字ストリングは、英数字と特殊文字からなるストリングをアポストロフィで囲んだものです。例えば、'CREDIT LIMIT HAS BEEN EXCEEDED' は、引用符付き文字ストリングです。

引用符付き文字ストリングは、引用符のない文字ストリングの中で使用すると無効になる文字データを使いたい場合に使用します。例えば、コマンドには、コマンドの機能を説明するためにユーザー指定のテキストを入れることができます。引用符のないストリングでは空白は使用できないので、その記述の中で複数の語を使用する場合には、記述をアポストロフィで囲まなければなりません。

引用符のない文字ストリングは、英数字と、表『引用符付き文字ストリングおよび引用符のない文字ストリング (13 ページ)』の引用符のないストリングの欄に示されている特殊文字のみで構成されるストリングです。この表は、引用符付き文字ストリングおよび引用符のない文字ストリング値で有効な、主な EBCDIC 文字を要約したものです。表の最後の欄の X は、左側に示されている文字が有効であることを意味します。表の後の注を参照すると、その文字が有効である理由が示されています。特殊文字を使用することによって、次のものを引用符のない文字ストリング値にすることができます。

- 事前定義値 (* で始まる)
- 修飾オブジェクト名 (/)
- 総称名 (* で終わる)
- 10 進定数 (+, -, ., および ,)

これらの引用符のないストリングは、いずれも、文字ストリングを受け入れることができるように定義されているパラメーターに指定することができます。また、パラメーターの中には、事前定義値、名前、または 10 進数値 (あるいはこれらを組み合わせたもの) を受け入れるように定義されているものもあります。

引用符付き文字ストリングおよび引用符のない文字ストリング

文字の 名前	文字	引用符のない ストリング	引用符付き ストリング
アンパーサンド	&	注 5 を参照	X
アポストロフィ	'	注 7 を参照	-
アスタリスク (*)	*	注 5 および 6 を参照	X
アットマーク	@	X	X
空白			X
コロンの	:		X
コンマ	,	注 1 を参照	X
数字	0 から 9	注 1 を参照	X
通貨記号	\$	X	X

文字の名前	文字	引用符のない ストリング	引用符付き ストリング
等しい	=	注 5 および 8 を参照	X
より大きい	>	注 5 および 8 を参照	X
左括弧	(注 4 を参照	X
より小さい	<	注 5 および 8 を参照	X
英字 (小文字)	a から z	注 2 を参照	X
英字 (大文字)	A から Z	X	X
負符号	-	注 1 および 5 を参照	X
否定	¬	注 5 および 8 を参照	X
数値記号	#	X	X
パーセント	%		X
ピリオド	.	注 1 および 11 を参照	X
プラス	+	注 1 および 5 を参照	X
疑問符	?		X
引用符	“ ”	注 10 を参照	X
右括弧)	注 4 を参照	X
セミコロン	;		X
斜線	/	注 3 および 5 を参照	X
下線	_	注 9 を参照	X
縦線		注 5 および 8 を参照	X

注:

1. 数字、1 個の小数点 (、または ,) (オプション)、および 1 個の先行符号 (+ または -) (オプション) からなる引用符のない文字ストリングは、引用符のない有効な文字ストリングです。このようなストリングは、コマンド定義におけるパラメーターの属性に応じて、数値として、または文字値として扱われます。CALL コマンドまたは式の中では、このような引用符のないストリングは数値として扱われるため、文字表現が必要な場合には、引用符付きのストリングを使用する必要があります。引用符のないストリングの中では、数字と英数字とを任意に組み合わせて使用することもできます。
2. 引用符のないストリングでは、ストリングが CASE(*MIXED) 属性を持つパラメーターに指定されている場合を除いて、小文字が大文字に変換されます。
3. 斜線は修飾名とパス名の結合子として使用できます。
4. 引用符のないストリングでは、括弧は、キーワードの値およびリストを区切る場合や、式の中で評価の順序を指示するために使用する場合に有効です。
5. 引用符のないストリングでは、文字 +、-、*、/、&、|、¬、<、>、および = は、単独で使用できます。これらの文字は、コマンド定義で EXPR(*NO) 属性が定義されているパラメーターで指定された場合、文字値として扱われます。コマンド定義で EXPR(*YES) 属性が定義されているパラメーターで指定された場合、これらの文字は式の演算子として扱われます。
6. 引用符のないストリングでは、アスタリスクは、その直後に名前がある場合 (事前定義値など) や、直前に名前がある場合 (総称名など) に有効です。式の中で使用される引用符なしのストリングに関する詳細については、18 ページの『式』を参照してください。
7. 引用符付きのストリングの中でアポストロフィを使用すると、そのアポストロフィは、開始アポストロフィ (区切り文字) と対をなす終了アポストロフィと解釈されてしまうので、引用符付きストリング内

でアポストロフィを使用したい場合には、アポストロフィを 2 重 (') にしなければなりません。引用符付き文字列内の文字を数える場合、このような隣接した 2 重のアポストロフィは 1 文字として数えられます。

8. 引用符のない文字列では、<、>、=、≠、および | は、この中の他の文字と組み合わせて使用することができます。有効な組み合わせは、<=、>=、≠=、≠>、≠<、||、|<、および |> です。コマンド定義で EXPR(*NO) 属性が定義されているパラメーターで、このような組み合わせを指定した場合、これは文字の値として扱われます。また、コマンド定義で EXPR(*YES) 属性が定義されているパラメーターで指定した場合には、式の演算子として扱われます。
9. 引用符のない文字列では、下線は、最初の文字として使用した場合、および単独で使用した場合には無効です。
10. 引用符は、引用符付きの名前を区切るために使用されます。
11. ピリオドは基本名の中で使用できますが、最初の文字には使用できません。

次は引用符付き文字列定数の例です。

定数	値
'1,2,'	1,2,
'DON'T'	DON'T
'24 12 20'	24 12 20

次は引用符のない定数の例です。


定数	意味
CHICAGO	CHICAGO
FILE1	FILE1
*LIBL	ライブラリー・リスト
LIBX/PGMA	ライブラリー LIBX 中のプログラム PGMA
1.2	1.2

詳細情報や他の例については、33 ページの『文字列式』を参照してください。

日付値

日付値は、日付を表す文字列です。日付の形式は、システム値 QDATFMT によって指定します。日付の値の長さは、使用する形式と、区切り文字を使用するかどうかによって異なります。例えば、区切り文字を使用しない場合には、年間通算日形式の日付の長さは 5 文字であり、年間通算日以外の形式では 6 文字です。区切り文字を使用した場合には、これより長くなります。システム値 QDATFMT の詳細については、『OS/400 システム値』のトピックを参照してください。

システム値 QDATSEP は、日付の入力の際に使用できるオプションの区切り文字を指定します。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲まなければなりません。システム値 QDATSEP に関する

その他の情報については、V5R1 補足資料 Web サイトにある「実行管理」 を参照してください。

日付値は、タイプ *DATE のパラメーターで使用できます。40 以上の年の値は、1940 年から 1999 年を表します。40 未満の年の値は、2000 年から 2039 年を表します。パラメーター値 *DATE の詳細については、44 ページの『PARM (パラメーター) ステートメント』の説明を参照してください。

16 進数値

16 進数値とは、16 進数字 A から F および 0 から 9 を組み合わせて表した定数です。名前、日付、および時刻を除くすべての文字ストリングは、16 進形式で指定できます。16 進数値を指定するには、X の後に、長さが偶数の数値をアポストロフィで囲んで指定します。例えば、X'F6' および X'A3FE' のようにします。

注: 00 から 3F の範囲の 16 進数値、または 16 進数値 FF を入力する場合には、注意が必要です。これらの文字が表示または印刷された場合、装置制御文字として処理され、予測できない結果が生じることがあります。

10 進数値

10 進数値は、1 つ以上の数字からなる数字ストリングであり、必要に応じて、その前に正符号 (+) または負符号 (-) を付けることができます。10 進数値は最高 15 桁まで可能であり、小数点 (コンマまたはピリオド) 以下は 9 桁まで使用することができます。したがって、10 進数値は、正符号または負符号と小数点 (ある場合) を含めて、17 桁を超えることはできません。10 進数値の例を以下に示します。

123.	} 等価値	+ .017
1.23		6278,954374
1,23		-123456.987654321
-1,23		87654321.123

論理値

論理値とは、シングル文字 (1 または 0) をアポストロフィで囲んだものです。これは、オンまたはオフ、YES または NO、および真または偽などの状態を表すスイッチとしてよく使われます。論理値を式の中で使用する場合には、必要に応じて、その前に *NOT または \neg を付けることができます。次に示すのは論理値の例です。

定数	値	意味
'0'	0	オフ、NO、または偽
'1'	1	オン、YES、または真



浮動小数点定数

浮動小数点定数とは、以下の部分により構成される数値表現です。

- 仮数符号: 仮数有効符号としては、+ または - を使用できます。仮数符号はオプションであり、符号を指定しなかった場合は + であると見なされます。
- 仮数: 仮数には小数点が含まれていなければなりません。仮数として指定できる最大長は 253 桁ですが、演算に使用されるのは最初の 17 桁分の有効数字のみです。
- 指数文字: 指数文字は E でなければなりません。
- 指数符号: 指数符号は + または - でなければなりません。仮数符号はオプションであり、符号を指定しなかった場合は + であると見なされます。
- 指数: 指数は整数でなければなりません。使用できる数字は 0 から 9 までです。指定できる数字は最大で 3 桁です。

浮動小数点定数は、すべて倍精度の値として保管されます。浮動小数点定数の中で、各構成部分の間にブランクを含めることはできません。また、各部分の順序は上記のとおりでなければなりません。

浮動小数点定数を指定することのできるパラメーターを持つコマンドは、次のとおりです。

-  プログラム呼び出し (CALL) コマンドまたはプロシーチャー呼び出し (CALLPRC) コマンド: PARM パラメーターを使用して、呼び出されるプログラムに浮動小数点定数を渡すことができます。呼び出されるプログラムは、浮動小数点定数を倍精度で受け取らなければなりません。 
- プログラム変数変更 (CHGPGMVAR) コマンド: VALUE パラメーターを使用して、プログラムの中の浮動小数点変数を変更できます。
- ファイル・コピー (CPYF) コマンド: データベース・ファイルからコピーするレコードを選択するために、FROMKEY、TOKEY、および INCREL パラメーターで浮動小数点構造を使用できます。

浮動小数点定数について詳しくは、『プログラミング』のトピックの DDS を参照してください。

変数名: 変数には、プログラムの実行中に変更できるデータの値が含まれています。変数は、コマンドの実行時点でその変数に含まれている値を渡すために、コマンドの中で使用されます。値が変化するのは、データ域、表示装置ファイル・フィールド、またはメッセージから値を受け取った場合、値がパラメーターとして渡された場合、プログラムの中で変数変更 (CHGVAR) コマンドが実行された場合、あるいは呼び出された別のプログラムに戻る前にその値を変更した場合です。

変数名は使用される値を識別するものであり、実際のデータがどこにあるのかを示します。CL 変数は CL プログラムの中でのみ有効なものなので、しばしば CL プログラム変数、あるいは単に CL 変数と呼ばれます。CL 変数名はアンパーサンド (&) で始めなければなりません。

CL コマンドのほとんどすべてのパラメーターは、CL 変数によって指定できます。パラメーターに CL 変数を指定した場合、そのパラメーターを含むコマンドが実行される際には、その時点におけるその変数の値が使用されます。つまり、変数の値は、ユーザーがその値を定数として指定した場合と同じように扱われず。

一般に CL プログラムの中のコマンドのほとんどのパラメーターに、CL 変数を使用できるので、たいいていの場合、コマンドの説明の中では CL 変数については触れていません。定数のみに限定されるパラメーター (DCL コマンドのパラメーター)、CL 変数のみに限定されるパラメーター (ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドのすべてのパラメーター)、または特定のタイプの変数のみに限定されるパラメーター (例えば、RTVJOBA またはメッセージ検索 (RTVMSG) コマンドのパラメーター) については、該当のパラメーターの説明の中でそのつどその制約が示されています。このような場合以外は、CL プログラムの中で使用できるコマンドでは、事前定義値のみを取るパラメーターも含めて、パラメーター値の代わりに CL 変数を使用することができます。例えば、*YES または *NO という事前定義値のみを取る KEEP パラメーターに、*YES または *NO の代わりに CL 変数を指定することができます。この場合、このパラメーターの値は、コマンドの実行時点での CL 変数の値に応じて、*YES または *NO になります。

CL 変数には 1 つしか値を入れることができません。すなわち、ブランクで区切った値のリストを入れることはできません。

CL プログラム変数の値は、次のタイプのいずれかとして定義することができます。

- 文字: 最高で 9999 文字を含むことができる文字ストリング。文字ストリングは、引用符付きまたは引用符なしのいずれの形式でも指定することができますが、変数に保管されるのはストリング自体に入っている文字のみです。
- 10 進数値: 最高で 15 桁 (小数部分は最高 9 桁) を持つことができるパック 10 進数。
- 論理値: オン/オフ、真/偽、または YES/NO を表す '1' または '0' の論理値。

- **》** 整数値: 符号付き (正または負の値) または符号なし (常に正の値) のいずれかの 2 バイトまたは 4 バイトの 2 進整数値。 **《**

値	宣言可能な CL 変数
名前	文字
日付または時刻	文字
文字ストリング	文字
数字	》 10 進数、整数値、または文字 《
論理値	論理値または文字

式: 式とは、いくつかの定数または変数を演算子によって結合したものであり、1 つの値を生むものです。演算子は、値をどのように組み合わせるかを指定し、結果を導き出すかを指定します。演算子には、算術演算子、文字ストリング演算子、比較演算子、および論理演算子があります。 **》** 式で使用する定数または変数は、文字、10 進数、整数、または論理値にすることができます。 **《** 例えば、(&A + 1) という式は、変数 &A の値に 1 を加えた結果を式の値として使用することを指定します。

文字ストリング式は、CL プログラムの中で `EXPR(*YES)` が定義されている特定のコマンド・パラメータの中で使用することができます。式には、`%BINARY` (または `%BIN`)、`%SUBSTRING` (または `%SST`)、および `%SWITCH` という組み込み関数を含めることができます。これらの関数の詳細については、32 ページの『CL コマンドで使用する式』で説明します。ここでは、式のタイプとそれぞれの例も記載します。

値のリスト: 値のリストとは、1 つのパラメータで指定できる 1 つ以上の値のことです。すべてのパラメータが、このようなリストを受け入れるわけではありません。リスト・パラメータを定義することで、1 つ以上のタイプからなる複数の値の具体的な組み合わせを受け入れることができます。リスト中の値は、1 つ以上のブランクで区切らなければなりません。値のリストはそれぞれ、1 つのパラメータとして扱うことを指示するために、全体を括弧で囲みます。定位置形式でパラメータを指定する場合にも括弧を使用します。あるパラメータについてリストを指定することができるかどうか、およびどのようなリストを指定することができるかについては、該当するコマンドの項の該当するパラメータの説明を参照してください。

リスト・パラメータは、複数個の同種の値のリスト (単純リスト)、または複数個の異種の値のリスト (混合リスト) を受け入れるように定義することができます。どちらのタイプのリストの場合も、リスト中の各値をリスト要素と呼びます。リスト要素には、定数、変数、または他のリストを使用できますが、式は使用できません。

- 単純リスト・パラメータは、パラメータで受け入れられるタイプの 1 つ以上の値を受け入れます。例えば、`(RSMITH BJONES TBROWN)` は 3 つのユーザー名の単純リストです。
- 混合リスト・パラメータは、別個に定義された一定の値のセット (特定の順序になっているもの) を受け入れます。各値は、タイプや範囲など、特定の特性を持つものとして定義することができます。例えば、`LEN(5 2)` は混合リストであり、最初の要素 (5) はフィールドの長さを示し、2 番目の要素 (2) はそのフィールドの小数部分の長さを示しています。
- リストを受け入れるように定義された多くのパラメータには、値のリストの代わりにいくつかの事前に定義された単一値を指定することができます。これらの単一値の 1 つはデフォルト値とすることができます。デフォルト値は、単純リストまたは混合リストにおいて、リストを指定しない場合に指定できる (または想定される) 値です。特定のリスト・パラメータについてどのようなデフォルト値が受け入れられるかについては、そのパラメータが定義され使用されるコマンドの項の該当するパラメータの説明を参照してください。

注: *N は単純リストには指定できませんが、混合リストには指定することができます。また、CALL コマンドおよび CALLPRC コマンドで渡される個々のパラメーターにリストを指定することはできません。

- リスト内リストのネストのレベルは、最初のレベルも含めて最高 3 レベルです。これは 3 つの括弧のネスト・レベルで示されます。

下記にリストの例をいくつか挙げます。

()
KWD() } ヌルのリスト

(A B C)

KWD(A B C)

(1 B & C)

(A B *N C) ← (異種の値のリストを想定)

((A B) (1 2))
((A B) (1 2)) } ネストされたリスト

最後の 2 つの例には、1 つのリストの中にネストされた 2 つのリストが含まれています。最初のリストには A および B という値、2 番目のリストには 1 および 2 という値が含まれています。ネストされた 2 つのリストの間にはスペースは不要です。ネストされた各リストの値の区切り文字には空白が使用されます。また、1 組の括弧を使用してネストされた値をグループ化することで、より大きなリストとして示しています。

コマンド構文

コマンド構文の一般形式は次のとおりです。大括弧はその中のオプションであることを示します。ただし、パラメーター・セットは、コマンド要件によって、オプションであることもそうでないこともあります。

[//] [?] [ラベル名:] [ライブラリー名/] コマンド名
[パラメーター・セット]

注: // が使用できるのは、DATA コマンドなど一部のバッチ・ジョブ制御コマンドの場合のみです。// は、スプール読み取りプログラムに送られるコマンドであることを示します。スプール読み取りプログラムは、バッチ・ジョブ入力ストリームを読み取ります。

コマンド区切り文字

コマンド区切り文字は、コマンドの中で、文字のグループの始まりと終わりを示す特殊文字またはスペースです。区切り文字は、1 つの文字ストリングを個々の部分に分けるために使用するもので、それらの部分が集まって 1 つのコマンドを形成します。コマンドを形成する部分には、コマンド・ラベル、コマンド名、

パラメーター・キーワード、およびパラメーター値があります。パラメーター値として指定できるのは、定数、変数名、リスト、または式です。次の図に、コマンドの各種区切り文字を示します。

区切り文字

```
? LABEL1: DCL PGMVAR(&COST) TYPE(*DEC) LEN(5 2)
```

OS/400^(R) 制御言語では、次の区切り文字が使用されます。

- コロン (:) は、コマンド・ラベルの終わりを示すもので、コマンド・ラベルとコマンド名を区切るために使用されます。
- ブランク・スペースは、コマンド名とパラメーターとの間、およびパラメーターとパラメーターとを区切るために使用されます。また、リスト中の値と値の間もブランクで区切ります。複数のブランクは、引用符で囲んだ文字ストリング、またはアポストロフィで囲んだ注記の中で使われている場合を除いて、1 つのブランクとして扱われます。キーワードと、その値の左括弧との間をブランクで区切ることはできません。
- 括弧 () は、パラメーター値とそのキーワードを区切る場合、値のリストをグループ分けする場合、およびリスト内のリストをグループ分けする場合に使用します。
- 斜線 (/) は、修飾名の各部分またはパス名の各部分を結合します。
 - 修飾オブジェクト名は、ライブラリー修飾子とオブジェクト名の 2 つの部分からなり、次のように斜線で区切られます (LIBX/OBJA)。修飾オブジェクト名の詳細については、51 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』に説明があります。
 - パス名は、検索する 1 つ以上のディレクトリーとオブジェクト名で構成されます ('/Dir1/Dir2/Dir3/ObjA')。
- 10 進数の小数点にはピリオドまたはコンマを使用することができます (3.14 または 3,14)。1 つの値に対して、小数点は 1 つしか使用できません。
- アポストロフィは、引用符付き文字ストリングの始まりと終わりを示します。引用符付き文字ストリングは、256 個の拡張 2 進化 10 進コード (EBCDIC) 文字を任意に組み合わせたもので、定数として使用されます。例えば、'YOU CAN USE \$99@123.45 ()*></ and lowercase letters' は、有効な引用符付き文字ストリングです。

引用符付き文字ストリング内のアポストロフィは、始めのアポストロフィ (区切り文字) と対をなすものと見なされ、終わりのアポストロフィと解釈されてしまうため、引用符付き文字ストリングの中でアポストロフィを使用する場合には、2 重のアポストロフィを使用しなければなりません。このように使用した場合の隣接する 2 つのアポストロフィは 1 文字として扱われます。

- 日付を、月、日、年の 3 つの部分 (年間通算日の場合は年と月の 2 つの部分) に分けるには、特殊文字を使用します。日付区切り文字として使用できる特殊文字は、斜線 (/)、ハイフン (-)、ピリオド (.), ブランク (), およびコンマ (,) です。コマンド中の日付の区切り文字として使用する特殊文字は、対象のジョブでの日付区切り文字として指定されている特殊文字と、同じでなければなりません。
- /* および */ は、注記の始めと終わりを表し、文字ストリングの中でも使用することができます。注記を開始するには、/* をコマンドの最初の桁に置くか、この 2 文字の前にブランクを 1 つ付けるか、あるいはその後にブランクまたはアスタリスクを 1 つ付けなければなりません。/* または */ がコマンドの後ろの位置に現れた場合には、たいていの場合、アポストロフィで囲まれ、例えばパス名の現行ディレクトリーにあるすべてのオブジェクトなどを表すことができます。パス名の詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

- コマンド名の前の疑問符 (?) は、そのコマンドに関するプロンプトが出されることを示します。コマンドにラベルが付いている場合、疑問符は、ラベルの前に置くことも、ラベルとコマンド名の間に置くこともできます。

CL プログラム内で、コマンド名の前に疑問符がある場合には、プロンプト画面が表示されます。プロンプト画面では、プログラム内でそのコマンド上に指定されていないパラメーターの値を入力することができます。

コマンドへのプロンプト要求文字の組み込みには、2つの形式があります。コマンド名の前 (CL プログラム内のコマンド・ラベルの前または後) にシングルの疑問符 (?) をコーディングすれば、そのコマンド全体についてのプロンプトが表示されます。いずれかのパラメーター・キーワードの前に選択プロンプト要求文字 (?? または ?*) をコーディングすれば、コマンドの実行時にそのパラメーターに関するプロンプトが表示されます。

コマンド入力画面でコマンド名の前に疑問符を入力すれば、コマンドの入力後に F4 (プロンプト) キーを押した場合と同じ結果が得られます。

CL プログラム内で、コマンド名の前に疑問符が付いていると、プロンプト画面が表示されます。この画面は、コマンド入力画面で F4 キーを押した場合に表示される画面と同じ形式のものです。コマンドのパラメーターのうち、プログラム内で値がコーディングされているパラメーターも、単なる情報として表示されますが、このようにプログラムから提供された値を、ユーザーが変更することはできません。値の指定されていないパラメーターは入力フィールドとして表示されるので、ユーザーはコマンドの処理に使用する値を入力することができます。

選択プロンプト要求を使用すれば、コマンドの特定のパラメーターについて、プロンプトを表示させることができます。選択プロンプトを呼び出すためには、プロンプトを表示したいパラメーター (1 つまたは複数) のキーワード名の直前に、??、?*、または ?- をコーディングします。プロンプトに関する詳細

については、「CL プログラミング」  を参照してください。

注:

- 選択プロンプトは、コマンド・ストリング (*CMDSTR) パラメーターとともに使用することはできません。
- コマンドのパラメーターのうち、前に ?* のついたパラメーターは、表示はされますが、プログラムが提供する値を変更することはできません。前に ?? のついたパラメーターは、プログラム内でコーディングされている値、またはコマンドのデフォルトが入った入力フィールドとして表示されるため、ユーザーは、コマンドの処理に使用する値を入力または変更することができます。前に ?- のついたパラメーターは、表示画面上で省略されるパラメーターです。選択プロンプト要求で出されたすべてのパラメーターは、キーワード形式、または値付きのキーワード形式でコーディングしなければなりません。1つのコマンドで、いくつかのパラメーターに、選択プロンプト要求を指定することもできます。選択プロンプトを呼び出す場合には、前に選択プロンプト要求文字が付いているキーワードについてのみ、プロンプトが表示されます。その他のパラメーターは、コマンド上にコーディングされている値 (値がコーディングされていなければ、コマンドのデフォルト) を使用して処理されます。

CL プログラム内の 1 つのコマンドについて、上記の 2 つのプロンプト方式のいずれも使用することができますが、両方を使用することはできません。コマンド名の前に ? があり、いずれかのキーワードの前に、選択プロンプト要求文字 (?- を除く) がある場合は、エラー・メッセージが出され、プログラムは作成されません。

詳細については、23 ページの『一般的なコマンド・コーディング規則の要約』を参照してください。

コマンドの継続

コマンドは自由形式で入力することができます。つまり、コーディング用紙または画面上の決まった位置から、コマンドを開始する必要はありません。コマンドは、その全体を 1 つのレコードに収めることも、複数の行またはレコードに継続させることもできます。▶ 継続するかどうかに関わらず、コマンドの長さの合計は、32,702 文字を超えることはできません。◀ コマンドの継続を示すためには、その行の最後の非ブランク文字として、2 つの特殊文字、すなわち正符号 (+) または負符号 (-) のいずれかを入力します。+ または - 符号のすぐ前のブランクは常にコマンドに含まれ、同じレコード内の + または - のすぐ後のブランクは無視されます。次のレコードの最初の非ブランク文字より前のブランクは、+ を指定した場合には無視されますが、- を指定した場合にはコマンドに含まれます。

一般に、+ はパラメーター相互間または値相互間で使用すると便利です。パラメーター相互間または値相互間で正符号を使用する場合には、符号の前に少なくとも 1 つのブランクを置かなければなりません。正符号と負符号の使い分けは、引用符付きの文字ストリングの途中で継続が生じた場合に、特に重要な意味を持ちます。

次の例でこの違いを示します。コードの例に関する情報は、『コードに関する特記事項 (2 ページ)』を参照してください。

```
CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT+
    INUED')
```

```
CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT-
    INUED')
```

+ の場合: CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONTINUED')

- の場合: CRTLIB LIB(XYZ) TEXT('This is CONT INUED')

注:

- 負符号を指定すると、次の行の先行ブランクがコマンドに含まれます。
- 継続文字としての + および - は CL プログラム内でのみ使用できます。コマンド入力画面で + または - を使用するとエラーが起こります。
- + および - は、単一コマンドの例ではなく、複数コマンドの例に使用されています。

コマンドへの注記の入力

注記はブランクが使用できる箇所であれば、コマンドの文字ストリングの中でも外でも使用することができます。ただし、継続文字は行 (またはレコード) の最後の非ブランク文字でなければならないため、その行の継続文字の後に注記を入れることはできません。

次の例に示すように、注記は、それに関連したコマンドの前または後に独立した行を設けてコーディングする方が、読みやすくなり便利です。

```
MOVOBJ OBJA TOLIB(LIBY)
    /* Object OBJA is moved to library LIBY. */
DLTLIB LIBX
    /* Library LIBX is deleted. */
```

注記には、256 個の EBCDIC 文字のどれでも使用することができます。ただし、*/ という文字の組み合わせは注記の終わりを示すので、これを注記の中で使用することはできません。注記を開始するには、/* をコマンドの最初の桁に置くか、その前にブランクを 1 つ付けるか、あるいはその後にブランクまたはアスタリスクを 1 つ付けなければなりません。

一般的なコマンド・コーディング規則の要約

ここでは、CL コマンドを正しくコーディングするために必要な一般情報を要約します。

区切り文字

- ブランクは、コマンドの各部分の間に使用される基本的な区切り文字です。
 - コマンド・ラベルとコマンド名との間 (区切り文字としてコロン (:)) が使用されるため、ブランクは必須ではありません。
 - コマンド名と最初のパラメーターの間、およびパラメーターとパラメーターの間。
 - 値のリスト内の値と値との間 (リスト内のネストされたリストの、終わりの括弧と始めの括弧の間には必要ありません)。
 - // DATA などのジョブ制御コマンドにおける斜線と、名前またはラベルとの間 (必須ではありません)。
- パラメーターのキーワードと、そのパラメーターの値の前にある左括弧との間を、ブランクで区切ることはできません。キーワードを使用する場合には、値を括弧で囲まなければなりません。括弧と値の間にブランクを入れることができます。例えば、KWD(A) のようにすることができます。
- 複数のブランクは、引用符付きストリングまたは注記の中で使用されている場合を除いて、1 個のブランクとして扱われます。
- コマンド・ラベルの直後にはコロンを付けなければなりません。どのコマンドでも、ラベルは 1 つしか使用することができません (LABEL1: DCLF)。
- 引用符付き文字ストリングの始めと終わりには、アポストロフィを使用します。ブランクなどの特殊文字を含む文字ストリングの場合には、アポストロフィは必須です。引用符付きストリングの中でアポストロフィを使用しなければならない場合には、それが引用符付き文字ストリングの終わりを示すアポストロフィでないことを示すために、アポストロフィを 2 つ連続して使用する必要があります。
- 次の場合には括弧を使用しなければなりません。
 - パラメーターをキーワード形式で指定 (コーディング) する場合。
 - 定位置パラメーターで複数の値をまとめて 1 つのリストにする場合、または式の前後。
 - 他の リストの中にリスト (要素なし、または 1 つ以上の要素のある) をネストして指定する場合。
- 括弧内括弧は、それぞれ対になっていれば、論理式の中では最高 5 レベルまで、値のリストでは最高 3 レベルまでネストすることができます。
- 注記は、行 (またはレコード) の継続文字の後を除いて、ブランクが許されるのであればどこにでも入れることができます。
- 行の終わりの正符号または負符号は、コマンドが次の行に続くことを示します。同じレコード内の + または - 符号の後ろにあるブランクは無視されます。次のレコードの最初の非ブランク文字より前にあるブランクは、+ が指定されている場合には無視され、- が指定されている場合には組み込まれます。パラメーターとパラメーターの間、または値と値の間で + 符号を使用する場合には、その前にブランクを 1 つ置かなければなりません。

パラメーター

- 必須パラメーターはすべてコーディングする必要があります。
- オプション・パラメーターをコーディングしなかった場合には、そのパラメーターにデフォルト値があればシステムはそれを使用します。 ➤ デフォルト値は、パラメーターの要約表の選択項目欄に太字の下線付きテキストの値で示されます。 ⚡
- コマンドおよびパラメーターの説明の中で英字の大文字で示されている語句または略語は、そのとおりにコーディングしなければなりません。これは、すべての簡略コマンド名、パラメーターのキーワード

(使用する場合)、および多くのパラメーターの値に当てはまります。引用符付きストリングまたは注記以外のところで小文字をコーディングした場合には、それぞれ対応する大文字に変換されます。

CASE(*MIXED) として定義されたパラメーターに値として指定された小文字は、大文字に変換されません。

- キー・パラメーターがある場合には、キー・パラメーターのために使用する値を、残りのパラメーターが表示される前にプロンプトに入力しなければなりません。▶ パラメーターの要約表の「注 (Notes)」欄には、キー・パラメーター (存在する場合) であるパラメーターを示します。◀
- ▶ コマンド・オブジェクトに定義されている定位置パラメーター制限の後のパラメーターは、定位置形式でコーディングすることができません。パラメーターの要約表の「注 (Notes)」欄には、定位置形式で指定できるパラメーターを示します。◀

パラメーター値

- すべての名前は、最初の文字が英字 (A から Z、\$, #、@ または 2 重引用符 (“)) でなければなりません。名前の長さは 10 文字以下でなければなりません (CL 変数名および組み込み関数名は、名前の最初に付ける & または % も含めて、最高 11 文字まで使用することができます)。コマンドによっては、オブジェクトの名前を、修飾形式 (ライブラリー名/オブジェクト名)、またはパス名形式 (ディレクトリー名/オブジェクト名) で、指定できるものもあります。
- アスタリスクで始まる事前定義値は、注記または引用符付きストリング内で使用する場合を除いて、定められた目的以外の用途に用いることはできません。事前定義値には、事前定義パラメーターの値 (*ALL など)、記号演算子 (*EQ など)、およびヌル値 (*N) があります。
- CL プログラム内では、明示的に禁止されている箇所を除いて、すべてのパラメーターに対して変数を指定できます。変数のユーザー指定値は、コマンドでその値が指定された場合と同じに扱われます。
- CL プログラム内では、EXPR(*YES) の指定されているどのパラメーターにも、文字ストリング式を指定できます。式の演算結果の値が、コマンドでその値が指定された場合と同じに扱われます。
- ヌル値 (省略を表す) は、*N で指定します。これは、該当するパラメーターについて値が指定されていないため、デフォルト値があればそれが使用されるということを意味します。*N が必要となるのは、省略した値の次の値を定位置パラメーターまたはリスト要素として指定する場合のみです。
- 数値内の小数点には、コンマまたはピリオドのいずれかを使用できます。小数点は、数値ストリングの中の数字と数字の間で使用できる唯一の特殊文字です。例えば、3 桁ごとの区切りを示す記号は使用しません。
- パラメーターの反復が指示されている場合には、
 - 事前定義値は、一連の値の中で 2 回以上コーディングすることはできません。
 - ユーザー定義値 (名前または数値の範囲など) は、異なる値や名前がいくつあっても、そのそれぞれについて、許される最大反復回数まで入力できます。▶ 例えば、パラメーターの記述に「20 回まで反復可能」とある場合には、最大で値 20 を指定できます。◀

注: 別々のコマンドで同じ名前のパラメーターを使用する場合、そのパラメーターの意味 (または値) は、コマンドごとに多少異なる場合があります。したがって、パラメーターの説明を読む際には、必ず、使用しようとしているコマンドの項に示されている説明をお読みください。また、一部のパラメーターについては、57 ページの『一般に使用されるパラメーター: 補足説明』にも、パラメーターに関する一般的な説明、およびコマンドでコーディングするパラメーター値に関する補足説明が記載されています。

CL コマンドでの 2 バイト文字テキスト

記述テキストが使用できる CL コマンドの中なら、どこにでも 2 バイト文字データを使用することができます。

2 バイト文字テキストは次の方法で入力してください。

1. 2 バイト文字テキストの始めに、まずアポストロフィ (') を入力します。
2. シフトアウト文字を入力します。
3. 2 バイト文字テキストを入力します。
4. シフトイン文字を入力します。
5. 2 バイト文字テキストの終わりにアポストロフィ (') を入力します。



例えば、ABC という 2 バイト文字のリテラルを入力するには、次のようにします。 ⁸ はシフトアウト文字を表し、 ⁹ はシフトイン文字を表します。

・ ⁸ABC ⁹,



記述の表示および印刷が正しくできるようにするためには、1 つのオブジェクトの 2 バイト文字テキスト記述の長さを、2 バイト文字 14 文字にシフト制御文字の 2 文字分を加えた長さ限定してください。

CL プログラム

制御言語 (CL) プログラムとは、制御言語コマンドのみで構成されているソース・ステートメントから作成されるプログラムです。

CL プログラム関連の概念については、以下を参照してください。

- 『CL 文字セットおよび値』
- 28 ページの『コマンド内での命名』
- 32 ページの『CL コマンドで使用する式』

CL 文字セットおよび値

このセクションでは、EBCDIC 文字セット、特殊文字、および IBM[®] 定義の固定値 (事前定義値と呼びます) の使用方法について説明します。

以下を参照してください。

- 『文字セット』
- 26 ページの『特殊文字の使用法』
- 28 ページの『事前定義値』

文字セット: 制御言語では、拡張 2 進化 10 進コード (EBCDIC) 文字セットを使用します。制御言語で使用される文字と EBCDIC 文字セット内の文字との関係をわかりやすくするために、制御言語では EBCDIC 文字を次のようなカテゴリーに分類するものとします。

カテゴリー	含まれる文字
英字 ¹	26 個の英字 (A から Z)、\$, #、および @
数字	10 個の数字 (0 から 9)
英数字 ^{1,2}	A から Z、0 から 9、\$, #、@、ピリオド (.), および下線 (_)
特殊文字	上記以外のすべての EBCDIC 文字 (CL で特殊な働きをする文字については、26 ページの『特殊文字の使用法』を参照)。

カテゴリー

含まれる文字

注:

- ¹ 小文字 (a から z) も受け入れられますが、システムによりそれぞれ対応する大文字に変換されます。ただし、コマンド定義内にある以下のものは変換されません。すなわち、引用符に囲まれた文字列、注記、文字 (*CHAR) 属性またはパス名 (*PNAME) 属性を持つ TYPE パラメーター上に指定された値、混合文字 (*MIXED) 属性を持つ CASE パラメーター上に指定された値です。
- ² 下線 (_) は、英数字の結合子であり、 OS/400^(R) CL では、語または英数字を連結して名前 (例えば PAYLIB_01) を作るために使用することができます。このような下線の用法は、他の高水準言語では無効な場合もあります。

最初の 3 つのカテゴリーに含まれる文字は、引用符付き文字ストリングの中でも、引用符なしの文字ストリングの中でもまた、注記の中でも、CL 名 (コマンド、ラベル、キーワード、変数、および OS/400 オブジェクトの名前など) の中でも使用できます。最後のカテゴリーに属する特殊文字は、引用符付き文字ストリングおよび注記の中でのみ使用することができ、引用符なしの文字ストリングの中では使用することができません。ただし、一部の文字については、CL コマンドの中の所定の箇所でコーディングすれば、構文上の特殊な意味に使用できます。このような使用方法については、『特殊文字の使用法』の図表で説明します。

特殊文字の使用法: 以下に示す EBCDIC 特殊文字は、CL の中でさまざまな用途に使用されます。最も多い使用方法としては、区切り文字としての使用 (これについては、19 ページの『コマンド区切り文字』に説明があります。) と、式の中の記号演算子としての使用があります。記号演算子の詳細については、以下を参照してください。

- 27 ページの『記号演算子』
- 36 ページの『式の中の演算子』にある式のタイプに関する説明

特殊文字は、このような特殊な用途で使用するか、あるいは引用符付き文字ストリングまたは注記内でしか使用できません。制御言語コマンドで使用する場合の各特殊文字の意味は、次の表に示すとおりです。

区切り文字

名前	記号	意味
アポストロフィ	' '	シングル・アポストロフィ区切り文字は、引用符付き文字ストリング (定数) の始めと終わりを示します。
注記の始めと終わり ブランク	/* */ b1	注記の始めと終わりを示します。 コマンドの構成要素 (ラベル、コマンド名、およびそのパラメーター) を区切るため、およびリスト中の値を区切るための基本的な区切り文字。
コロン	:	コマンド・ラベルの終わりを示す区切り文字。時刻の値の構成要素を区切るためにも使用されます。 ³
コンマ	,	多くの国で数値の小数点として使用されます。日付の値の構成要素を区切ります。 ²
左右の括弧	()	リストおよびパラメーター値のグループ化のための区切り文字、および式の順序を識別するための文字。
ピリオド	.	小数点。文書名およびフォルダー名の名前と拡張子を区切るために使用されます。また、日付の値の構成要素を区切るためにも使用されます。 ²
引用符	" "	引用符付きオブジェクト名の始め。
斜線	/	修飾名またはパス名の各部分を連結します。
2 重斜線	//	ジョブ・ストリーム中の BCHJOB、ENDBCHJOB、および DATA コマンドの 1 桁目および 2 桁目で使用する識別文字。インライン・データ・ファイルでのデフォルトの区切り文字としても使用されます。

名前	記号	意味
----	----	----

- 注:
- ¹ ^b は、本書のオンライン・バージョンでは空白・スペースが表示されないため、他の方法で明確に示すことができない場合にのみ、空白・スペースを表すために使用されます。
 - ² ジョブ日付区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。
 - ³ ジョブ時刻区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。

記号演算子: 次の文字は、CL コマンドで記号演算子として使用されます。

名前	記号	意味
AND	&	AND を表す記号論理演算子。
アスタリスク	*	乗算演算子。名前の最後の文字として使用した場合には、総称名を表します。ストリングの最初の文字として使用した場合には、OS/400 ^(R) の予約値 (事前定義パラメータ値および式演算子) を表します。
連結	>, <, および ³	文字ストリング演算子 (2 つの値を結合することを示します)。これらの連結演算子の相違点については、18 ページの『式』を参照してください。
等しい	=	等しい ことを表す記号比較演算子。
より大きい	>	より大きい ことを表す記号比較演算子。
より小さい	<	より小さい ことを表す記号比較演算子。
負符号 (ハイフン)	-	減算演算子、コマンド継続文字、および負符号。日付の値の構成要素を区切ります。 ¹
否定	¬ ²	否定を表す記号比較演算子。
OR	³	OR を表す記号論理演算子。
プラス	+	加算演算子、コマンド継続文字、および正符号。
斜線	/	除算演算子。日付の値の構成要素を区切ります。 ¹ 修飾名の各部分を区切るためにも使用されます。

注:

- ¹ ジョブ日付区切り文字の値として同じ文字が指定されている場合に限り有効です。
- ² 一部の文字セット (各国間共通文字セットを含む) では、¬ 文字の代わりに文字 ^ が使用されます。このような文字セットでは、論理 NOT 演算子として ^ または *NOT を使用することができます。
- ³ ある種の文字セット (各国共通文字セットを含む) では、| の代わりに ! が使用されます。このような文字セットでは、論理 OR 演算子として ! または *OR を使用することができ、また連結演算子として !! または *CAT を使用することができます。

注:

記号演算子は、36 ページの『式の中の演算子』の図に示すように、いくつか組み合わせて使用することもできます。

記号演算子: その他の使用方法

記号演算子は、次のように使用することもできます。

名前	記号	意味
アンパーサンド	&	ストリングの最初の文字として使用した場合、そのストリングが CL 変数名であることを示します。
パーセント	%	ストリングの最初の文字として使用した場合、そのストリングが組み込みシステム関数であることを示します。

名前	記号	意味
疑問符	?	コマンド名またはキーワード名の前に使用した場合、プロンプトを要求することを指定します。

事前定義値: 事前定義値は、CL の中での用法があらかじめ定められている IBM[®] 定義の固定値であり、OS/400^(R) システムにおける予約値と見なされます。事前定義値は、アスタリスク (*) の後に 1 つの語または略語を付けたもので、例えば *ALL や *PGM などがこれにあたります。事前定義値で * を使用する目的は、オブジェクト名などのようなユーザー指定の値と混同されるのを防ぐためです。事前定義値には、それぞれ、1 つ以上のコマンド・パラメーター内での所定の用法があります。これについては、各コマンドの項で詳しく説明されています。

事前定義値には、*EQ および *AND などのように式の中で演算子として使用されるものもあります。事前定義値 *N はヌル値を指定するためのもので、オプション・パラメーターを表すために使用することができます。ヌル値 (*N) は、値の指定されていないパラメーターの位置を示します。これを使用することにより、後続のパラメーターを定位置形式で入力することができます。文字 *N を文字の値として (ヌル値としてではなく) 指定するためには、受け渡すするストリングをアポストロフィで囲まなければなりません (*'N')。また、CL プログラムの実行時に CL プログラム変数の中に *N が現れた場合も、常にヌル値として扱われます。

コマンド内での命名

名前の指定に使用できる文字は、OS/400^(R) 制御言語で指定する名前のタイプによって決まります。名前のタイプによっては、使用できる文字に制約があります。名前のタイプには、*NAME、*SNAME、および *CNAME があります。

注: コマンド定義を使用してコマンドを作成する際にこれらの名前を指定する方法の説明については、42 ページの『コマンド定義ステートメント』の PARM (パラメーター) ステートメントおよび ELEM (要素) ステートメントを参照してください。

『*NAME、*SNAME、および *CNAME に使用可能な文字』で、*NAME、*SNAME、および *CNAME の名前で使用できる文字、およびそれらの名前を指定するために使用する規則について説明します。

➤ コマンド内での命名についての詳細は、以下を参照してください。

- フォルダーおよび文書の名前の指定方法については、30 ページの『フォルダー名および文書名』を参照してください。
- 統合ファイル・システムでオブジェクトの名前を指定する方法については、55 ページの『パス名 (*PNAME)』を参照してください。◀

***NAME、*SNAME、および *CNAME に使用可能な文字:**

名前のタイプ	最初の文字	その他の文字	最小長	最大長
*NAME ¹	A から Z、 \$, #, @	A から Z、 0 から 9、 #, @、_、.	1	256
*SNAME ¹	A から Z、 \$, #, @	A から Z、 0 から 9、 \$, #、@、_	1	256

名前のタイプ	最初の文字	その他の文字	最小長	最大長
*NAME ¹	A から Z、 \$, #, @	A から Z、 0 から 9、 \$, #, @		
引用符付き名 ²	" ³	ブランク、 *, ?, ', “, X'00' か ら X'3F', および X'FF' を除く任意の文 字	3	256
注: ¹ このシステムでは、小文字が大文字に変換されます。 ² 二重引用符が使用できるのは基本名 (*NAME) のみです。 ³ 最初と最後の文字は二重引用符 (") でなければなりません。				

***NAME (基本名):** 基本名は、A から Z、\$, #、または @ のいずれかの文字で始めることができ、その後、9 文字以下の文字が指定できます。2 文字目以降には、最初の文字と同じ文字のほか、数字 0 から 9、下線 (_), およびピリオド (.) も使用できます。小文字はこのシステムによって大文字に変換されます。IBM[®] 提供のコマンドで使用する基本名は 10 文字以下でなければなりません。しかし、ユーザー定義のコマンドでは、タイプ *NAME のパラメーター (PARM ステートメント、または ELEM ステートメントの TYPE パラメーターで指定される) を、最大 256 文字で定義することができます。

基本名の例を次に示します。

```
A987@.442#   ONE_NAME   LIB_0690   $LIBX
```

名前は引用符付きの形式でも引用符のない形式でも入力することができます。引用符付きの形式を使用する場合には、次の規則および考慮事項にも従ってください。

***NAME (引用符付きの基本名):** 引用符付きの名前は、引用符 (") で始まり、引用符で終わっていなければなりません。2 つの引用符の間には、 _ , * , ? , ' , “ , 16 進数 00 から 3F および 16 進数 FF を除く任意の文字を使用することができ、区切り文字には斜線を使用します。引用符付きの名前には、グラフィック文字を使用することもできます。IBM 提供のコマンドで使用される引用符付きの基本名は、両端の 2 重引用符を除いて 8 文字以下でなければなりません。ユーザー定義のコマンドでは、引用符付きのタイプ *NAME のパラメーターとして、両端の 2 重引用符を除いて最大 254 文字の名前を定義することができます。

注: 引用符付きの形式で使用できるのは基本名のみです。

引用符付きの名前の例を次に示します。

```
"A"           "AA%abc"       "ABC%abc"
```

引用符付きの名前を使用する場合には、以下に示す制約に注意してください。

- 名前の中のコード・ポイントは、すべてのキーボードからアドレス指定できるとは限りません。
- 引用符付きの名前の中の文字は、高水準言語では無効となるものもあります。
- システム/38[™] 環境は、単純名 (*SNAME) のみサポートします。他の文字を使用した場合は、このオブジェクトをシステム/38 環境オブジェクトとしてアクセスすることはできません。

- システム/36™ 環境では、制御言語の指定変更を使用しない限り、8 文字を超える名前にアクセスすることができません。
- ピリオドを含む構造化照会言語 (SQL) 名は、SQL ステートメントの中で引用符で囲んで指定しなければなりません。

引用符で囲んだ名前が、引用符を外した状態で基本名として有効な名前である場合には、引用符が除去されます。例えば、“ABC” は ABC と同じであると見なされます。引用符は除去されているため、名前の長さには含まれません。したがって、“ABCDEFGHJIJ” は、引用符を含めれば 10 文字を超えていますが、IBM のコマンドでも有効な名前と見なされます。

***SNAME (単純名):** 単純名は、引用符の付いていない基本名と同じですが、相違点が 1 つあります。単純名ではピリオド (.) は使用できません。制御言語の構文を簡素化するために、CL 変数、ラベル、およびキーワードには、単純名が使用されます。

単純名の例を次に示します。

```
NEWCMD    LIB_2
```

***CNAME (通信名):** 通信名は、次の点を除いて、引用符の付いていない基本名と同じです。

1. ピリオド (.) および下線 (_) は使用できません。
2. IBM 提供のコマンドの場合には、*CNAME は 8 文字以下でなければなりません。

通信名の例を次に示します。

```
APPN30@
```

注: 非 IBM システムでは制約のある文字セットを使用している場合があるため、特殊文字 #、\$、および @ を名前に使用する場合には特に注意してください。リモート・システムのキーボードに、これらの特殊文字がない場合があります。リモート・システムとの間で交換する可能性のある名前には次のものがあります。

- ネットワーク識別コード
- ロケーション名
- モード名
- サービスのクラス名
- 制御点名

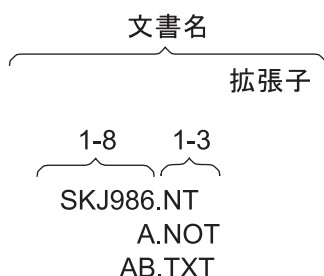
フォルダー名および文書名: フォルダーには、フォルダーの内容が分かるような名前を付けてください。フォルダー名はそれぞれ固有のものでなければなりません。また、ユーザーが内容を判断しやすいということのほかに、できる限り入力しやすい名前にすることも必要です。システムの特定のフォルダーを見つけてその中の文書を変更するためには、そのフォルダー名を指定するか、あるいは、名前のリストから該当のフォルダー名を選択しなければなりません。

文書には、その文書の内容を表すような名前を付けてください。命名の際には、後で文書を見つけやすくするための十分な配慮が必要です。文書名は、フォルダーの中で固有のものでなければなりません。また、内容を判断しやすいということのほかに、できる限り入力しやすい名前にすることも必要です。

フォルダーまたは文書に使用する名前は、以下の規則に従ったものでなければなりません。

- 名前はフォルダーの中で固有のものでなければなりません。
- 文書名またはフォルダー名は、オプションの拡張子も含めて、長さが 1 から 12 文字でなければなりません。拡張子を使用しない場合の文書名またはフォルダー名は、長さが 8 文字以下でなければなりません。

ん。拡張子 (使用する場合は、ピリオドで始まり、その後に最高 3 文字を付けることができます。文書名に拡張子を使用し、拡張子で文書を識別できるようにしておけば、システム内にある文書の選択リストを作成する際に役に立ちます。



- 文書名またはフォルダー名には任意の 1 バイト EBCDIC 文字を入れることができますが、次の特殊文字は使用できません。これらの文字はシステムが別の用途に使用します。

文字	特別な用途
アスタリスク (*)	乗算演算子、総称名、または OS/400 ^(R) の予約値を表します。
斜線 (/)	除算演算子、システム値の区切り文字、または修飾オブジェクト名の各部分を区切る文字として使用されます。
疑問符 (?)	システム・ヘルプに対する要求を開始するための文字です。

- あるフォルダーが別のフォルダーに保管されている場合には、両方のフォルダー名を斜線 (/) で区切って使用します。このように組み合わせた名前を**フォルダー・パス**と呼びます。例えば、FOLDR2 を FOLDR1 に保管させた場合、FOLDR2 のパスは FOLDR1/FOLDR2 となります。FOLDR1 が**第 1 レベル・フォルダー**で、FOLDR2 が**次レベル・フォルダー**です。1 つのフォルダーの名前の長さは、オプションの拡張子も含めて 1 から 12 文字です。1 つのフォルダー・パスには、最高 63 文字を入れることができます。

システム提供のフォルダー名は Q で始まっているため、ユーザーのフォルダー名の最初の文字には Q を使用することはできません。以下に、有効なフォルダー名およびフォルダー・パスの例を示します。

```


@LETTERS
FOLDER.PAY
PAYROLL/FOLDER.PAY
#TAX1/FOLD8.TAX/$1988/PAYROLL/FOLDER.PAY
  
```

注:

- CL コマンドでは、システムが修飾名 (ライブラリー名/オブジェクト名) と混同することを避けるために、フォルダー・パス名はアポストロフィで囲まなければなりません。名前の一部としてアポストロフィを含める場合には、2 つの連続したアポストロフィを使用してください。
- 多くの CL コマンドが、文書とフォルダーのいずれか一方に対して働きますが、両方に対して働くものもいくつかあります。文書またはフォルダーのいずれかを参照するには、省略語の DLO (文書ライブラリー・オブジェクト) を用います。
- CL コマンドでは、CL の区切り文字を含むフォルダー名または文書名は、アポストロフィで囲まなければなりません。
- システムはグラフィック文字を認識することはできません。認識するのはコード・ポイントのみであり、さらに以下のことが前提となっています。

- フォルダー名および文書名はすべて、1 バイト EBCDIC コード・ページを使用してコード化されていること。これらのコード・ページの中で、グラフィック文字を表すのは、16 進数 41 から FE までのコード・ポイントのみであり、したがって、フォルダー名および文書名の中で使用できるのはこれらのコード・ポイントのみです。
- 16 進数 5C、61、および 6F のコード・ポイントはそれぞれ、アスタリスク (*)、斜線 (/)、疑問符 (?) であり、これらはフォルダー名および文書の中では使用できません。
- 英字の小文字に該当するコード・ポイント (16 進数 81 から 89、91 から 99、および A2 から A9) は、大文字のコード・ポイント (C1 から C9、D1 から D9、および E2 から E9) に変換されます。

OS/400 のサポートするコード・ページの詳細については、「AS/400 アドバンスド・シリーズ 装置構成」

 の第 5 章や、CRTDEV DSP (装置記述の作成 (表示装置)) コマンドの説明を参照してください。

システム内部では、フォルダーおよび文書は、上述したフォルダー名および文書名に加え、システム・オブジェクト名によって類別されます。システム・オブジェクト名は、日付/タイム・スタンプから抽出された 10 文字の名前で、これは通常ユーザーには知らされませんが、一部の CL コマンドでは、フォルダー名または文書名として *SYSOBJNAM を指定し、別のパラメーターでシステム・オブジェクト名を指定することによって、この名前を指定できます。

詳細については、28 ページの『コマンド内での命名』を参照してください。

CL コマンドで使用する式

文字ストリング式は、コマンド定義オブジェクトで EXPR(*YES) が定義されているどのようなパラメーター、要素、または修飾子にも使用することができます。変数変更 (CHGVAR) コマンドおよび IF コマンドでは、どのような式でも単一のパラメーターとして使用できます。単純な式の形式としては、1 つの定数、1 つの変数、または 1 つの組み込み関数があります。通常の式は、2 つのオペランドと 1 つの演算子によって構成されます。演算子は、その式でどのような評価 (演算) を行うかを指定します。複数の式を組み合わせると複合式とすることもできます。

CL プログラムでは次のタイプの式を使用することができます。

- 33 ページの『算術式』 (&VAR + 15)
- 33 ページの『文字ストリング式』 (SIX || TEEN)
- 35 ページの『比較式』 (&VAR > 15)
- 36 ページの『論理式』 (&VAR & &TEST)

複合式は、複数のオペランド、それらのオペランドに対して行う演算を指定する演算子、および、オペランドと演算子とをまとめる括弧によって構成されます。オペランドとオペランドとの間には演算子を 1 つしか使用できません。ただし、符号として 10 進数値の前につく + および - 符号、ならびに論理式の中で使用される *NOT 演算子を除きます。

複合式で使用できる括弧のネストのレベル数は、最も外側の括弧 (必須) も含めて最高 5 レベルまでです。

算術式と文字ストリング式は、比較演算子および論理演算子とともに使用すれば、複合式の中で同時に使用することができます。例えば、(A=B&(1+2)=3) となります。1 つの比較式の中で、1 組の算術式または 1 組の文字ストリング式を比較できます。また、1 つの論理式の中で、いくつかの比較式を使用することもできます。

算術式: **▶** 算術式中のオペランドは、10 進定数であるか、あるいは 10 進 または整数 CL 変数でなければなりません。**◀** オペランドの間には、算術演算子 (記号形式のみ) がなければなりません。算術式の演算結果はすべて 10 進数値であり、その結果は CL 変数に保管することができます。

注: 除算演算子 (/) の場合、その前のオペランドが変数名である場合には、演算子の前に空白を 1 つ付けなければなりません。(例えば、&A/2 とせずに、&A /2 とします。) その他の演算子の場合、前後の空白の使用は任意です。

▶ 算術オペランドは、符号付きでも符号なしでも構いません。すなわち、各オペランドは (数値定数でも、10 進 または整数 CL 変数でも)、その直前に正符号 (+) または負符号 (-) を付けることができます。ただし、符号は必須ではありません。**◀** 符号として使用する場合は、+ や - とその値の間に空白は入りません。例えば、23.7 という 10 進定数は、+23.7 もしくは -23.7 (符号付き)、または 23.7 (符号なし) と表すことができます。

下記に算術式の例をいくつか挙げます。

(&A + 1)	(&A + &B -15)
(&A - &F)	(&A+&B-15)
(&A + (-&B))	

ある行の空白以外の最後の文字が + または - である場合には、それは、算術演算子ではなく継続文字として扱われます。

文字ストリング式: 文字ストリング式のオペランドは、引用符付きもしくは引用符なしの文字ストリング、文字変数、またはサブストリング (%SUBSTRING または %SST) 組み込み関数でなければなりません。各変数または組み込み関数に結び付いている値は、いずれも文字ストリングでなければなりません。連結の結果も文字ストリングになります。

文字ストリング式では、次の 3 つの演算子を使用できます。これらの演算子はいずれも文字ストリングを連結 (結合) するものですが、それぞれの機能に若干の相違があります。すなわち、

- *CAT (連結、記号 ||)

*CAT 演算子

*CAT 演算子は次の例のように 2 つの文字ストリングを連結します。例を以下に示します。

ABC *CAT DEF は ABCDEF
となります。

空白は、次の例のように連結の結果に含まれます。例を以下に示します。

'ABC '
*CAT 'DEF ' は 'ABC DEF ' となります。

- *BCAT (空白挿入連結、記号 |>)

*BCAT 演算子

*BCAT 演算子の場合には、最初の文字ストリングの後書き空白はすべて切り捨てられ、1 つの空白が挿入された上で、2 つの文字ストリングが連結されます。2 番目のオペランドの先行空白は切り捨てられません。例を以下に示します。

ABC *BCAT DEF は ABC DEF となります。
'ABC ' *BCAT DEF は 'ABC DEF' となります。

- *TCAT (後書き空白切り捨て連結、記号 |<)

*TCAT 演算子

*TCAT 演算子の場合には、最初の文字ストリングのすべての後書きブランクが切り捨てられた上で、2つの文字ストリングが連結されます。2番目のオペランドの先行ブランクは切り捨てられません。例を以下に示します。

ABC *TCAT DEF は ABCDEF となります。

'ABC ' *TCAT DEF は 'ABCDEF' となります。

ABC *TCAT ' DEF'は'ABC DEF'

となります。'ABC ' *TCAT ' DEF'は 'ABC DEF' となります。

連結演算子の両側のブランクはすべて無視されますが、事前定義値の演算子 (*CAT、*BCAT、または *TCAT) の前後には、それぞれ少なくとも 1 つはブランクがなければなりません。式の中で複数のブランクを使用する場合には、引用符付き文字ストリング (アポストロフィで囲んだ文字ストリング) を使用しなければなりません。

文字ストリング式に関する詳細については、次の例を参照してください。

- 『例: 文字ストリング式』
- 35 ページの 『例: 文字ストリングおよび変数の使用』

例: 文字ストリング式: 以下に文字ストリング式の例を示します。各変数の値は以下のものとしてします。

変数	値
&AA	'GOOD '
&BB	'REPLACEMENT'
&CC	'ALSO GOOD'
&DD	'METHOD'

式	結果
(&AA &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&AA &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&AA *CAT &BB)	GOOD REPLACEMENT
(&CC > &DD)	ALSO GOOD METHOD
(&CC *BCAT &DD)	ALSO GOOD METHOD
(A *CAT MOUSE)	AMOUSE
('A ' *CAT MOUSE)	A MOUSE
(FAST *CAT MOUSE)	FASTMOUSE
('FAST ' *BCAT MOUSE)	FAST MOUSE
('FAST ' *TCAT MOUSE)	FASTMOUSE
('AB' *CAT 'CD')	ABCD
('AB' *BCAT 'CD')	AB CD
('AB' *TCAT 'CD')	ABCD
(%SST(&AA 1 5)) *CAT (%SST(&BB 3 5))	GOOD PLACE
(%SST(&CC 1 9)) *BCAT (%SST(&BB 3 5))	ALSO GOOD PLACE
(&AA *CAT ' TIME')	GOOD TIME
(&CC *BCAT TIME)	ALSO GOOD TIME

文字ストリングおよび変数を使用した別の例については、以下を参照してください。

- 『例: 文字ストリングおよび変数の使用』

例: 文字ストリングおよび変数の使用: コードの例に関する情報は、『コードに関する特記事項 (2 ページ)』を参照してください。

次の例は、いくつかの文字変数および文字ストリングを連結して、ワークステーション・オペレーターへのメッセージを作成する方法を示しています。この例では、変数 &DAYS および &CUSNUM は、10 進変数ではなく文字変数として宣言されているものとします。

```
DCL      VAR(&MSG)TYPE(*CHAR)      LEN(100)
          *
          *
CHGVAR   &MSG('Customer' *BCAT &CUSNAMD +
            *BCAT'Account Number' *BCAT +
            &CUSNUM *BCAT 'is overdue by' +
            *BCAT &DAYS *BCAT 'days.')
```

各変数が該当の値で置き換えられた結果、次のようなメッセージができあがります。

```
Customer ABC COMPANY Account Number 12345
is overdue by 4 days.
```

変数 &DAYS および &CUSNUM が 10 進変数として宣言されていたとすれば、さらに別の 2 つの CHGVAR コマンドを使用して 10 進変数を文字変数に変更しない限り、連結を行うことはできません。例えば、プログラムの中で &DAYSALPH および &CUSNUMALPH という 2 つの文字変数も宣言されていたとすれば、CHGVAR コマンドは次のようになります。

```
CHGVAR &DAYSALPH &DAYS
```

```
CHGVAR &CUSNUMALPH &CUSNUM
```

この場合は、&MSG 用のすべての変数および文字ストリングを連結する CHGVAR コマンドでは、&DAYS および &CUSNUM の代わりに、新しい変数である &DAYSALPH および &CUSNUMALPH が指定されることとなります。

文字ストリング式を使用した別の例については、以下を参照してください。

- 34 ページの『例: 文字ストリング式』

比較式: 比較式のオペランドは、算術式または文字ストリング式でもよく、また論理定数または論理変数であっても構いません。比較式では、2 つのオペランドと 1 つの演算子しか使用できません。この 2 つのオペランドは、データ・タイプ (算術データ、文字ストリング・データ、または論理データ) が同じでなければなりません。比較式の演算結果は、'0' または '1' の論理値になります。

比較演算子は、記号 (=、>、<、>=、<=、≠、>、≠) またはそれらに対応する予約値 (*EQ、*GT、*LT、*GE、*LE、*NE、*NG、*NL) で指定することができます。それぞれの意味については、36 ページの『式の中の演算子』の表を参照してください。

演算において 2 つの文字フィールドの長さが同じでない場合には、短い方のフィールドの右側にブランクが追加されて、両者の長さが同じになるように調整されます。

算術フィールドは算術的に比較され、文字フィールドは EBCDIC 照合順序に従って比較されます。

論理フィールドを比較する場合、論理値 1 ('1') は論理値 0 ('0') より大きいと見なされます。これを記号で表せば ('1' > '0') となります。

次に、比較式の例を示します。

```
(&X *GT 25)
(&X > 25)
(&X>25)

(&NAME *EQ GSD)
(&NAME *EQ &GSD)
(&NAME *EQ 'GSD')
(&BLANK *EQ ' ')
```

論理式: 論理式のオペランドは、論理演算子で区切られた比較式、論理変数、または定数で構成されています。これらのオペランドを 2 つ以上組み合わせて、論理式の中で 2 つ以上の式を作ることができます。この場合のネストのレベル数は最高 5 レベルまでです。論理式の演算結果は '0' または '1' のいずれかで、これは他の式の一部として使用することも、また論理変数に入れることもできます。

オペランド相互間の関係を指定するために使用する論理演算子は、*AND と *OR (予約値の場合) および & と | (記号の場合) です。AND 演算子は、両方のオペランド (演算子の両側のオペランド) が所定の値を持っている場合に、はじめて特定の結果が得られることを示します。OR 演算子は、いずれか一方のオペランドで結果が決まることを示します。

論理演算子 *NOT (または \neg) は、論理変数または論理定数を否定するために使用されます。*NOT 演算子は常に、*AND または *OR 演算子より先に評価されます。すなわち、*NOT 演算子の後に続くすべてのオペランドは、オペランド相互間の関係より先に評価されます。

以下に論理式の例を示します。

```
((&C *LT 1) *AND (&TIME *GT 1430))
(&C *LT 1 *AND &TIME *GT 1430)
((&C < 1) & (&TIME *GT 1430))
((&C<1)&(&TIME>1430))

(&A *OR *NOT &B)
(&TOWN *EQ CHICAGO *AND &ZIP *EQ 60605)
```

IF コマンドで使用される論理式の 2 つの例を下に示します。

```
IF &A CALL PROG1
IF (&A *OR &B) CALL PROG1
```

式の中の演算子: 式の中で使用する演算子は、その式の中のオペランドに対して行う演算、または、オペランドとオペランドとの関係を指定します。演算子には 4 種類のタイプがあり、それぞれが、次の式のタイプに対応しています。

- 算術演算子 (+、-、*、/)
- 文字演算子 (||、|>、|<)
- 論理演算子 (&、|、 \neg)
- 比較演算子 (=、>、<、>=、<=、 \neg =、 \neg >、 \neg <)

各演算子は、その演算子を使用している式のオペランドとオペランドの間になければなりません。例えば、(&A + 4) のようになります。演算子は、事前定義値 (*EQ など) または記号 (= など) で指定することができます。

- 事前定義値の演算子の前後には空白が必要です。

```
(&VAR *EQ 7)
```

- 除算演算子 (/) の場合を除いて、記号演算子の前後には空白はなくても構いません。例えば、(&VAR=7) と (&VAR = 7) はいずれも有効です。

除算演算子を変数名の後に付ける 場合には、その除算演算子の前に空白がなければなりません。例えば、(&VAR / 5) と (&VAR /5) はいずれも有効ですが、(&VAR/5) は無効です。

次の表は、事前定義値とそれに対応する記号を示すとともに、それらが 4 種類の演算子のどれに属するものであるかを示しています。これらの値および記号は、引用符なしのストリングの中で、演算子以外の目的で使用してはなりません。

4 種類の演算子を表す事前定義値および記号

事前定義値	事前定義記号	意味	タイプ
	+	加算	算術演算子
	-	減算	算術演算子
	*	乗算	算術演算子
	/	除算	算術演算子
*CAT	¹	連結	文字ストリング演算子
*BCAT	> ¹	空白挿入を伴う連結	文字ストリング演算子
*TCAT	< ¹	空白切り捨てを伴う連結	文字ストリング演算子
*AND	&	AND	論理演算子
*OR	! ¹	OR	論理演算子
*NOT	¬ ²	NOT	論理演算子
*EQ	=	等しい	比較演算子
*GT	>	より大きい	比較演算子
*LT	<	より小さい	比較演算子
*GE	>=	より大きいまたは等しい	比較演算子
*LE	<=	より小さいまたは等しい	比較演算子
*NE	¬=₂	等しくない	比較演算子
*NG	¬>₂	より大きくない	比較演算子
*NL	¬<₂	より小さくない	比較演算子

注:

¹ 一部の国の文字セットおよび各国間共通文字セットでは、| (16 進 4F) の代わりに ! (感嘆符) が使用されます。このような文字セットでは、OR 演算子として ! または *OR を使用することができ、また連結に !! または *CAT、!> または *BCAT、!< または *TCAT を使用することができます。

² 一部の国の文字セットおよび各国間共通文字セットでは、¬ (16 進 5F) の代わりに * が使用されます。このような文字セットでは、NOT 演算子として * または *NOT を使用することができます。

式を評価する際の演算子の優先順位: 1 つの式に複数の演算子がある場合には、式の中の各演算子に応じて、一定の順序で式が評価されます。式の評価の順序を変えるためには、括弧を使用することができます。次の表は、符号付きの 10 進数の値も含めて、式の中で使用されるすべての演算子の優先順位を示しています。

優先順位	演算子
1	符号 (+ および -) 付きの 10 進数値、*NOT、¬
2	*, /
3	+, - (2 つのオペランドの間で使用されている場合)

優先順位	演算子
4	*CAT、 、*BCAT、 >、*TCAT、 <
5	*GT、*LT、*EQ、*GE、*LE、*NE、*NG、*NL、>、<、=、>=、<=、 \neg =、 \neg >、 \neg <
6	*AND、&
7	*OR、

優先順位 1 は最高優先順位であり (符号付き数値が最初に評価されます)、優先順位 7 が最低優先順位です (OR 関係が最後に評価されます)。1 つの式の中に優先順位の異なる複数の演算子がある場合には、演算子の優先順位に従って演算が行われます。

1 つの式の中に同じ優先順位を持つ複数の演算子がある場合には、演算はその式の中で左から右への順序で行われます。括弧は、演算の実行順序を制御するためにいつでも使用することができます。括弧内の式の値は、内側の括弧から外側の括弧への順に評価され、また、一对の括弧の中では上記の優先順位に従って評価されます。




CL の組み込み関数: CL は、次の組み込み関数を提供します。

- 『%BINARY』
- 40 ページの 『%SUBSTRING』
- 41 ページの 『%SWITCH』

%BINARY: 2 進 (%BINARY) 組み込み関数は、CL 文字変数に含まれている文字ストリングに対して機能します。

%BINARY または %BIN は、式の中で使用できます。また、変数変更 (CHGVAR) コマンドのどちらのオペランド (レシーバー) としても使用できます。詳細については、『CHGVAR コマンドの説明』を参照してください。

注:

- また、2 進組み込み関数は、数値 (*DEC、*INT2、および *INT4) と EXPR(*YES) が指定されていると定義されているコマンド・パラメーターでも使用することができます。
-  CL の整数値の変数は 2 進組み込み関数の代わりとして使用されます。詳しくは、「CL プログラミング」 を参照してください。

サンプル %BINARY 構文

2 進組み込み関数の構文は次のとおりです。

```
>>-&BINARY(-文字変数名-+-----+--)->
          '-----開始位置-+-2-+-'
          '-4-'
```

>-----<

2 進組み込み関数は、指定された位置から始まる、長さが 2 文字または 4 文字の、指定された CL 文字変数の内容を符号付き 2 進整数として扱います。

2 進組み込み関数が CHGVAR コマンドの VAR パラメーターで使用される場合、VALUE パラメーター内の 10 進数または算術式は 2 バイトまたは 4 バイトの符号付き 2 進整数に変換されます。10 進数の小数部は含まれません。

開始位置と長さが指定されていない場合には、開始位置 1、長さは文字変数に指定されている長さとなります。文字変数の長さは 2 または 4 と宣言しておく必要があります。

%BINARY 組み込み関数の使用例は次のとおりです。

コードの例に関する情報は、『コードに関する特記事項 (2 ページ)』を参照してください。

例 1: 2 進数から 10 進数への変換

```
DCL VAR(&N) TYPE(*DEC) LEN(3 0)
DCL VAR(&B2) TYPE(*CHAR) LEN(2) VALUE(X'0012')
CHGVAR &N %BINARY(&B2)
```

文字変数 &B2 の内容は 2 バイトの符号付き 2 進数として取り扱われ、等価な 10 進数の 18 に変換されます。さらに、10 進変数 &N に割り当てられます。

例 2: 10 進数から 2 進数への変換

```
CHGVAR %BIN(&B2) &N
```

10 進変数 &N に含まれる数値が 2 バイトの符号付き 2 進数に変換され、文字変数 &B2 の 1 番目と 2 番目のバイトに置かれます。

例 3: 算術式の中での使用

```
CHGVAR &N VALUE(%BIN(&B2) + 4)
```

文字変数 &B2 の内容は 2 バイトの符号付き 2 進整数として取り扱われ、等価な 10 進数の 18 に変換されます。さらに、10 進数の 4 が加えられ、その合計の 22 が 10 進変数 &N に割り当てられます。

例 4: 10 進数から 2 進数への変換 (切り捨てあり)

```
CHGVAR %BINARY(&B2) VALUE(122.567)
```

数値 122.567 が整数 122 に切り捨てられてから、2 バイトの符号付き 2 進整数に変換されて、文字変数 &B2 に割り当てられます。文字変数 &B2 には、X'007A' と等価な 16 進数が含まれます。

例 5: 負の数値の変換

```
DCL VAR(&B4) TYPE(*CHAR) LEN(4)
CHGVAR %BIN(&B4) VALUE(-45)
```

値 -45 が 4 バイトの符号付き 2 進整数に変換され、文字変数 &B4 に割り当てられます。文字変数 &B4 には、X'FFFFFFD3' と等価な 16 進数が含まれます。

例 6: IF コマンドでの使用

```
IF COND(%BIN(&B4) *EQ 0) THEN(GOTO ENDIT)
```

文字変数 &B4 の内容が 4 バイトの符号付き 2 進整数として取り扱われ、10 進数の 0 と比較されます。それらが等しい場合は、ラベル ENDIT の後のコマンドが実行されます。等しくない場合は、IF コマンドの後のコマンドが実行されます。

例 7: 長さ文字ストリングの CPP への変換

```
PGM PARM(&P ... )
```

```
DCL VAR(&P) TYPE(*CHAR) LEN(202)
```

```

DCL VAR(&L) TYPE(*DEC) LEN(5 0)
DCL VAR(&C) TYPE(*CHAR) LEN(200)
*
*
*
CHGVAR &L %BINARY(&P 1 2)
CHGVAR &C %SST(&P 3 &L)
*
*
*
ENDPGM

```

このプログラムは、最初のパラメーターが属性 TYPE(*CHAR)、LEN(200)、および VARY(*YES) で定義されたコマンドのためのコマンド処理プログラム CPP です。文字変数 &P の最初の 2 バイトには、パラメーターの長さが、2 バイトの符号付き 2 進整数 *INT2 として入っています。コマンドに指定された文字ストリングは、変数 &P の位置 3 から始まります。文字ストリングの最大長は 200 文字です。

最初の CHGVAR コマンドは変数 &P の最初の 2 文字から長さを検索し、その 2 バイトを符号付き 2 進整数として取り扱います。これらのバイトは、符号付き 2 進整数と等価の 10 進数に変換され、10 進変数 &L に割り当てられます。

2 番目の CHGVAR コマンドは、変数 &P をサブストリングにし、変数 &C に割り当てて、パラメーターの内容を検索します。

例 8: 2 進数から整数への変換

```

DCL VAR(&N) TYPE(*INT)
DCL VAR(&B2) TYPE(*CHAR) LEN(2) VALUE(X'0012')
CHGVAR &N %BINARY(&B2)

```

文字変数 &B2 の内容は 2 バイトの符号付き 2 進数として取り扱われ、等価な 整数の 18 に変換されます。さらに、整数変数 &N に割り当てられます。

%SUBSTRING: サブストリング組み込み関数は、CL 文字変数または内部データ域に入っている文字ストリングに対して機能します。%SUBSTRING または %SST は、式の中で使用できます。また、変数変更 (CHGVAR) コマンドのどちらのオペランド (レシーバー) としても使用できます。詳細については、『CHGVAR コマンドの説明』を参照してください。この組み込み関数は、%SUBSTRING または %SST の形でコーディングすることができます。

サンプル %SUBSTRING 構文

サブストリング組み込み関数の構文は次のとおりです。

```

>>-&SST(-+*LDA-----+--開始位置--長さ---)->
      '-文字変数名-----'
>-----<

```

この組み込み関数は、指定された CL 文字変数または内部データ域の内容からサブストリングを作成します。サブストリングは、対象となる値の中で指定された桁から始まり、指定された長さで終わります。例を以下に示します。

```
%SST(&TEST 5 3)
```

この例では、&TEST という変数の一部が参照されます。参照される部分 (すなわちサブストリング) は、長さが 3 文字で、5 文字目から始まります。&TEST の内容が ABCDEFGHIJ であるとすれば、サブストリングは EFG となります。

関数の開始桁および長さを指定するために、CL 変数を使用することもできます。例を以下に示します。

```
CHGVAR  &X  %SST(*LDA  &B  &C)
```

&X という名前の文字変数の値は、ジョブの内部データ域の中の、変数 &B から得られる桁で始まり、&C の値で示される長さの部分で置き換えられます。

```
RTVJOBA  SWS(&JOBSWS)
```

```
CHGVAR  VAR(&CURSW4)  VALUE(%SST(&JOBSWS  4  1))
```

この例では、ジョブ属性検索 (RTVJOBA) コマンドが使用されて、ジョブの 8 個のジョブ・スイッチの現在の値が検索されます。その後で、CHGVAR コマンドが使用されて、4 番目のジョブ・スイッチのみの現在値が取り出され、その値が変数 &CURSW4 に入れます。&JOBSWS で検索された 8 つのジョブ・スイッチの値が 10010000 であったとすれば、2 つ目の 1 が &CURSW4 に入れます。

%SWITCH: 組み込み関数 %SWITCH は、現行ジョブにおける 8 つのジョブ・スイッチのうち 1 つ以上をテストし、1 または 0 の論理値を戻します。%SWITCH によりテストされたジョブ・スイッチがすべて指示どおりの値であれば、結果は 1 (真) であり、テストされたスイッチに指示どおりでないものがあれば、結果は 0 (偽) です。

8 文字のマスクは、どのジョブ・スイッチをテストするか、および各スイッチをどのような値と対照してテストするかを指定します。マスクの各桁は、ジョブの 8 つのジョブ・スイッチの 1 つ 1 つに対応しています。すなわち、1 桁目はスイッチ 1 に、そして 2 桁目はスイッチ 2 に、というように対応しています。マスクの各桁には、3 つの値、0、1、または X のいずれかを指定できます。

0 対応するジョブ・スイッチが 0 (オフ) であるかどうかをテストされます。

1 対応するジョブ・スイッチが 1 (オン) であるかどうかをテストされます。

X 対応するジョブ・スイッチはテストされません。

スイッチの値は、%SWITCH の結果に影響しません。

サンプル %SWITCH 構文

スイッチ組み込み関数の構文は次のとおりです。

```
>>-&SWITCH(--)-<-----<
```

%SWITCH(0X111XX0) を指定した場合、ジョブ・スイッチ 1 および 8 が 0 であるかどうかをテストされ、スイッチ 3、4、および 5 が 1 であるかどうかをテストされますが、スイッチ 2、6、および 7 はテストされません。各ジョブ・スイッチに、マスクで指定された値 (1 または 0 のみ) が入っていれば、%SWITCH の結果は真 (1) になります。

%SWITCH 組み込み関数は、変数変更 (CHGVAR) コマンドおよび IF コマンドの中で使用できます。

CHGVAR コマンドでは、VALUE パラメーターの論理変数の代わりにこれを使用できます。IF コマンドでは、テストされる論理式として COND パラメーターで使用できます。

次の 2 つの例は、同じマスクを使用して、プログラム内でのブランチ (分岐) を制御する方法 (IF コマンド)、および変数の値をセットする方法 (CHGVAR コマンド) を示しています。

```
IF  COND(%SWITCH(0X111XX0))  THEN(GOTO C)
```

```
CHGVAR  VAR(&A)  VALUE(%SWITCH(0X111XX0))
```

IF コマンドで %SWITCH(0X111XX0) を指定した場合、ジョブ・スイッチ 1、3、4、5、および 8 の値がそれぞれ 0、1、1、1、および 0 であれば、結果は真になり、プログラムはラベル C のコマンドにブランチし

ます。テストしたスイッチの中にマスクで指示された値ではないものが 1 つ以上あれば、結果は偽で、ブランチは発生しません。これと同じマスクを CHGVAR コマンドで使用した場合には、結果が真であれば変数 &A が '1' に設定され、結果が偽であれば &A は '0' に設定されます。&A は論理変数として宣言されていなければならない点に注意してください。

メッセージのモニター: *ESCAPE メッセージ、*STATUS メッセージ、および *NOTIFY メッセージは、モニター可能なメッセージであり、プログラムで使用可能な各 CL コマンドによって発行されます。この情報を使用して、プログラムにおいてモニターの対象とするメッセージを判別できます。

メッセージ・モニター (MONMSG) CL コマンドを使用して、1 つ以上のメッセージをモニターし、モニターしているコマンドがこれらのいずれかのメッセージを発行したときに取りたい処置を (MONMSG コマンドで) 指定できます。

各コマンドの資料には、そのコマンドが発行するモニター可能なメッセージをリストしたセクションが含まれています。CL コマンド検索プログラムを使用して、コマンドの資料を表示することができます。



V4R2 以降のシステムの場合は、個々のコマンドに関するオンライン・ヘルプを参照して、モニター可能なメッセージに関する情報を入手できます。iSeriesTM コンピューターでオンライン・コマンド・ヘルプを表示するには、コマンド行にコマンド名を入力して、F1 (ヘルプ) を押します。コマンドの目的の要旨の後に、エラー・メッセージ情報が表示されます。

QSYSMSG メッセージ・キューに送信されるメッセージに関する詳細については、「CL プログラミング」



の第 8 章を参照してください。

コマンド定義ステートメント

OS/400[®] オペレーティング・システムを使用することにより、ユーザーは機能を実行するプログラムを呼び出すコマンドを定義できます。ユーザーは、コマンド定義ステートメントを使用してコマンドを定義できます。定義するコマンドには次のものを入れることができます。

- キーワード表記パラメーター。プログラムにデータを渡します。
- 省略されたパラメーターに代わるデフォルト値。
- パラメーターの妥当性検査。機能を実行するプログラムに対して正しい値が渡されるようにします。
- プロンプト・テキスト。対話式ユーザーに対して操作上の指示を与えます。


コマンド定義ステートメントについては、以下を参照してください。

- 43 ページの『ユーザー定義のコマンドの作成』
- 43 ページの『CMD (コマンド) ステートメント』
- 44 ページの『PARM (パラメーター) ステートメント』
- 43 ページの『ELEM (要素) ステートメント』
- 44 ページの『QUAL (修飾子) ステートメント』
- 43 ページの『DEP (従属) ステートメント』
- 44 ページの『PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント』

ユーザー定義のコマンドの作成

ユーザーは、ソース・ファイルにコマンド定義ステートメントを入力し、そのソース・ファイルを入力としてコマンド作成 (CRTCMD) コマンドを実行することによって、コマンドを定義することができます。各コマンドの**コマンド定義ステートメント**は、**コマンド・ステートメント**を 1 つ以上含みます。

ソース・ファイルには、『**CMD (コマンド) ステートメント**』が必ず 1 つのみ含まれていなければなりません。作成するコマンドに指定する各パラメーターについて、それぞれ 44 ページの『**PARM (パラメーター) ステートメント**』が必要です。▶ 複合パラメーターは、『**ELEM (要素) ステートメント**』および 44 ページの『**QUAL (修飾子) ステートメント**』を使用して、パラメーターの一部を定義することがあります。◀ 特定のキーワード関係を検査する必要がある場合には、『**DEP (従属) ステートメント**』を用いてその関係を定義します。DEP ステートメントは、すでに定義されているパラメーターのみを参照できます。これらのステートメントは、任意の順序で指定できます。44 ページの『**PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント**』は、コマンド・パラメーターのプロンプトを選択して出す場合に使用します。

これらのステートメントを使用してコマンドを定義する方法の完全な詳細については、「**CL プログラミング**」 を参照してください。

ソース・ファイルの 1 つのソース・メンバーによって定義できるコマンドは 1 つのみです。1 つのソース・ファイル・メンバー内のコマンド定義ステートメントから、コマンド定義オブジェクトを作成するには、CRTCMD コマンドを実行します。他のユーザーには、オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンド、またはオブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT) コマンドにより、新しいコマンドの使用を許可できます。

CMD (コマンド) ステートメント

コマンド (CMD) ステートメントは、作成中のコマンドに関するプロンプト・テキストを指定します。CMD ステートメントは、コマンド作成 (CRTCMD) コマンドにより参照されるソース・ファイルの、どこにでも指定することができます。作成するコマンドにプロンプト・テキストを指定しない場合でも、ソース・ファイルに 1 つのみ、必ず CMD ステートメントを使用しなければなりません。

詳しくは、『**コマンド定義 (CMD)**』コマンドを参照してください。

DEP (従属) ステートメント

従属 (DEP) ステートメントは、パラメーターとパラメーター値との間の関係を検査する必要がある場合に、両者の関係を定義するために用いられます。これには、パラメーターと、それに関連する特定の値との関係を検査する場合 (関係の検査) と、パラメーターが存在しなければならないことを検査する場合 (指定の検査) とがあります。

詳しくは、『**従属定義 (DEP)**』コマンドを参照してください。

ELEM (要素) ステートメント

要素 (ELEM) ステートメントは、このコマンド上の混合リスト (リスト要素) パラメーターの要素を定義するために使用されます。リスト・パラメーターは、複数の値を受け入れるパラメーターで、この複数の値は、1 つのキーワードによって連続の値としてまとめて渡されます。

詳しくは、『**要素定義 (ELEM)**』コマンドを参照してください。

PARM (パラメーター) ステートメント

パラメーター (PARM) ステートメントは、作成中のコマンドのパラメーターを定義するためのものです。パラメーターは、値をコマンド処理プログラム (CPP) に渡す手段です。定義中のコマンドに指定する各パラメーターごとに、必ず 1 つの PARM ステートメントを使用しなければなりません。

詳しくは、『パラメーター定義 (PARM)』コマンドを参照してください。

PMTCTL (プロンプト制御) ステートメント

プロンプト制御 (PMTCTL) ステートメントは、PARM ステートメントで PMTCTL ステートメントを参照しているパラメーターのためにプロンプトを出すかどうかを決める条件を指定します。

追加情報については、『プロンプト制御定義 (PMTCTL)』コマンドを参照してください。

QUAL (修飾子) ステートメント

修飾子 (QUAL) ステートメントは、修飾名の一部を記述します。PARM ステートメントまたは ELEM ステートメントで定義されたパラメーターまたはリストの要素として指定できる値であれば、その名前は、名前の修飾に使用する各修飾子ごとに QUAL ステートメントを使用することにより、修飾名に変更することができます。

詳しくは、『修飾名定義 (QUAL)』コマンドを参照してください。

テストおよびデバッグに使用するパラメーター値

ここでは、プログラム変数、基底ポインター、添え字、および修飾名パラメーター値について補足説明を行います。これらの値は、ブレイクポイント追加 (ADDBKP) コマンド、トレース追加 (ADDTRC) コマンド、高水準言語ポインター変更 (CHGHLLPTR) コマンド、プログラム変数変更 (CHGPGMVAR) コマンド、およびプログラム変数表示 (DSPPGMVAR) コマンドで指定することができます。

詳細については、以下を参照してください。

- 『プログラム変数の記述』
- 45 ページの『基底ポインターの記述』
- 45 ページの『添え字の記述』
- 46 ページの『修飾名の記述』

プログラム変数の記述

プログラム変数

```
          v----- (1) |
>>-----修飾名-----添え字-----添え字-----<<
```

注:

- 最大 14 回まで反復可能。

プログラム変数は、特殊文字が含まれている場合にはアポストロフィで囲まなければなりません。プログラム変数名には最高 132 文字を使用できます。この文字数には、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマも含まれます。ただし、特殊文字がある場合に名前を囲むために使用するアポストロフィは、この文字数には含まれません。次に例を示します。

```
COUNTA
'VAR1(2,3)'
'A.VAR1(I,3,A,J,1)'
'VAR1 OF A(I,3,J OF A)'
'&LIBNAME'
```

基底ポインタの記述

基底ポインター

```
>>-----修飾名-----添え字-----,添え字-----+-----<<
          v          (1) |
```

注:

1. 最大 14 回まで反復可能。

基底ポインターに特殊文字が含まれている場合には、その基底ポインターをアポストロフィで囲まなければなりません。基底ポインター名には、最大 132 文字を指定することができます。この文字数には、添え字、組み込みブランク、括弧、およびコンマも含まれます。ただし、特殊文字がある場合に名前を囲むために使用するアポストロフィは、この文字数には含まれません。次に例を示します。

```
PTRVAR1
'ABC.PGMPTR(5,B,I)'
```

1 つの変数について複数の基底ポインターを指定する場合には、基底ポインターのリストを括弧で囲まなければなりません。複数の基底ポインターを指定する場合は、最初の基底ポインターから最後の基底ポインターまでを、変数の位置指定に使用する順序で指定しなければなりません。次の例では、基底ポインター PTR_1 が、変数の位置指定のため使用される最初の基底ポインターです。これは、基底ポインターとして宣言されているものでなければならず、基底付き変数であってはなりません。ポインター A.PTR_2 (基底付きポインター変数として宣言されていないければなりません) の位置指定は、ポインター PTR_1 に含まれるアドレスを用いて行われます。ポインター配列 PTR_3 (これも基底付きとして宣言されていないければなりません) の位置指定は、ポインター A.PTR_2 の内容を用いて行われます。そして、最後のポインター配列内の指定された要素を用いて、該当の変数の位置が指定されます。例えば、次のようにします。

```
('PTR_1' 'A.PTR_2' 'PTR_3(1,B,J)')
```

添え字の記述

添え字

```
.-整数-----
>>+.-修飾名-----+-----<<
    '.*-----'
```

整数には、必要に応じて先行符号 (プラスまたはマイナス) を付けた 1 から 15 桁までの数字が入ります。整数の添え字には小数点は使用できません。小数点を使用した場合は、システムが添え字の値を正しい数値として解釈せず、エラー・メッセージが出されます。

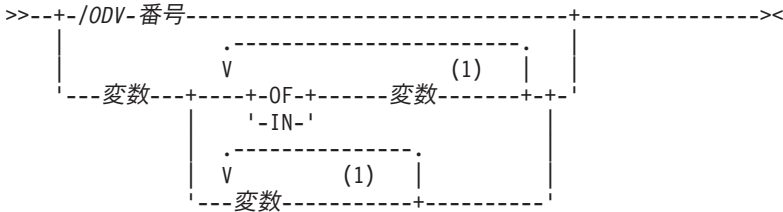
アスタリスク (*) は、配列プログラム変数の 1 つの次元のクロス・セクション表示を要求する場合に使用します。アスタリスクは、ブレイクポイント追加 (ADDDBKP) コマンド、トレース追加 (ADDTRC) コマンド、およびプログラム変数表示 (DSPPGMVAR) コマンドの PGMVAR キーワードの 1 次変数 (基底ポインターに基づいていない変数) でのみ、添え字として使用することができます。さらに、変数が複数の次元を持つ場合は、その添え字値の 1 つのみに対してアスタリスクを指定することができます。次に、配列のクロス・セクションの表示要求の例を示します。

```
DSPPGMVAR PGMVAR('X1(*,5,4)')
```


この例の場合、画面には、配列の要素のうち、2 番目の添え字が 5 に等しく、3 番目の添え字が 4 に等しいすべての要素が表示されます。

修飾名の記述

修飾名



注:

1. 最大 19 回まで反復可能。

高水準言語によっては、同じ完全修飾名を持つ複数の変数を宣言できる場合があります (ただし、通常は、宣言した後で、高水準言語プログラムの中でこれらの変数を参照することはできません)。OS/400^(R) のテスト機能コマンドを使用してこのような変数を参照しようとした場合には、システムは、それらの変数の 1 つを選択して処理に使用します。重複した完全修飾名を選択しても、エラーが通知されることはありません。

修飾名の記述に関する規則

- ODV 番号は、斜線 (/) の後に、1 から 4 桁の 16 進数字 (0 から 9、および A から F) を付けたものです。
- 変数名は、プログラムの中の変数の名前であればなりません。この名前は、高水準言語での指定方法と同じ方法で指定しなければなりません。高水準言語によっては、ユーザーがプログラムのソースで指定した変数名に修飾子を加えて、修飾変数名を生成する場合があります。変数名の詳細については、該当の高水準言語解説書を参照してください。
- 変数名と特殊語 OF および IN との間は空白で区切らなければなりません。
- 名前を修飾するためにピリオドを使用する場合には、ピリオドと変数名との間に空白を置いてはなりません。
 - 変数名の指定順序は次の規則に従っていなければなりません。
 - 途中にピリオドのない修飾名の場合は、変数名は、その構造の中でレベルの低いものから高いものへの順に指定されているものと見なされます。
 - 1 つ以上のピリオドを含む修飾名の場合は、変数名は、その構造の中でレベルの高いものから低いものの順に指定されているものと見なされます。
 - 修飾名に ODV 番号を使用しない場合は、変数がプログラムの中で固有のものとして識別されるようにするために、十分な数の修飾用変数名を指定しなければなりません。修飾名が単純名 (1 つの変数名のみが指定されたもの) であっても、複数の修飾用変数名を持つ名前であっても、次の条件のいずれかが満たされていれば、その変数はプログラムの中で固有のものとして識別されます (これらの条件では、1 つのプログラム変数を固有のものとして選択するためには、OS/400 のテスト機能コマンドを使用する方が、高水準言語プログラムで指定するよりも多くの修飾用変数名の指定を必要とすることがあります)。
 - プログラムの中に、指定した修飾変数名に一致する修飾用変数名のセットを持つ変数がただ 1 つのみ存在する場合は、その変数は固有のものとして見なされます。

- 変数が、指定した修飾用変数名とまったく同じ修飾用変数名のセットを持つ場合は、その変数はプログラムの中で固有のものとして識別されます。修飾子の完全なセットを指定した状態を、変数名の完全修飾 といいます。修飾名については、完全修飾 が一致する変数が選択されます。修飾名と同じ名前をもつ変数があっても、指定されていない余分の修飾用変数が増えられていれば、それは選択されません。

OS/400 オブジェクト

OS/400^(R) がすべてのデータ処理情報を保管して処理するための手段は、OS/400 のオブジェクトによって提供されます。OS/400 オブジェクトは、記憶域に存在する (スペースを占める) 名前付きの単位であり、オペレーティング・システムはこの単位に対して操作を実行します。

CL コマンドは、OS/400 オブジェクトに対する操作を実行します。いくつかのタイプの OS/400 オブジェクトは、制御言語で作成され、使用されます。

OS/400 オブジェクトには、次の共通点があります。

- オブジェクトには、そのオブジェクトを記述する一連の属性が備わっていますが、これらの属性はオブジェクトの作成時にユーザーが定義します。
- システムが特定の機能の実行に使用しなければならないオブジェクトは、その機能を実行する CL コマンドで指定する必要があります。
- オブジェクトには、そのオブジェクトを記述する一連の属性があり、それらの属性にそれぞれ特定の値が割り当てられます。
- 通常、オブジェクトは、それぞれ他のオブジェクトから独立して存在します。ただし、オブジェクトによっては、他のオブジェクトに先立って作成しなければならないものもあります。例えば、基礎となる物理ファイルが存在していないと、論理ファイルを作成することはできません。
- オブジェクトは、そのオブジェクトを使用する操作の実行前に作成しておく必要があります。各作成コマンドで作成するオブジェクト・タイプについては、それぞれの作成 (CRT) コマンドの項で詳しく説明します。
- 制御言語で使用されるすべての OS/400 オブジェクトに名前があります。CL コマンドで指定するオブジェクト名によって、コマンドの機能を実行するためにオペレーティング・システムがどのオブジェクトを使用するかが指示されます。
- オブジェクトは、単純名、修飾名、または総称名のいずれかを持ちます。

OS/400 オブジェクトに関する詳細については、以下を参照してください。

- 『ライブラリー・オブジェクト』
- 48 ページの『外部オブジェクト・タイプ』
- 51 ページの『単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名』
- 51 ページの『総称オブジェクト名』
- 53 ページの『オブジェクトの命名規則』
- OS/400 オブジェクト・タイプ別の事前定義値およびデフォルトのライブラリー・ロケーション (48 ページ)

ライブラリー・オブジェクト

ほとんどのオブジェクトは、ライブラリーと呼ばれる特別なオブジェクトにグループ分けされています。48 ページの『外部オブジェクト・タイプ』には、各種のオブジェクト・タイプとそのデフォルトのライブラリーに関する説明が記載されています。

統合ファイル・システムを使用するオブジェクトの中には、次のようなものもあります。すなわちディレクトリー内において、ライブラリーを検索する代わりにパス名パターンまたはオブジェクト名パターンを使用することによって検索することができるオブジェクトです。また、オブジェクトを見付けるためにこれらのディレクトリーを使用することもできます。統合ファイル・システム・コマンドに関する詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

外部オブジェクト・タイプ

以下の表に、すべての OS/400[®] 外部オブジェクト・タイプの事前定義値をリストします。

オブジェクトの作成時点で、ライブラリー修飾子の指定が可能であるが指定しなかった場合には、そのオブジェクトは「デフォルトのユーザー・ライブラリー」欄に示されているユーザーの現行ジョブ・ライブラリーに保管されます。ユーザーの現行ライブラリーは、各ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されているものです。指定がない場合には、QGPL が現行ライブラリーとして使用されます。「デフォルトのユーザー・ライブラリー」欄に「N/A」と記されているその他のオブジェクトは、ユーザーの指定したライブラリーに保管することはできません。➤ システム・オブジェクト・ダンプ (DMPSYSOBJ) コマンドを除き、「16 進形式」欄で示されている形式でコマンドを用いてオブジェクト・タイプを指定することはできません。⬅

外部 OS/400 オブジェクト・タイプ別の事前定義値およびデフォルトのライブラリー・ロケーション

値	オブジェクト・タイプ	16 進形式	デフォルトのユーザー・ライブラリー
*ALRTBL	警報テーブル	0E09	*CURLIB
*AUTL	権限リスト	1B01	QSYS
*BLKSF	ブロック特殊ファイル	1E05	N/A
*BNDDIR	バインド・ディレクトリー	1937	*CURLIB
*CFGL	構成リスト	1918	QSYS
*CHRFS	文字特殊ファイル	1E06	N/A
*CHTFMT	図表形式	190D	*CURLIB
*CLD	C/400 [®] ロケール記述	190B	*CURLIB
*CLS	クラス	1904	*CURLIB
*CMD	コマンド	1905	*CURLIB
*CNL	接続リスト	1701	QSYS
*COSD	サービス・クラス記述	1401	QSYS
*CRG	クラスター資源グループ	192C	QUSRSYS
*CRQD	CRQ 記述	0E0F	*CURLIB
*CSI	通信サイド情報	1935	*CURLIB
*CSPMAP	システム間プロダクト・マップ	1922	*CURLIB
*CSPTBL	システム間プロダクト・テーブル	1923	*CURLIB
*CTLD	制御装置記述	1201	QSYS
*DDIR	分散ファイル・ディレクトリー	1F02	N/A
*DEVD	装置記述	1001	QSYS
*DIR	ディレクトリー	0C01	N/A
*DOC	文書	190E	QDOC

値	オブジェクト・タイプ	16 進形式	デフォルトのユーザー・ライブラリー
*DSTMF	分散ストリーム・ファイル	1F01	N/A
*DTAARA	データ域	190A	*CURLIB
*DTADCT	データ・ディクショナリー	1920	データ・ディクショナリーと同じ名前のライブラリー
*DTAQ	データ待ち行列	0A01	*CURLIB
*EDTD	編集記述	1908	QSYS
*EXITRG	出口登録情報	1913	QUSRSYS
*FCT	用紙制御テーブル	0E04	*CURLIB
*FIFO	先入れ先出し法特殊ファイル	1E07	N/A
*FILE	ファイル	1901	*CURLIB
*FLR	フォルダー	1912	QDOC
*FNTRSC	フォント資源	1926	*CURLIB
*FNTTBL	フォント・マッピング・テーブル	192B	*CURLIB
*FORMDF	書式定義	1928	*CURLIB
*FTR	フィルター	0E0B	*CURLIB
*GSS	グラフィック記号セット	190C	*CURLIB
*IGCDCT	2 バイト文字セット (DBCS) 変換辞書	0E06	*CURLIB
*IGCSRT	2 バイト文字セット (DBCS) 分類テーブル	191A	*CURLIB
*IGCTBL	2 バイト文字セット (DBCS) フォント・テーブル	1910	N/A
*IMGCLG	イメージ・カタログ	192E	QUSRSYS
*IPXD	インターネットワーク・パケット交換機能記述	191E	QSYS
*JOBDB	ジョブ記述	1903	*CURLIB
*JOBQ	ジョブ待ち行列	0E01	*CURLIB
*JOBSCD	ジョブ・スケジュール	0E0C	*CURLIB
*JRN	ジャーナル	0901	*CURLIB
*JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	0701	*CURLIB
*LIB	ライブラリー	0401	QSYS
*LIND	回線記述	1101	QSYS
*LOCALE	ロケール	1921	*CURLIB
*MEDDFN	メディア定義	191C	*CURLIB
*MENU	メニュー記述	1916	*CURLIB
*MGTCOL	管理収集	192D	➤ 指定されたライブラリーが QYPSCSCA API を使用している場合は NA または QPFRDATA ⬅
*MODD	モード記述	1501	QSYS

値	オブジェクト・タイプ	16 進形式	デフォルトのユーザー・ライブラリー
*MODULE	コンパイラー単位	0301	*CURLIB
*MSGF	メッセージ・ファイル	0E03	*CURLIB
*MSGQ	メッセージ待ち行列	1902	*CURLIB
*M36	AS/400 ^(R) アドバンスト 36 ^(R) マシン	1E04	*CURLIB
*M36CFG	AS/400 アドバンスト 36 マシン構成	1924	*CURLIB
*NODGRP	ノード・グループ	192A	*CURLIB
*NODL	ノード・リスト	0E0E	*CURLIB
*NTBD	NetBIOS 記述	1914	QSYS
*NWID	ネットワーク・インターフェース記述	1601	QSYS
*NWS	ネットワーク・サーバー記述	1D01	QSYS
*OUTQ	出力待ち行列	0E02	*CURLIB
*OVL	オーバーレイ	1929	*CURLIB
*PAGDFN	ページ定義	1936	*CURLIB
*PAGSEG	ページ・セグメント	1927	*CURLIB
▶▶ *PDFMAP	PDF マップ	0E11	*CURLIB ◀◀
*PDG	印刷記述子グループ	1930	*CURLIB
*PGM	プログラム	0201	*CURLIB
*PNLGRP	パネル・グループ定義	1915	*CURLIB
*PRDAVL	プロダクト可用性	1933	QSYS
*PRDDFN	プロダクト定義	191B	QSYS
*PRDLOD	プロダクト・ロード	191D	QSYS
*PSFCFG	印刷サービス機能™ 構成	1925	*CURLIB
*QMFORM	QUERY 管理機能書式	1932	*CURLIB
*QMQR	QUERY 管理機能プログラム	1931	*CURLIB
*QRYDFN	QUERY 定義	1911	QGPL
*RCT	参照コード変換テーブル	0E08	QGPL
*SBSD	サブシステム記述	1909	*CURLIB
*SCHIDX	検索索引	0E07	QGPL
*SOCKET	ローカル・ソケット	1E03	N/A
*SPADCT	スペル援助ディクショナリー	1C01	QGPL
*SQLPKG	SQL パッケージ	0202	*CURLIB
*SQLUDT	ユーザー定義の SQL 型	191F	*CURLIB
*SRVPGM	サービス・プログラム	0203	*CURLIB
*SSND	セッション記述	0E05	QGPL
*STMF	バイトストリーム・ファイル	1E01	N/A
*SVRSTG	サーバー記憶域	1917	▶▶ QUSRSYS ◀◀
*SYMLNK	記号リンク	1E02	N/A
*S36	システム/36™ マシン記述	1919	QGPL
*TBL	表	1906	*CURLIB

値	オブジェクト・タイプ	16 進形式	デフォルトのユーザー・ライブラリー
▶ *TIMZON	タイム・ゾーン記述	192F	QSYS ◀
*USRIDX	ユーザー索引	0E0A	*CURLIB
*USRPRF	ユーザー・プロファイル	0801	QSYS
*USRQ	ユーザー待ち行列	0A02	*CURLIB
*USRSPC	ユーザー・スペース	1934	*CURLIB
*VLDL	妥当性検査リスト	0E10	*CURLIB
*WSCST	ワークステーション・ユーザー・カスタマイズ・オブジェクト	1938	*CURLIB

単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名

ライブラリー内の特定のオブジェクトの名前は、単純名としても修飾名としても指定できます。単純オブジェクト名は、オブジェクトの名前のみで構成される名前です。修飾オブジェクト名は、オブジェクトが入っているライブラリーの名前の後に、そのオブジェクトの名前を付けたものです。修飾オブジェクト名では、ライブラリー名とオブジェクト名とは斜線 (/) で連結します。

対象のオブジェクトが、ジョブのライブラリー・リストに含まれているライブラリーのいずれかに存在する場合には、そのオブジェクトの単純名および修飾名のいずれでも指定できます。すなわち、この場合、ライブラリー修飾子の指定はオプションです。指定するオブジェクトがライブラリー・リスト上のライブラリーのいずれにも含まれていない場合は、修飾名を指定する必要があります。

注: ジョブ名も修飾形式を取ることができますが、ジョブは OS/400[®] オブジェクトではないため、修飾オブジェクト名としては扱われません。ジョブ名は、ライブラリー名ではなくユーザー名およびジョブ番号で修飾します。JOB パラメーターの詳細については、68 ページの『JOB パラメーター』を参照してください。

例

単純オブジェクト名および修飾オブジェクト名の形式を、次の表に示します。

名前のタイプ	名前の構文	例
単純オブジェクト名	オブジェクト名	OBJA
修飾オブジェクト名	ライブラリー名/オブジェクト名	LIB1/OBJB

総称オブジェクト名

総称オブジェクト名を用いて、複数のオブジェクトを示すことができます。すなわち、総称名は、いくつかのオブジェクト名に共通する最初の 1 つ以上の文字で構成されます。システムは、ライブラリー・リスト内のライブラリーにあるオブジェクトのうち、指定された文字で始まる名前を持つオブジェクトをすべて見つけだします。名前の最後の文字がアスタリスク (*) であれば、それは総称名と見なされます。

引用符付き総称名は、引用符で囲んだ総称名です。通常の引用符付きの名前の場合と異なり、総称名の場合には、引用符と引用符との間に特殊文字がなくても、引用符が除去されません。総称名が“ABC*”であれば、システムは名前が“ABC”で始まるオブジェクトを検索します。

総称名は、ライブラリー名によって修飾することもできます。総称名を修飾した場合、システムは、指定されたライブラリーのみを検索して、指定された総称名で始まる名前を持つオブジェクトを見付け出します。

注：総称名がパス名である場合には、1 つ以上のディレクトリーによって修飾することもできます。パス名では、アスタリスク (*) の前後に文字を指定することができます。パス名の詳細については、『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。





総称名を指定すると、システムは、名前が指定の文字列で始まるすべてのオブジェクトに対して、所要の機能を実行します。ユーザーは、総称名によって識別される各オブジェクトに対して機能を実行するために必要な権限を持っている必要があります。ユーザーがオブジェクトに対して必要な権限を持っていないと、この機能は実行されず、その総称機能が失敗した個々のインスタンスについて診断メッセージが出されます。総称機能が正常に実行されたオブジェクトについては、それぞれ完了メッセージが出されます。完了メッセージを見るには、オンライン低レベル・メッセージを表示する必要があります。総称機能の実行が完了すると、すべてのオブジェクトに対して操作が正常に実行されたことを示す完了メッセージが出されます。1 つ以上のオブジェクトが正常に操作できなかった場合は、エスケープ・メッセージが出されます。ある装置ファイルについて指定変更の指定が有効な場合には、総称名ではなく、その指定変更で指定されている単一のオブジェクト名が、操作の実行に使用されます。

処理対象のオブジェクトが入っているライブラリーがすでにロックされている場合は、削除、移動、または名前変更のためのコマンドで総称名を使用してはなりません。総称オブジェクト名を見つけるための検索では、オブジェクトを含むライブラリーに対して、完全オブジェクト名を見つけるための検索よりも拘束度の高いロックが必要になります。これは、削除、移動、または名前変更のためのコマンドの実行中に、他のユーザーが同じライブラリーの中に総称ストリング検索に該当する名前のオブジェクトを作成するのを防ぐためです。この問題は、総称名の代わりに完全オブジェクト名を使用することによって回避できます。あるいは、ライブラリーをロックしているジョブまたはサブシステムを終了させる方法もあります。

注：どのジョブまたはサブシステムがライブラリーをロックしているのかを判別するには、**WRKOBJLCK** (オブジェクト・ロック処理) コマンドを使用してください。

コマンドによっては、総称名とともにライブラリー修飾子を指定して、操作の範囲を限定できる場合があります。例えば、印刷ファイル変更 (**CHGPRTF**) コマンドで **FILE(LIB1/PRT*)** を指定すると、ライブラリー **LIB1** に存在し、かつ名前が **PRT** で始まっている印刷装置ファイルのみが操作の対象となります。その他のライブラリーにある印刷装置ファイルは操作の対象外となります。

ライブラリー修飾子によって、操作範囲は次のように限定されます。

- ライブラリー名: 指定したライブラリーに含まれ、かつ総称名に該当するオブジェクトのみが、操作の対象になります。
- *LIBL: 総称操作を要求したジョブに関連付けられたライブラリー・リストに含まれ、かつ総称名に該当するオブジェクトが、操作の対象になります。
- *CURLIB: 総称名に該当するオブジェクトであり、かつ現行ライブラリーに含まれているものが操作の対象となります。
-  *ALL: ユーザーが権限を持つ、すべてのライブラリーの総称名に該当するオブジェクトが、操作の対象になります。 
- *USRLIBL: ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分に存在し、かつ総称名に該当するオブジェクトのみが、操作の対象になります。
- *ALLUSR: 一部の例外を除くシステム・ライブラリー以外のすべてのライブラリー (名前の頭文字が **Q** でないもの) が、操作の対象になります。  *ALLUSR を含むライブラリーの全リストについては、API のトピックで『Generic library names』を参照してください。 

注: ユーザーは、IBM^R がサポートする各リリースに対して、QUSRVxRxMx という形式の異なるライブラリー名を作成することができます。ここで、VxRxMx は、ライブラリーのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルを示します。

例: 総称オブジェクト名

名前のタイプ	名前の構文	例
単純総称名	総称名*	OBJ*
修飾総称名	ライブラリー名/総称名*	LIB1/OBJ*
引用符付き総称名	“総称名”	“ABC*”

オブジェクトの命名規則

▶ すべての名前に対する標準規則については、28 ページの『コマンド内での命名』で説明しています。さらに、制御言語 (CL) コマンドで使用されるすべての OS/400^(R) オブジェクトの命名については、以下に示す規則も適用されます。単純オブジェクト名、修飾名、または総称名が使用できるかどうかについては、各 CL コマンドのパラメーターの要約表に示しています。◀

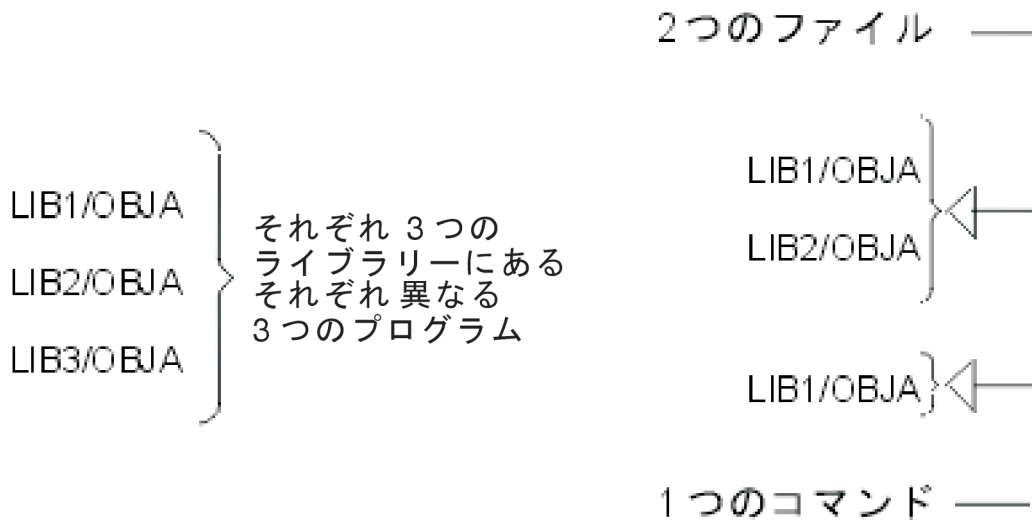
- 単一オブジェクトの名前の指定: 単一オブジェクトの名前には、名前の各部分 (単純名およびライブラリー修飾名) にそれぞれ最高 10 文字を使用することができます。オブジェクトの指定に関する詳細については、51 ページの『総称オブジェクト名』を参照してください。
- ユーザー作成のオブジェクトの名前の指定: IBM^(R) 提供のオブジェクト (コマンドを除く) には、すべて Q で始まる名前が付いていることから、ユーザー作成のオブジェクトと IBM 提供のオブジェクトを区別するために、ユーザー作成オブジェクトには Q で始まる名前を付けないようにしてください。CL オブジェクト名には最大 10 文字を使用できますが、一緒に使用している他の高水準言語の命名規則との整合性を保つために、文字数を少なくしなければならないこともあります。また、高水準言語によっては、名前に下線の使用が認められていないこともあります。例えば、RPG では、名前が 8 文字以下に限定されており、下線も使用できません。
- 総称オブジェクトの名前の指定: 総称名は、末尾のアスタリスク (*) を除いて、最高 9 文字の英数字を使用できます。総称名の使用に関する詳細については、51 ページの『総称オブジェクト名』を参照してください。

例えば、総称名が使用できる場合には、INV と INV* はどちらも有効な値です。INV を指定した場合には、INV という名前のオブジェクトのみが参照されます。総称名 INV* を指定した場合には、INV、INVOICE、INVENTORY、および INVENPGM1 など、INV で始まるすべてのオブジェクトが参照されます。引用符付きの総称名 “INV*” を指定した場合には、“INV%1” や “INV>” など、“INV” で始まるオブジェクトが参照されます。

- オブジェクトのライブラリー修飾子に関する制約: 作成するオブジェクトが、ライブラリー、ユーザー・プロファイル、回線記述、制御装置記述、装置記述、モード記述、サービス・クラス記述、または構成リストの場合は、オブジェクト名はライブラリー名で修飾することはできません。ライブラリーをライブラリー内に入れることはできないため、ライブラリー名を修飾することはできません。その他のオブジェクト・タイプ (*USRPRF、*LIND、*CTLD、*DEVD、*MODD、*COSD、および *CFGL) は、QSYS ライブラリーのみ存在するタイプとして扱われます。これらのオブジェクト・タイプのオブジェクトの名前のみが受け入れられる場合には、オブジェクト名をライブラリー名で修飾することはできません。オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) コマンドでは、どのようなオブジェクト名も受け入れられるため、QSYS を指定できます。

- ライブラリー・リスト修飾子: ほとんどのコマンドでは、ライブラリーの代わりに事前定義値 *LIBL (および、*CURLIB や *ALLUSR などの値) を使用できます。*LIBL は、修飾名の 2 番目の部分で指定されているオブジェクトを見つけるために、ジョブのライブラリー・リスト上にあるライブラリーを使用するよう指定します。
- 重複オブジェクト名: 同じライブラリーに、同じタイプで同じ名前を持つオブジェクトが 2 つ以上あってはなりません。

オブジェクト・タイプが異なる場合を除いて、同じ名前を持つ 2 つのオブジェクトを同じライブラリーに保管することはできません。 OBJA という名前を持つオブジェクトが 2 つある場合、その 2 つを LIBx というライブラリーに保管できるのは、例えば、一方がプログラムでもう一方がファイルである場合に限られます。次に示す名前とオブジェクト・タイプの組み合わせは、すべて同時にシステムに存在することができます。



複数のライブラリーに同じ名前のオブジェクトが含まれており (しかも、それらのライブラリーが同じライブラリー・リスト上にあり)、オブジェクト名とともにライブラリー修飾子を指定しなかった場合には、その名前を持つ最初に見つかったオブジェクトが使用されます。したがって、同じ名前のオブジェクトが 2 つ以上ある場合には、オブジェクト名を所定のライブラリー名で修飾するか、あるいは、所定のライブラリーがライブラリー・リストの最初にくるようにしてください。例えば、テストやデバッグを行う時点で修飾名を使用しない場合には、ライブラリー・リストの中で、テスト・ライブラリーを、実働ライブラリーより前に置いてください。

デフォルト・ライブラリー

修飾オブジェクト名において、ライブラリー名は通常オプションです。オプションのライブラリー修飾子を指定しなかった場合には、コマンドの記述の中に示されている、デフォルトのライブラリー (通常は *CURLIB または *LIBL) が使用されます。指定のオブジェクトを作成する場合は、現行ライブラリーがデフォルト値となります。すなわち、作成されたオブジェクトは、現行ライブラリーに入れられます。現行ライブラリーが定義されていない場合は、QGPL (汎用ライブラリー) に入れられます。既存のオブジェクトの場合には、ほとんどのコマンドで、*LIBL がデフォルトのライブラリーです。したがって、指定されたオブジェクトを見つけるために、ジョブのライブラリー・リストが使用されます。システムは、指定されたオブジェクトが見つかるまで、現行ライブラリー・リストにリストされているすべてのライブラリーを検索します。

オブジェクトの命名に関する詳細については、以下を参照してください。

- 『パス名 (*PNAME)』
- 56 ページの『総称名 (*GENERIC)』
- 56 ページの『固有名に関するその他の規則』

関連情報:

- 28 ページの『コマンド内での命名』
- 30 ページの『フォルダー名および文書名』

パス名 (*PNAME)

パス名は、統合ファイル・システムの中でオブジェクトを位置指定するために使用できる文字ストリングです。このストリングは、1 つ以上の要素から構成できます。各要素は、斜線 (/) または円記号 (¥) で区切られます。各構成要素は一般的にディレクトリーまたはそれに相当するものですが、最後の構成要素にはディレクトリー、ファイルのようなほかのオブジェクト、または置かれる予定のオブジェクト (複数も可) の総称を使用することができます。

/ と ¥ 文字は区切り記号として使用されるため、パス名の各構成要素には / 文字、¥ 文字、およびヌルを使用することはできません。オブジェクトを含むファイル・システムで大文字と小文字が区別されるかどうか、およびオブジェクトが作成されるか検索されるかに応じて、名前が大文字に変換される場合も変換されない場合もあります。このパラメーターに CASE(*MONO) (デフォルト) と指定すると、単一引用符で囲まれていない値が、コマンド分析プログラムによってすべて大文字に変更されます。

パス名の先頭にある / または ¥ 文字は、最上層のディレクトリーである「ルート」(/) ディレクトリーからパスが始まることを示します。パス名の先頭に / または ¥ 文字がない場合は、コマンドを入力したユーザーの現行ディレクトリーからパスが始まると見なされます。

パス名は、ジョブに対して現在有効な CCSID で表さなければなりません。ジョブの CCSID が 65535 である場合は、パス名はそのジョブのデフォルトの CCSID で表さなければなりません。プログラム内のハードコーディングされたパス名は、CCSID 37 でコード化されます。したがって、パス名は、ジョブ CCSID に変換してからコマンドに渡さなければなりません。CL コマンドでのパス名文字ストリングの最大長は 5000 文字です。

QSYS.LIB ファイル・システム内のオブジェクトを操作する場合、構成要素名の形式は「名前.オブジェクト・タイプ」としなければなりません。以下に例を示します。

```
'/QSYS.LIB/PAY.LIB/TAX.FILE'
```

特殊文字を含むパス名をコマンド行で入力する際には、アポストロフィ (') 記号で前後を囲まなければなりません。パス名を画面上で入力する場合は、これらの記号はオプションです。しかし、引用符付きストリングまたは特殊文字をパス名に入れる場合は、それらを囲む '' 記号も入れなければなりません。以下に、特殊文字の使用に関する規則を示します。

- パス名の先頭の斜線または円記号の前に波形記号 (~) 文字がある場合、パスは、コマンドを入力したユーザーのホーム・ディレクトリーから始まります。
- パス名の先頭に、波形記号 (~) 文字に続いてユーザー名、その次に斜線または円記号がある場合、パスは、そのユーザー名によって識別されるユーザーのホーム・ディレクトリーから始まります。
- コマンドによっては、パス名の最後の構成要素にアスタリスク (*) または疑問符 (?) を使用して、名前のパターンを検索できるものもあります。* は、* 文字の位置に任意の数の文字がある名前を検索するようにシステムに要求します。? は、? 文字の位置に単一の文字がある名前を検索するようにシステムに要求します。

- OS/400^(R) の特殊値との混同を避けるため、パス名を単一のアスタリスク (*) 文字で始めることはできません。パス名の先頭でパターン照合を行うには、2 つのアスタリスク (**) を使用します。

注: これは、アスタリスクの前に他の文字がない相対パス名にのみ適用されます。

- 次の文字のいずれかを構成要素名で使用する場合は、パス名をアポストロフィ (') または引用符 (") で囲まなければなりません。
 - アスタリスク (*)
 - 疑問符 (?)
 - アポストロフィ (')
 - 引用符 (")
 - 波形記号 (~)。ただし、パス名の最初の構成要素名の最初の文字として使用する場合 (他の位置で使用する場合は、波形記号は単なる文字として解釈されます)。

この方法は、コマンド・ストリングの文字の意味が混乱したり、入力で誤りが起こりやすいため、お勧めできません。

- パス名では、コロン (:) を使用しないでください。コロンは、システム内で特別な意味を持ちます。
- コマンドおよび関連するユーザー画面に対する処理サポートは、コマンド・ストリングまたは画面で利用できる文字として、16 進数の 40 未満のコード・ポイントを認識しません。これらのコード・ポイントを使用する場合は、次のように 16 進数表記として入力しなければなりません。

```
crtmdir dir(X'02')
```

したがって、16 進数で 40 未満のコード・ポイントは、パス名に使用しないでください。この制約条件は、コマンドおよび関連する表示にのみ適用され、API には適用されません。➤ さらに、16 進数 00 の値をパス名で使用することはできません。⬅

装置名の詳細については、『システム管理』の『バックアップおよび回復』のトピック『装置名の指定』を参照してください。

パス名の詳細については、Information Center の『統合ファイル・システム』のトピックを参照してください。

総称名 (*GENERIC)

総称名は、複数のオブジェクトに共通する少なくとも 1 つの先頭文字の後に、アスタリスクを付けたものです。(アスタリスクは、その前の共通文字列が総称名であることを示します。アスタリスクがなければ、システムはその文字列を特定のオブジェクトの名前であると解釈します。)

*GENERIC (総称名) に関する詳細については、このトピックの 51 ページの『総称オブジェクト名』のセクションを参照してください。

固有名に関するその他の規則

以下のタイプの名前については、それに付加する特殊文字 (付加文字) に関して、以下のような規則があります。

- コマンド・ラベル の後にはコロン (:) を付けなければなりません。コロンの後には空白を置くことができますが、コロンの前には空白があってはなりません。コマンド・ラベル名は引用符付きの名前であってはなりません。
- CL 変数名 の前にはアンパーサンド記号 (&) を付けて、CL プログラムの中で使用される CL 変数であることを示さなければなりません。

- 組み込み関数名の前にはパーセント記号 (%) を付けて、式の中で使用できる IBM^(R) 提供の組み込み関数であることを示さなければなりません。組み込み関数名は引用符付きの名前とすることはできません。

これらの特殊文字は名前の一部とは見なされません。これらの文字は、その名前が何を示しているかをシステムに知らせるために、名前に付ける付加文字です。したがって、名前は付加文字を含めれば、最大で 11 文字になることがあります。

OS/400^(R) オブジェクト、CL プログラム変数、システム値、および組み込み関数の名前は、個々のコマンドのパラメーターの中で指定できます。CL プログラムのほとんどのパラメーターでは、定数値の代わりに CL 変数名を使用することによって、プログラムの実行中に変化する値を指定できます。コマンドの実行時に使用されるオブジェクトおよび変数は、変数の内容で指定します。

一般に使用されるパラメーター: 補足説明

このセクションでは、CL コマンドで共通に用いられるいくつかのパラメーターについて補足説明を行います。ここに示されているパラメーターは、次の基準のいずれか、または両方を満たすパラメーターです。

- 使用形態について広範な情報を持つパラメーター。
- 多くの CL コマンドで使用されるパラメーター (例えば AUT パラメーター) で、個々のコマンドのパラメーターの説明では基本的な情報のみが簡潔に示されているもの。

ここでは、上記に該当するコマンド・パラメーターについて補足的な説明を行います。この理由は次のとおりです。

- 個々のコマンドの項におけるパラメーターの説明を簡潔にするため。パラメーターの主要機能をよく知っているプログラマーの方には、通常、詳細な説明は不要と考えられます。
- 場合によってはプログラマーの方にとって役に立つと思われる補足的な情報を提供するため。

この情報は、簡単に参照できる形式になっており、各パラメーターの全般的説明には、その機能についての説明、使用上の規則、その他の役立つ情報が記載されています。各パラメーターに指定できる値も列記してあります。各値については、その意味に加えて、それがどのコマンドで使用できるかも示しています。個々のコマンドでのすべての値が示されているわけではありません。個々のコマンドのパラメーターに指定する値の特定の用法については、該当するコマンドの項を参照してください。

以下を参照してください。

- 58 ページの『AUT パラメーター』
- 59 ページの『CLS パラメーター』
- 60 ページの『COUNTRY パラメーター』
- 65 ページの『FILETYPE パラメーター』
- 66 ページの『FRCRATIO パラメーター』
- 67 ページの『IGCFEAT パラメーター』
- 68 ページの『JOB パラメーター』
- 70 ページの『LABEL パラメーター』
- **➤** 71 ページの『LICOPT パラメーター』 **◀**
- 76 ページの『MAXACT パラメーター』
- 76 ページの『OBJ パラメーター』
- 77 ページの『OBJTYPE パラメーター』

- 78 ページの『OUTPUT パラメーター』
- 79 ページの『PRTTXT パラメーター』
- 80 ページの『REPLACE パラメーター』
- 81 ページの『スケジューリング優先順位パラメーター (JOBPTY、OUTPTY、PTYLMT)』
- 83 ページの『SEV パラメーター』
- 84 ページの『SPLNBR パラメーター』
- 84 ページの『TEXT パラメーター』
- 85 ページの『VOL パラメーター』
- 86 ページの『WAITFILE パラメーター』

AUT パラメーター

権限 (AUT) パラメーターは、作成コマンド、認可コマンド、および取り消しコマンドで使用します。このパラメーターによって、あるオブジェクトについてすべてのユーザーに認可する権限を指定します。また、オブジェクトの保護のために使用する権限リストも指定します。AUT パラメーターによって権限リストを組み込むことができるオブジェクト・タイプは、LIB、PGM、DTADCT、および FILE の 4 つです。共通権限は、OS/400^(R) オブジェクト属性の 1 つであり、システムへのアクセス権を備えたすべてのユーザーの、そのオブジェクトに対する基本的な権限の集合を制御するものです。これらの権限は、特定のユーザーについて拡大することも縮小することもできます。権限リストを指定した場合には、権限リストの共通権限が、そのオブジェクトについての共通権限になります。オブジェクトの所有者は、作成時にはそのオブジェクトに対するすべての権限を持っています。

オブジェクトを専用オブジェクトとして作成した場合、または全ユーザーに与える権限を制限して作成した場合には、所有者は、オブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT) コマンドに、特定のユーザーの名前および権限を指定することによって、特定のユーザーに認可する権限を拡大したり縮小したりすることができます。また、所有者は、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT) コマンド、またはオブジェクト権限編集 (EDTOBJAUT) コマンドを使用することにより、特定のユーザーまたは (共通権限または明示指定された権限、あるいはその両方を持つ) 全ユーザーについて、特定の権限を取り消すこともできます。

オブジェクト・タイプごとの、セキュリティー機能や適用可能な使用権限の完全な詳細については、

「iSeries 機密保護解説書」  に記載されています。

指定可能な値

***LIBCRTAUT:** オブジェクトの共通権限は、ターゲット・ライブラリー (オブジェクトを含むライブラリー) の CRTAUT パラメーターの値から取得されます。共通権限は、オブジェクトの作成時に決まります。オブジェクトの作成後にライブラリーの CRTAUT 値を変更しても、その新しい値は既存のオブジェクトには影響しません。

USE:** ユーザーは、オブジェクトに対して、プログラムの実行やファイルの読み取りなどの基本操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトを変更することはできません。USE** 権限には、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限があります。

***CHANGE:** ユーザーは、所有者限定の操作、またはオブジェクト存在権限とオブジェクト管理権によって制御される操作を除き、すべての操作をオブジェクトに対して実行できます。ユーザーは、オブジェクトの基本機能を変更および実行できます。変更権限には、オブジェクト操作権とすべてのデータ権限があります。

***ALL:** ユーザーはすべての操作を実行できます。ただし、所有者限定の操作や、権限リスト管理権によって制御されている操作は実行できません。ユーザーは、オブジェクトの存在の制御、オブジェクトのセキュリティの指定、オブジェクトの変更、およびオブジェクトに対する基本機能の実行を行うことができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***EXCLUDE:** ユーザーは、オブジェクトにアクセスすることができません。

***EXECUTE:** ユーザーは、プログラムまたはプロシーチャーの実行、あるいはライブラリーまたはディレクトリーの検索を行うことができます。

権限リスト名: 使用する権限が入っている権限リストの名前を指定してください。

CLS パラメーター

クラス (CLS) パラメーターは、ジョブの実行時環境を定義する属性を識別します。各クラスでは、次の属性が定義されます。

- **実行優先順位:** クラスを使用して実行するすべてのジョブに割り当てる優先順位レベルを指定する数値。優先順位レベルは、システム資源を争奪するすべてのジョブのうちで、次に実行すべきジョブを決定するために使用されます。指定可能な値は 1 から 99 までであり、1 が最高優先順位です (優先順位 1 のすべてのジョブが最初に実行されます)。
- **タイム・スライス:** ジョブが開始可能になったときに、そのジョブを実行するのにシステムが認める最大プロセッサ時間。このタイム・スライスには、このジョブが意味ある量の作業を完了するのに必要とする時間を指定します (システムが補助記憶域にアクセスするために要する時間は、タイム・スライスには含まれません)。タイム・スライスが経過すると、そのジョブは待機状態になり、待ち行列内の同じ優先順位または高い優先順位を持つ他のジョブが実行されている間、(それらのジョブのタイム・スライスに指定された時間が経過するまで) 待機します。そのあとで、待機していたそのジョブに別のタイム・スライスが与えられます。
- **除去値:** ジョブが、処理の続行ができずに資源の割り当てを待っている間、またはタイム・スライスを使い果たし、待機中のほかの同位または高位のジョブに処理を譲らなければならない場合に、そのジョブ・ステップを主記憶域から補助記憶域に移すことができるかどうかを示します。
- **デフォルトの待ち時間:** 待ち状態を引き起こした命令が完了するのをシステムが待つ場合の、デフォルト設定の待ち時間。この待ち時間は、命令がシステム活動を待っている時間に適用されるもので、命令がユーザーからの応答を待っている時間には適用されません。通常、待ち時間とは、ユーザーが要求を取り消さずにシステムの処置を待っている時間のことです。待ち時間を超過すると、該当のジョブに対してエラー・メッセージが渡されます。このデフォルトの待ち時間は、待ち状態を生じさせる CL コマンドに待ち時間が指定されていない場合にのみ、適用されます。

ファイル資源の割り振りに使用される待ち時間は、ファイル記述に指定しますが、指定変更コマンドを使用して指定変更することができます。指定変更コマンドは、クラス・オブジェクトに指定された待ち時間を使用することを指定します。ファイルがオープンされたとき、ファイル資源が使用可能でなかった場合は、システムは、待ち時間が経過するまではファイル資源の割り振りを待ちます。

注: クラス属性は、ジョブの各経路指定ステップに適用されます。ほとんどのジョブでは経路指定ステップは 1 つのみですが、(リモート・ジョブ・コマンドまたはジョブ転送コマンドなどのために) ジョブの経路が変更された場合には、クラス属性はリセットされます。

- **最大 CPU 時間:** ジョブの経路指定ステップの実行を完了するために使用できる、プロセッサ時間の最大許容限度 (個々のタイム・スライスが異なる場合は全タイム・スライスの合計、各タイム・スライスが

同じである場合はタイム・スライス時間×タイム・スライス数)。この時間内にジョブの経路指定ステップが完了しなかった場合には、その経路指定ステップは打ち切られ、メッセージがジョブ・ログに書き込まれます。

- 最大一時記憶域: ジョブの経路指定ステップで使用できる一時記憶域の最大量。一時記憶域は、ジョブで実行されるプログラム、ジョブをサポートするために使用されるシステム・オブジェクト、およびジョブが作成した一時オブジェクトを入れるために使用されます。

システムは、いくつかのジョブ処理環境の属性を定義する 1 組のクラスとともに出荷されます。ユーザーは、クラス作成 (CRTCLS) コマンドを使用して独自のクラスを作成することができます。また、どのクラスも、クラス表示 (DSPCLS) コマンドを用いて表示し、クラス削除 (DLTCLS) コマンドを用いて削除することができます。

指定可能な値

修飾クラス名: そのクラスを保管するライブラリーの名前です。クラス名は、必要に応じて修飾されます。クラスの名前が修飾されておらず、CRTCLS コマンドに CLS パラメーターが指定されている場合には、クラス・オブジェクトは *CURLIB に保管されます。そうでない場合には、ライブラリー・リスト (*LIBL) を使用してクラス名が探されます。

システムで提供されるクラス (名前別) は次のとおりです。

QGPL/QBATCH

バッチ・ジョブ用

QSYS/QCTL

制御サブシステム用

QGPL/QINTER

対話式ジョブ用

QGPL/QPGMR

プログラミング・サブシステム用

QGPL/QSPL

スプーリング・サブシステムの印刷装置書出プログラム用

QGPL/QSPL2

基本システム・プールでの一般スプーリング用

COUNTRY パラメーター

COUNTRY パラメーターには、X.400^R O/R 名の国コードまたは地域コード部分を指定します。ISO 3166 Alpha-2 コードまたは ITU-T の国または地域のコードを指定することができます。(ITU-T の国または地域のコードは、ITU-T (正式には CCITT) 勧告 X.121 (09/92)、 「公衆データ網のための国際番号計画」に記載されている、データ国別または地域別コードあるいは市外局番です。次の表に、指定可能な国コードまたは地域コードのリストを示します。

指定可能な値

*NONE: 国コードまたは地域コードを指定しません。

国コード: 次の表を見て、ISO 3166 Alpha-2 コード、または CCITT (ITU-2 と呼ばれる) 国コードを指定してください。

ISO X.400 国コードまたは地域コード

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
アフガニスタン	AF	412
アルバニア	AL	276
アルジェリア	DZ	603
米領サモア	AS	544
アンドラ	AD	
アンゴラ	AO	631
アンギラ島	AI	
南極大陸	AQ	
アンティグア・バーブーダ	AG	344
アルゼンチン	AR	722
アルメニア	AM	283
アルバ島	AW	362
オーストラリア	AU	505
オーストリア	AT	232
アゼルバイジャン	AZ	400
バハマ	BS	364
バーレーン	BH	426
バングラデシュ	BD	470
バルバドス	BB	342
ベラルーシ	BY	257
ベルギー	BE	206
ベリーズ	BZ	702
ベナン	BJ	616
バーミューダ	BM	350
ブータン	BT	
ボリビア	BO	736
ボスニア・ヘルツェゴビナ	BA	
ボツワナ	BW	652
ブーベ島	BV	
ブラジル	BR	724
英領インド洋植民地	IO	
ブルネイ・ダルサラーム	BN	528
ブルガリア	BG	284
ブルキナファソ	BF	613
ブルンジ	BI	642
カンボジア	KH	456
カメルーン	CM	624
カナダ	CA	302、303
カーボベルデ	CV	625
ケイマン諸島	KY	346
中央アフリカ共和国	CF	623
チャド	TD	622
チリ	CL	730
中国	CN	460
クリスマス島	CX	
ココス (キーリング) 諸島	CC	
コロンビア	CO	732
コモロ諸島	KM	654
コンゴ	CG	629
クック諸島	CK	548
コスタリカ	CR	712
コートジボアール	CI	612
クロアチア	HR	

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
キューバ	CU	368
キプロス	CY	280
チェコ共和国	CZ	230
デンマーク	DK	238
ジブチ	DJ	638
ドミニカ国	DM	366
ドミニカ共和国	DO	370
東チモール	TP	
エクアドル	EC	740
エジプト	EG	602
エルサルバドル	SV	706
赤道ギニア	GQ	627
エリトリア	ER	
エストニア	EE	248
エチオピア	ET	636
フォークランド (マルビナス) 諸島	FK	
フェロー諸島	FO	288
フィジー	FJ	542
フィンランド	FI	244
フランス	FR	208、209
フランス本国	FX	
仏領アンティル諸島		340
仏領ギアナ	GF	742
仏領ポリネシア	PF	547
仏領極南諸島	TF	
ガボン	GA	628
ガンビア	GM	607
グルジア	GE	282
ドイツ	DE	262 から 265
ガーナ	GH	620
ジブラルタル	GI	266
ギリシャ	GR	202
グリーンランド	GL	290
グレナダ	GD	352
グアドループ島	GP	
グアム島	GU	535
グアテマラ	GT	704
ギニア	GN	611
ギニアビサオ	GW	632
ガイアナ	GY	738
ハイチ	HT	372
ハード・アンド・マクドナルド・アイ ランズ	HM	
ホンジュラス	HN	708
中国 (香港特別行政区)	HK	453、454
ハンガリー	HU	216
アイスランド	IS	274
インド	IN	404
インドネシア	ID	510
イラン	IR	432
イラク	IQ	418
アイルランド	IE	272
イスラエル	IL	425
イタリア	IT	222

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
ジャマイカ	JM	338
日本	JP	440 から 443
ヨルダン	JO	416
カザフスタン	KZ	401
ケニア	KE	639
キリバス	KI	545
朝鮮民主主義 人民共和国	KP	467
大韓民国	KR	450、480、481
クウェート	KW	419
キルギスタン	KG	437
ラオス	LA	457
ラトビア	LV	247
レバノン	LB	415
レソト	LS	651
リベリア	LR	618
リビア・アラブ国	LY	606
リヒテンシュタイン	LI	
リトアニア	LT	246
ルクセンブルグ	LU	270
中国 (マカオ特別行政区)	MO	455
マケドニア ²	MK ²	
マダガスカル	MG	646
マラウイ	MW	650
マレーシア	MY	502
モルジブ	MV	472
マリ	ML	610
マルタ	MT	278
マーシャル諸島	MH	
マルチニーク島	MQ	
モーリタニア	MR	609
モーリシャス	MU	617
マヨット島	YT	
メキシコ	MX	334
ミクロネシア	FM	550
モルドバ	MD	259
モナコ	MC	212
モンゴル	MN	428
モンテネグロ ²	ME ²	
モントセラト島	MS	354
モロッコ	MA	604
モザンビーク	MZ	643
ミャンマー	MM	414
ナミビア	NA	649
ナウル	NR	536
ネパール	NP	429
オランダ	NL	204、205
オランダ領アンティル諸島	AN	362
ニューカレドニア	NC	546
ニュージーランド	NZ	530
ニカラグア	NI	710
ニジェール	NE	614
ナイジェリア	NG	621
ニウエ島	NU	

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
ノーフォーク島	NF	
北マリアナ諸島	MP	534
ノルウェー	NO	242
オマーン	OM	422
パキスタン	PK	410
パラオ	PW	
パナマ	PA	714
パプアニューギニア	PG	537
パラグアイ	PY	744
ペルー	PE	716
フィリピン	PH	515
ピトケアン島	PN	
ポーランド	PL	260
ポルトガル	PT	268
プエルトリコ	PR	330
カタール	QA	427
レユニオン島	RE	647
ルーマニア	RO	226
ロシア連邦	RU	250、 251
ルワンダ	RW	635
セントヘレナ島	SH	
セントクリストファー・ネイビス	KN	356
セントルシア	LC	358
サンピエール・エ・ミクロン島	PM	308
セントビンセントおよびグレナディ ンズ諸島	VC	360
サモア (西)	WS	549
サンマリノ	SM	292
サントメ・プリンシペ	ST	626
サウジアラビア	SA	420
セネガル	SN	608
セルビア ²	SP ²	
セイシェル	SC	633
シエラレオネ	SL	619
シンガポール	SG	525
スロバキア	SK	
スロベニア	SI	
ソロモン諸島	SB	540
ソマリア	SO	637
南アフリカ	ZA	655
南ジョージア島・南サンドイッチ諸島	GS	
スペイン	ES	214
スリランカ	LK	413
スーダン	SD	634
スリナム	SR	746
スバルバル諸島・ヤンマイエン島	SJ	
スワジランド	SZ	653
スウェーデン	SE	240
スイス	CH	228
シリア・アラブ共和国	SY	417
台湾	TW	466
タジキスタン	TJ	436
タンザニア連合共和国	TZ	640
タイ	TH	520

国または地域	ISO 3166 Alpha-2 コード	ITU-T ¹ 国コードまたは地域コード
トーゴ	TG	615
トケラウ諸島	TK	
トンガ	TO	539
トリニダード・トバゴ	TT	374
チュニジア	TN	605
トルコ	TR	286
トルクメニスタン	TM	438
タークス諸島・カイコス諸島	TC	376
ツバル	TV	
ウガンダ	UG	641
ウクライナ	UA	255
アラブ首長国連邦	AE	424、430、431
英国	GB	234、235、236、237
米国	US	310 から 316
アメリカ合衆国統治領諸島	UM	
ウルグアイ	UY	748
ウズベキスタン	UZ	434
バヌアツ	VU	541
バチカン市国	VA	225
ベネズエラ	VE	734
ベトナム	VN	452
バージン諸島 (英領)	VG	348
バージン諸島 (米領)	VI	332
ウォリス・フトーナ諸島	WF	543
西サハラ	EH	
イエメン	YE	421、423
旧ユーゴスラビア領	YU	220
ザイール	ZR	630
ザンビア	ZM	645
ジンバブエ	ZW	648

注:

¹ 国際電気通信連合 (ITU) 委員会の前身は、国際電信電話諮問委員会 (CCITT) です。

² 出版時に、これらの国または地域の ISO 3166 Alpha-2 コードを確認することができませんでした。このコードを使用する前に、最新の ISO 3166 標準を確認してください。

FILETYPE パラメーター

FILETYPE パラメーターは、データベース・ファイル記述が、データ・レコードとソース・レコードのどちらを記述するのかを指定します。さらに、作成するデータベース・ファイルの各メンバーにデータ・レコードを入れるのか、ソース・レコード (ステートメント) を入れるのかも指定します。例えば、ファイルには、RPG プログラム用の RPG ソース・ステートメント、または装置ファイルかデータベース・ファイル用のデータ記述仕様ソース・ステートメント (DDS ステートメント) を入れることができます。

注: ソース・タイプの物理 データベース・ファイルを作成している場合に、(データ記述仕様 (DDS) によって) そのファイルに関するフィールド・レベルの記述を作成していないのであれば、物理ファイル作成 (CRTPF) コマンドまたはソース物理ファイル作成 (CRSRCPF) コマンドのどちらでも使用することができます。ただし、CRSRCPF コマンドは、ソース物理ファイルを作成するためのコマンドとして設計されているために、通常この方が便利であり効率的です。ソース・タイプのデータベース・ファイルの作成時に DDS が指定される場合には、CRTPF コマンドまたは論理ファイル作成 (CRTL) コマンドを使用しなければなりません。この 2 つのコマンドには、ソース入力を指定するための SRCFILE パラメーターおよび SRCMBR パラメーターが含まれています。

ソース・ファイルの中のレコードには、少なくとも 3 つのフィールドが必要です。最初の 2 つはソース順序番号フィールドおよびデータ・フィールドであり、3 番目はソース・ステートメントが入るフィールドです。DDS を使用せずにソース・ファイルを作成する場合には、これらの 3 つのフィールドは OS/400^(R) により自動的に作成されます。追加のソース・フィールドは DDS で定義することができます。順序番号フィールドの長さは、ゾーン形式の 6 桁で、そのうち 2 桁は小数部でなければなりません。日付フィールドの長さは、ゾーン形式の 6 桁でなければならず、小数部が含まれてはなりません。

ソースの順序番号フィールドおよび日付フィールドは、次の時点でソース・レコードに付加されます。

- レコードがシステムに読み取られたとき
- 原始ステートメント入力ユーティリティ (アプリケーション開発 (Application Development*) ツール・ライセンス・プログラムの一部) によって、レコードが作成されたとき

インライン・データ・ファイル (標準ソース・ファイル様式として指定されたもの) が、装置から読み取られると、これらのフィールドが付加されます。スプール読み取りプログラムは、ソース順序番号フィールドに順序番号を入れ、全桁ゼロの日付フィールドをセットします。

装置から読み取ったレコードにこれらのフィールドがすでに入っている場合には、その既存フィールドは変更されません。データベース・ファイルのレコードがソースの様式で、しかもデータ形式のインライン・データ・ファイルとして読み取られる場合には、ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドは除去されます。

データおよびソース・ファイルの詳細については、Information Center の『データベース・プログラミング』のトピックを参照してください。

指定可能な値

***DATA:** 作成するファイルは、データ・レコードを入れるため、またはそれを記述するためのファイルです。

***SRC:** 作成するファイルは、ソース・レコードを入れるため、またはそれを記述するためのファイルです。キー順ファイルを作成する場合には、6 桁のソース・レコード順序番号フィールドをキー・フィールドとして使用しなければなりません。

FRCRATIO パラメーター

強制書き込み率 (FRCRATIO) パラメーターは、挿入、更新、または削除したレコードを補助 (永久) 記憶装置に強制的に書き込む前に、挿入、更新、または削除できるレコードの最大数を指定します。このパラメーターに強制書き込み率を指定すると、挿入、更新、または削除されたレコードはすべて、少なくともこの書き込み率で示される頻度で、確実に補助記憶装置に書き込まれるようになります。システム障害が起こった場合にも、失われる可能性のあるレコードは、最後の強制書き込み操作が行われた後で挿入、更新、または削除されたレコードのみです。

強制書き込み率は、それが適用されるファイルのオープン・データ・パス (ODP) を使用して、挿入、更新、または削除されたすべてのレコードに対して、適用されます。2 つのプログラムが (SHARE(*YES) の指定により) ファイルを共用している場合は、強制書き込み率が、各プログラムにより挿入、更新、または削除された一連のレコードに、別々に適用されるわけではありません。これは、任意の組み合わせのレコード (両方のプログラムからの) が指定の強制書き込み率パラメーター値に一致すると、適用されます。例えば、ファイルに対して強制書き込み率 5 を指定すると、2 つのプログラムからのレコードがどのように組み合わせられていても (一方のプログラムから 4 つ、他方のプログラムから 1 つなど)、処理レコードの合計が 5 になったら、補助記憶装置へのレコード強制書き込みが行われます。2 つ以上のプログラムがそ

それぞれ別の ODP を介して同じファイルを使用している場合には、各 ODP について別々の強制書き込み率を指定することができます。各プログラムからのレコードの挿入、更新、および削除は、各 ODP ごとに個別に累計されます。

各データベース・ファイルには、それぞれ、強制書き込み率を割り当てることができます。複数の物理ファイルのデータにアクセスできる論理ファイルの場合には、基礎となる物理ファイルに指定したよりもさらに限定的な強制書き込み率 (少ないレコード数) を指定することができます。ただし、論理ファイルには、物理ファイルより低い 強制書き込み率を指定することはできません。どの物理ファイルに指定した強制書き込み率よりも緩やかな強制書き込み率を論理ファイルに指定した場合には、各物理ファイルに指定した強制書き込み率のうち最も限定的なものが、論理ファイルに使用されます。例えば、3 つの物理ファイルの強制書き込み率がそれぞれ 2、6、8 であった場合は、これら 3 つの物理ファイルを基礎とする論理ファイルの強制書き込み率には、2 より大きい値を指定することはできません。その論理ファイルに強制書き込み率が指定されていない場合は、2 であると見なされます。したがって、(どの物理ファイルが影響を受けるかに関係なく) プログラムが、論理ファイル中の 2 つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに、それらのレコードが補助記憶装置に書き込まれます。

FRCRATIO の指定値は、SEQONLY の指定値を指定変更します。例えば、次のように指定したとします。

```
OVRDBF ... SEQONLY(*YES 20) FRCRATIO(5)
```

この場合、値 20 は指定変更され、5 レコード分のバッファが使用されます。FRCRATIO(1) を指定した場合にもバッファは使用されますが、このバッファにはレコードが 1 つしか入りません。

挿入、更新、および削除されたレコードに関連したアクセス・パスは、そのアクセス・パスにかかわるレコードがすべて補助記憶装置に書き込まれた後で、初めて補助記憶装置に書き込まれます。ファイルの ODP が 1 つしかない場合には、強制書き込みが起こった時点で必ずアクセス・パスが補助記憶装置に書き込まれます。ファイルに 2 つ以上の ODP がある場合には、すべての ODP に関連した挿入済み、更新済み、および削除済みのすべてのレコードの強制書き込みが行われるたびに、アクセス・パスも補助記憶装置に書き込まれます。

注:

- これらの規則は、2 以上の強制書き込み率を指定した場合に限り適用されます。強制書き込み率として 1 を指定した場合は、すべての ODP がクローズされるまで、アクセス・パスは補助記憶装置に書き込まれません。
- ファイルをジャーナルに記録している場合は、FRCRATIO(*NONE) を指定してください。▶ 詳細については、『システム管理』のトピックの『ジャーナル管理とシステム・パフォーマンス』を参照してください。◀

指定可能な値

***NONE:** 強制書き込み率は指定されません。レコードをいつ補助記憶域に書き込むかは、システムによって決定されます。

強制書き込み前レコード数: 補助記憶域への強制書き込みが明示的に行われる前に処理される、更新、挿入、または削除されるレコードの数を指定してください。

IGCFEAT パラメーター

IGCFEAT パラメーターは、装置および言語に応じて、どの 2 バイト文字セット (DBCS) を使用するのかを指定します。構成する 2 バイト文字セットに対応する IGCFEAT パラメーター、および DBCS フォント・テーブルについては、次の表を参照してください。

IGCFEAT パラメーターで構成可能な DBCS 機能

言語/装置	物理 DBCS ワークステーションのタイプ	構成されるタイプ	構成に組み込まれる DBCS 機能
日本語表示装置	5295-001 表示装置	5555-B01	((2424J4 55FE))
	5295-002 表示装置	5555-B01	((2424J4 68FE))
	InfoWindow [®] 3477-J 表示装置	5555-B01、 C01	((2424J4 68FE))
	5250PC 付き PS/55	5555-B01	((2424J4 68FE))
	グラフィック 5250PC 付き PS/55*	5555-G01	((2424J4 68FE))
	グラフィック 5250PC 付き PS/55*	5555-G02	((2424J4 68FE))
	5250PC/2 付き PS/55	5555-E01	((2424J0 (1)))
	3270 表示装置	3279-0	((2424J0 (1)))
	iSeries Access 付き PS/55	5555-B01	((2424J0 (1)))
	日本語 24x24 印刷装置	5295-001 表示装置に接続	5553-B01
5295-002 表示装置に接続		5553-B01	((2424J1 68FE))
PS/55 に接続		5553-B01	((2424J1 68FE))
5227-001 印刷装置		5553-B01	((2424J2 55FE))
5327-001 印刷装置		5553-B01	((2424J2 68FE))
日本語 32x32 印刷装置	5337-001 印刷装置	5553-B01	((3232J0 (1)))
	5383-200 印刷装置	5583-200	((3232J0 (1)))
韓国語表示装置	5250 表示装置	5555-B01	((2424K0 (1)))
	3270 表示装置	3279-0	((2424K0 (1)))
韓国語 24x24 印刷装置	5295 表示装置に接続	5553-B01	((2424K0 (1)))
	PS/55 に接続	5553-B01	((2424K0 (1)))
	5227-002 印刷装置	5553-B01	((2424K2 52FE))
中国語 (繁体字) 表示装置	5250 表示装置	5555-B01	((2424C0))
	3270 表示装置	3279-0	((2424C0))
中国語 (繁体字) 24x24 印刷装置	5295 表示装置に接続	5553-B01	((2424C0))
	PS/55 に接続	5553-B01	((2424C0))
	5227-003 印刷装置	5553-B01	((2424C2 5CFE))
中国語 (簡体字) 表示装置	5250 表示装置	5555-B01	((2424S0))
	3270 表示装置	3279-0	((2424S0))
中国語 (簡体字) 24x24 印刷装置	PS/55 に接続	5553-B01	((2424S0))
	5227-005 印刷装置	5553-B01	((2424S2 6FFE))

JOB パラメーター

JOB パラメーターは、コマンドを適用する対象となるジョブの名前を指定します。ジョブ名は、システム上のすべてのタイプのジョブを識別します。各ジョブは、次の形式を持つ修飾ジョブ名により識別されません。

ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

注: 構文は OS/400^(R) オブジェクト名と似ていますが、ジョブ名は OS/400 オブジェクト名とは異なる形式で修飾されます。

修飾ジョブ名の部分は次のようになります。

- ジョブ番号: ジョブ番号は、システムにより各ジョブに割り当てられた 6 桁の固有の番号です。ジョブ番号は、それ以外にジョブ名を他のジョブ名と区別する方法がない場合は、固有の修飾子となります。

ジョブ番号は、ジョブ表示 (DSPJOB) コマンドを用いて調べることができます。ジョブ番号を指定する場合には、長さは必ず 6 桁にしなければなりません。

- ユーザー名: ユーザー名により、実行するジョブのもとのユーザー・プロファイルが分かります。ユーザー名は、ユーザー・プロファイルの名前と同じであり、最高 10 文字の英数字からなっています。ユーザー名は、ジョブのタイプに応じて、次のように決まります。
 - バッチ・ジョブ: ユーザー名は、SBMJOB コマンドに指定した名前か、BCHJOB または SBJJOB コマンドで参照するジョブ記述に指定した名前です。
 - 対話式ジョブ: ユーザー名は、サインオン時に指定した名前か、あるいはワークステーションのジョブ項目で参照されている、ジョブ記述のデフォルト値から取られた名前です。
 - 自動開始ジョブ: ユーザー名は、自動開始ジョブのジョブ項目で参照されるジョブ記述に指定されています。
- ジョブ名: ジョブ名には、最高 10 文字の英数字を指定できます。最初の文字は英字でなければなりません。ジョブ名は、ジョブの 3 つのタイプに応じて、次のように決まります。
 - バッチ・ジョブ: ジョブ名は、バッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンドまたは、ジョブ投入 (SBMJOB) コマンドに指定した名前です。これらのコマンドに指定しなかった場合は、ジョブ記述の非修飾名が使用されます。
 - 対話式ジョブ: ジョブ名は、サインオンを行った装置 (ワークステーション) の名前と同じ名前になります。
 - 自動開始ジョブ: ジョブ名は、ジョブの実行時点で使用するサブシステム記述の、自動開始ジョブ項目に指定されます。このジョブ名は、自動開始ジョブ項目追加 (ADDAJE) コマンドで指定されたものです。

各コマンドに必要なのは、ジョブを識別するために単純名を使用することのみです。ただし、単純名が固有の名前ではない場合には、さらに修飾を加える必要があります。

重複ジョブ名

対話式 ジョブにおいて、重複したジョブ名をコマンドで指定した場合には、システムは、指定されたジョブ名で重複するものをすべて、修飾された形式でユーザーに示します。ジョブ名は、ユーザー名とジョブ番号によって修飾された形で表示されるため、ユーザーは、コマンドに指定したいジョブを、さらに明確に識別できます。これにより、正しい修飾ジョブ名を入力することができます。

バッチ・ジョブでコマンドに重複ジョブ名を指定すると、そのコマンドは処理されません。この場合には、ジョブ・ログにエラー・メッセージが書き込まれます。

指定可能な値

JOB パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次に示す値の 1 つ以上を表示できます。

: このジョブはコマンドが入力されたジョブ、すなわち JOB() の指定を持つコマンドが入力されたジョブです。

*JOBID: 単純ジョブ名として、ジョブ記述の修飾されていない名前が使用されます。

*NONE: ログ表示 (DSPLOG) コマンドの場合、ジョブ名は指定されません。

ジョブ名: 単純ジョブ名が指定されます。

修飾ジョブ名: ユーザーは、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。ジョブ修飾子 (ユーザー名およびジョブ番号) を指定しなかった場合は、該当のジョブ名を見つけるために、現在システム上に存在しているすべてのジョブが検索されます。指定した名前が重複していることが検出された場合は、修飾ジョブ名を指定しなければなりません。

LABEL パラメーター

▶ LABEL パラメーターは、入出力操作で使用するテープ上のデータ・ファイルの、データ・ファイル識別コードを指定します。◀ データ・ファイルは、交換形式または保管/復元形式のいずれでも構いません。

注: 装置ファイル・コマンドは、交換形式のテープに対してのみ使用され、保管/復元形式の場合には使用されません。また、ユーザー定義の装置ファイルは、保管/復元操作では使用されません。◀

▶ テープの各データ・ファイルには、それ自体のファイル・ラベルに保管されたデータ・ファイル識別コードがあります。◀ 各データ・ファイルのデータ・ファイル・ラベル (または見出しラベル) は、テープ上において、そのファイルのデータの直前に記録されます。すなわち、テープでは、ファイルごとに、その見出しラベルとデータ・レコードとで 1 つの単位が形成され、1 つのファイルの後に別のファイルが続いています。各ラベルには、データ・ファイル識別コードのほかに、ファイルに関するその他の情報 (ファイル順序番号、レコード属性、ブロック属性、マルチボリューム・データ・ファイルかどうかなど) も入っています。

通常、データ・ファイル識別コードは 8 文字以下の英数字文字ストリングです。▶ しかし、実際の最大文字数は、ファイルでどのようなデータ形式が使用されるか、およびどの CL コマンドに識別コードが指定されるかなどの、いくつかの条件によって決まります。◀ ファイル識別コード・フィールドの未使用部分は、ブランクのままにする必要があります。

データ・ファイル識別コードの最初の文字は、英字 (A から Z, \$, #, または @) でなければなりません。2 番目以降の文字は、英数字 (A から Z, 0 から 9, \$, #, _, ., および @) でなければなりません。識別コードをアポストロフィで囲めば、特殊文字も使用できます。▶ ただし、そのテープを iSeriesTM 以外のシステムでも使用する場合は、そのシステムでの識別コードの指定に関する要件も考慮しなければなりません。◀

▶ テープのデータ・ファイル識別コード ◀

テープのデータ・ファイル識別コードには 17 文字まで指定できます。ただし、テープを iSeries 以外のシステムで使用する場合には、8 文字以下の識別コード (または 17 文字以下の修飾識別コード) を使用しなければなりません。8 文字を超える場合には、識別コードを修飾した上でアポストロフィで囲まなければなりません。修飾識別コードの 2 つの部分はピリオドで区切り、どちらの部分も、8 文字以下になるようにしてください。例えば、LABEL('TAXES.JAN1980') のように指定します。この制限が適用されるのは、次のコマンドです: テープ・ファイル作成 (CRTTAPF) コマンド、テープ・ファイル変更 (CHGTAPF) コマンド、テープ・ファイル指定変更 (OVRTAPF) コマンド、およびテープ表示 (DSPTAP) コマンド。

データ・ファイルがボリュームに書き込まれる時点で、そのデータ・ファイルの識別コードが同じボリュームに記録されます。▶ 入出力操作の場合には、テープ装置ファイル・コマンドの 1 つに、識別コードを指定したり、あるいは、高水準言語プログラムにより、該当の装置ファイルをオープンする際、パラメーターとして識別コードを渡すことができます。◀

保管/復元形式

保管/復元形式のテープの場合には、識別コードに最高 17 文字を指定できます。ライブラリー名を用いてラベルを生成する場合、識別コードは 10 文字を超えることはできません。ライブラリー名以外のラベルを指定することもできます。

指定可能な値

LABEL パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のいずれか 1 つを指定することができます。

▶▶ ***ALL:** 指定したテープ・ボリュームの、すべてのデータ・ファイル識別コードについて、ラベルが画面に表示されます。◀◀

▶▶ ***NONE:** データ・ファイル識別コードは指定されません。テープ操作で使用するためには、装置ファイル（またはデータベース・ファイル、あるいはその両方）がオープンされる前に、データ・ファイル識別コードを指定しなければなりません。◀◀

▶▶ ***SAME:** テープ装置ファイルに入っている既存のデータ・ファイル識別コードは、変更されません。◀◀

データ・ファイル識別コード: 装置ファイル記述で使用するため、または表示するためにデータ・ファイル識別コードを指定します。

***LIB:** ファイル・ラベルはシステムによって作成され、LIB パラメーターに指定したライブラリーの名前がファイル名の修飾子として使用されます。

***SAVLIB:** ファイル・ラベルはシステムによって作成され、SAVLIB パラメーターに指定したライブラリーの名前がファイル名の修飾子として使用されます。▶▶

LICOPT パラメーター

ライセンス内部コード・オプション (LICOPT) パラメーターを使用して、コンパイル時間オプションを個別に指定します。このパラメーターは、選択した各タイプのコンパイラー・オプションの考えられる利点と欠点について理解している上級プログラマーを対象としています。

この表は、ライセンス内部コード・オプション (LICOPT) パラメーターによって認識されるストリングを示します。これらのストリングでは大文字と小文字が区別されませんが、読みやすくするために大文字と小文字を混ぜて示しています。

LICOPT パラメーター・ストリング

ストリング	記述
AllFieldsVolatile	設定されると、すべてのフィールドを揮発性として扱います。
NoAllFieldsVolatile	設定されると、どのフィールドも揮発性として扱いません。
AllowBindingToLoadedClasses	実行中の Java TM 仮想マシン内で defineClass 呼び出しの結果として作成された一時的なクラス表現が、同じ Java 仮想マシン内の他のクラス表現と密結合できることを示します。

ストリング	記述
NoAllowBindingToLoadedClasses	実行中の Java 仮想マシン内で defineClass 呼び出しの結果として作成された一時的なクラス表現が、同じ Java 仮想マシン内の他のクラス表現と密結合できないことを示します。
AllowClassCloning	複数の Java プログラムが単一の JAR ファイル用に生成されるときに、1 つのプログラムのクラスのコピーを、別のプログラムの生成コードに組み込めるようにします。積極的なインライン化が可能になります。
NoAllowClassCloning	1 つのプログラムのクラスのコピーを、別のプログラムの生成コードに組み込めないようにします。
AllowInterJarBinding	コンパイル中のクラスまたは JAR ファイルの外部にあるクラスとの密結合が可能になります。積極的な最適化が可能になります。
NoAllowInterJarBinding	コンパイル中のクラスまたは JAR ファイルの外部にあるクラスとの密結合を禁止します。これは、CRTJVAPGM の CLASSPATH パラメーターと JDKVER パラメーターの指定を上書きします。
AllowMultiThreadedCreate	CRTJVAPGM は、作成中に複数のスレッドを使用します (使用可能な場合)。マルチプロセッサ・システムでは、これによって 1 度に複数のプロセッサを使用して、長時間の CRTJVAPGM 操作に必要な全体の時間を削減することができます。ただし、CRTJVAPGM はより多くのシステム資源を使用するため、他のアプリケーションで使用可能な資源が少なくなります。
NoAllowMultiThreadedCreate	CRTJVAPGM が 1 つのスレッドのみを使用して、通常どおり実行することを示します。
AnalyzeObjectLifetimes	可視クラスを使用して分析を実行し、存在期間の短いオブジェクトを判別します。このような存在期間の短いオブジェクトは、それが割り振られたメソッド内でしか存在しないので、より積極的な最適化の対象となります。
NoAnalyzeObjectLifetimes	存在期間の短いオブジェクトの分析を実行しません。
AllowBindingWithinJar	ZIP ファイルまたは JAR ファイル内のクラス表現が、同じ ZIP ファイルまたは JAR ファイル内の他のクラス表現と密結合できることを示します。
NoAllowBindingWithinJar	ZIP ファイルまたは JAR ファイル内のクラス表現が、同じ ZIP ファイルまたは JAR ファイル内の他のクラス表現と密結合できないことを示します。
AllowInlining	変換プログラムに、ローカル・メソッドのインライン化が許可されることを伝えます。これは、最適化レベル 30 および 40 についてのデフォルトです。
NoAllowInlining	変換プログラムに、ローカル・メソッドのインライン化が許可されることを伝えません。
AssumeUnknownFieldsNonvolatile	外部クラス内のフィールドの属性を判別できないときに、このパラメーターは、フィールドが不揮発性であると想定することによってコードを生成します。

ストリング	記述
NoAssumeUnknownFieldsNonvolatile	外部クラス内のフィールドの属性を判別できないときに、このパラメーターは、フィールドが揮発性であると想定することによってコードを生成します。
BindErrorHandling	AssumeUnknownFieldsNonvolatile、PreresolveExtRef、または PreLoadExtRef ライセンス内部コード・オプションを受け入れた結果として、クラス表現に現行のコンテキストでは使用できないメソッド表現が含まれていることが Java 仮想マシンのクラス・ローダーによって検出された場合に、実行しなければならない処置を指定します。
BindInit	ローカル初期メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用します。
NoBindInit	ローカル初期メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用しません。
BindSpecial	ローカル特殊メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用します。
NoBindSpecial	ローカル特殊メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用しません。
BindStatic	ローカル静的メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用します。
NoBindStatic	ローカル静的メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用しません。
BindTrivialFields	プログラムの作成中に単純なフィールド参照をバインドします。
NoBindTrivialFields	最初のアクセス時にフィールド参照を解決します。
BindVirtual	ローカル最終仮想メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用します。
NoBindVirtual	ローカル最終仮想メソッドに対するバインド済み呼び出しを使用しません。
DeferResolveOnClass	クラスの名前であると見なされるストリング・パラメーター (例えば、java.lang.Integer) を採用します。 PreresolveExtRef を最適化レベル 40 に設定すると、DeferResolveOnClass で指定されたクラスは事前解決操作に使用されません。これは、コード内の未使用のパスにおける一部のクラスが CLASSPATH がない場合に役立ちます。欠落した各クラスに 「DeferResolveOnClass='somepath.someclass'」を指定すると、このことに関係なく最適化レベル 40 を使用することができます。複数の DeferResolveOnClass 項目が使用可能です。
DevirtualizeFinalJDK	CRTJVPGM が標準 JDK の知識を使用して、最終メソッドまたは最終クラスのメンバーとして認識されている JDK メソッドへの呼び出しを非仮想化することを許可します。これは、最適化レベル 30 および 40 でのデフォルトです。

ストリング	記述
NoDevirtualizeFinalJDK	CRTJVAPGM が標準 JDK の知識を使用して、最終メソッドまたは最終クラスのメンバーとして認識されている JDK メソッドへの呼び出しを非仮想化することを許可しません。
DevirtualizeRecursive	一部の再帰的メソッドのケースで特殊なコードが生成されるようにし、再帰的メソッド呼び出しのオーバーヘッドの大部分を除去します。ただし、再帰的メソッドの最初の入り口で追加の検査論理が生成されるため、再帰が浅いケースではパフォーマンスが向上しない可能性があります。
NoDevirtualizeRecursive	一部の再帰的メソッドのケースで特殊なコードが生成されるようにしません。
DisableIntCse	特定のタイプの整数式のコードを生成する際に、特定の共通副次式の最適化が使用不可になるようにします。これにより、最適化変換プログラムに他の最適化を行う機会が与えられるため、最適化全体が向上する可能性があります。
NoDisableIntCse	特定のタイプの整数式のコードを生成する際に、特定の共通副次式の最適化を使用不可にならないようにします。これにより、通常、最適化レベルが低いコードではパフォーマンスが向上します。
DoExtBlockCSE	拡張基本ブロック共通副次式の除去を実行します。
NoDoExtBlockCSE	拡張基本ブロック共通副次式の除去を実行しません。
DoLocalCSE	ローカル共通副次式の除去を実行します。
NoDoLocalCSE	ローカル共通副次式の除去を実行しません。
EnableCseForCastCheck	設定されると、以前のインスタンスに DAG できるキャスト・チェック用のコードを生成します。
NoEnableCseForCastCheck	設定されません。以前のインスタンスに DAG できるキャスト・チェック用のコードを生成しません。
ErrorReporting	実行時エラー報告フィールド*: 検査またはクラス形式エラーが検出されたときに、コンパイルを失敗させるためのオプションを提供します。0 = すべてのエラーを即時に報告します。1 = バイトコード検査エラーの報告を遅らせます。2 = バイトコード検査エラーとクラス形式エラーの報告を実行時まで遅らせます。
HideInternalMethods	複製したクラスのメソッドを内部メソッドとします。それによって、それらのメソッドに参照がない場合、またはすべての参照がインライン化される場合に、そのメソッドを省略できるようにします。デフォルトは、最適化 40 の場合は HideInternalMethods で、最適化 0 から 30 の場合は NoHideInternalMethods です。
InlineArrayCopy	スカラー配列の一部のケースで System.arraycopy メソッドのインライン化が行われるようにします。
NoInlineArrayCopy	System.arraycopy メソッドのインライン化が行われないようにします。
InlineInit	java.lang クラスの初期メソッドをインライン化します。
NoInlineInit	初期メソッドをインライン化しません。

ストリング	記述
InlineMiscFloat	java.lang.Math からの各種 float/double メソッドをインライン化します。
NoInlineMiscFloat	各種 float/double メソッドをインライン化しません。
InlineMiscInt	java.lang.Math からの各種 int/long メソッドをインライン化します。
NoInlineMiscInt	各種 int/long メソッドをインライン化しません。
InlineStringMethods	java/lang/String からの特定のメソッドのインライン化を許可します。
NoInlineStringMethods	java/lang/String からの特定のメソッドのインライン化を禁止します。
InlineTransFloat	java.lang.Math からの超越 float/double メソッドをインライン化します。
NoInlineTransFloat	超越 float/double メソッドをインライン化しません。
OptimizeJsr	単一のターゲットを持つ "jsr" バイトコードについて、より良いコードを生成します。
NoOptimizeJsr	単一のターゲットを持つ "jsr" バイトコードについて、より良いコードの生成を抑制します。
PreloadExtRef	参照されたクラスがメソッドの入り口で (クラスの初期設定を行わずに) プリロードできることを示します。
NoPreloadExtRef	参照されたクラスがメソッドの入り口でプリロードできないことを示します。ただし、PreresolveExtRef パラメータはこの設定を指定変更し、参照されたクラスがプリロードおよび初期設定されるようにします。
PreresolveExtRef	参照されたメソッドをメソッドの入り口で事前に解決します。
NoPreresolveExtRef	メソッド参照を最初のアクセス時に解決します。これは、他のマシンで実行されるプログラムで「クラス未検出」例外を解決するために使用します。
ProgramSizeFactor	JAR ファイルが大きいため、複数の Java プログラムが必要な場合、この数値 (デフォルトは 100) を使用して、各プログラムがどれくらいまで大きくなれるかを決定します。
ShortCktAthrow	設定されると、athrow の回避を試みます。
NoShortCktAthrow	設定されないと、athrow の回避を試みません。
ShortCktExSubclasses	設定されると、例外のサブクラスの一部を認識し、それらを直接回避します。
NoShortCktExSubclasses	設定されないと、例外のサブクラスの一部を認識せず、それらを直接回避しません。
StrictFloat	Java 仕様に厳密に準拠しない浮動小数点の最適化を禁止します。
NoStrictFloat	Java 仕様に厳密に準拠しない浮動小数点の最適化を許可します。

二重のアスタリスク (**) は、これらのストリングが stringname=number (間にはスペースなし) という構文の数値の入力を必要とすることを示します。



MAXACT パラメーター


並行して開始し、活動状態を維持することができるジョブの最大数を指定するには、最大活動レベル (MAXACT) パラメーターを使用します。この指定は、ジョブ待ち行列項目、通信項目、経路指定項目、またはワークステーション項目を介して行うことができます。ジョブは、実行が開始された時点から実行が完了する時点まで、活動状態であると見なされます。これには、次に示す時間が含まれます。

- ジョブが実際に処理されている時間。
- ジョブがワークステーション・ユーザーからの応答を待っている時間。
- ジョブが開始されていて処理可能ではあるが、実際には処理装置を使用していない時間。例えば、ジョブが指定のタイム・スライスを使い終えて、別のタイム・スライスが割り当てられるのを待っている時間。
- ジョブが開始されたが、処理のために使用できる状態になっていない時間。ジョブがそのメッセージ待ち行列にメッセージが送られてくるのを待っている時間。


指定可能な値

***NOMAX:** 同時に活動状態になれるジョブ数の限度はありません。

最大活動ジョブ数: この項目を介して、同時に活動状態にできるジョブの最大数を表す値を指定してください。

活動レベルの制御に関する詳細については、V5R1 補足資料の Web サイトにある「実行管理」 を参照してください。

OBJ パラメーター

オブジェクト (OBJ) パラメーターには、このパラメーターを使用したコマンドにより処理される 1 つ以上のオブジェクトの名前を指定します。  OS/400^(R) ライブラリーに存在しなければならないオブジェクトが OBJ パラメーターによって識別される場合は、すべてのオブジェクトが、使用するコマンドに応じて、以下のいずれかである必要があります。

- LIB パラメーターで指定されるライブラリー
- SAVLIB パラメーター
- OBJ パラメーターのライブラリー修飾子
- OBJ パラメーターのパス名のライブラリー部分





コマンドによっては、一群のオブジェクトの総称名を指定することができるものもあります。総称名は、各オブジェクト名に共通する文字の後にアスタリスク (*) を付けたもの、例えば、ABC* などです。名前に * が付いていない場合には、システムはその名前を完全なオブジェクト名であると見なします。

指定可能な値

OBJ パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次のタイプの値を指定できます。

- *ALL
- 単純オブジェクト名

- 修飾オブジェクト名
- 総称オブジェクト名
- 修飾総称オブジェクト名
-  パス名 (詳しくは、55 ページの『パス名 (*PNAME)』を参照してください。) 

OBJTYPE パラメーター

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE) パラメーターは、オブジェクトが指定されたコマンドにより操作できる OS/400^(R) オブジェクトのタイプを指定します。OBJTYPE パラメーターに指定できるオブジェクト・タイプは、コマンドによって異なります。

特定のコマンド・タイプに関連する特定のコマンドを知らなくても、この表で示すオブジェクト関連コマンドによって、ほとんどのオブジェクトに対して一般的な操作を行うことができます。例えば、CPYF (ファイル・コピー)、または CPYLIB (ライブラリー・コピー) などの特定のコマンドを使用しなくても、CRTDUPOBJ コマンドを使用して、ファイルまたはライブラリーのコピーを作成できます。

オブジェクト関連コマンド

このセクションには、OBJTYPE パラメーターを含むコマンドをリストします。コマンドを使用して操作可能なオブジェクト・タイプを見つけるには、リストされている各コマンドの情報を参照してください。特殊値および対応するオブジェクト・タイプのリストについては、48 ページの『外部オブジェクト・タイプ』を参照してください。

次に示すコマンドには OBJTYPE パラメーターがありますが、処理対象となるオブジェクト・タイプの数はわずかです。

- CHKDLO では *DOC および *FLR が処理対象になります。
- CPROBJ および DCPOBJ では *FILE、*MENU、*MODULE、*PGM、*PNLGRP、および *SRVPGM が処理対象になります。
- CRTSQLPKG では *PGM および *SRVPGM が処理対象になります。
- DSPPGMADP では *PGM、*SQLPKG および *SRVPGM が処理対象になります。
- DSPPGMREF では *PGM および *SQLPKG が処理対象になります。
- RSTCFG では *CFGL、*CNL、*COSD、*CTLD、*DEVD、*LIND、*MODD および *NWID が処理対象になります。
- SAVLICPGM では *LNG および *PGM が処理対象になります。
- SETOBJACC では *FILE および *PGM が処理対象になります。

DSPLNK および WRKLNK では、すべてのオブジェクト・タイプが処理対象になります。

上記以外に、ALCOBJ コマンドおよび DLCOBJ コマンドでも、オブジェクト・タイプ値の指定が必要です。しかし、これらのコマンドの場合は、オブジェクト・タイプ値を必須パラメーター OBJ の 4 つの値 (値のリスト) の中の 1 つとして指定します。

以下の オブジェクト関連コマンドでは、数多くのオブジェクト・タイプが処理対象になります。

オブジェクト	オブジェクト権限	保管/復元	ジャーナル	その他
CHGOBJD	CHGOBJAUD	RSTOBJ	CHGJRNOBJ	DMPOBJ
CHKOBJ	CHGOBJOWN	SAVCHGOBJ	ENDJRNOBJ	DMPSYSOBJ
CRTDUPOBJ	CHGOBJPGP	SAVOBJ	STRJRNOBJ	PRTDSKINF
DSPOBJD	DSPOBJAUT			WRKOBJLCK
MOV OBJ	EDTOBJAUT			
RNMOBJ	GRTOBJAUT			
RTVOBJD	RVKOBJAUT			
WRKOBJ				



OUTPUT パラメーター

OUTPUT パラメーターを使用して、表示コマンドからの出力を画面に表示するか、印刷するか、あるいは出力ファイルに書き出すかを指定します。基本的には、いずれの場合にも同じ情報が出力されますが、形式のみは、該当する装置に最も適した形式で情報が表示されるように変更されます。例えば、表示画面よりも印刷ページの方が行数が多いため、欄見出しの反復は印刷出力の方が少なくなります。

出力を画面に表示する場合、表示コマンドを出したワークステーションにその出力が送られます。この出力は、その表示コマンドで使用される表示装置ファイルに指定された形式で表示されます。各表示コマンドで作成される出力ごとに、別々の装置ファイルが使用されます。また、表示する場合、印刷する場合、および出力ファイルに書き出す場合によって、それぞれ装置ファイルが異なります。ほとんどの場合、コマンドの名前は、該当のタイプの装置ファイルのファイル名の一部になります。

出力を印刷する場合には、出力はスプールされ、項目がジョブの出力待ち行列に入れられます。この出力は、印刷装置書出プログラム開始 (STRPRTWTR) コマンドに指定されている印刷装置で印刷することができます。

注: IBM^(R) 提供の印刷装置ファイルは、出荷時点では SPOOL(*YES) が指定されていますが、印刷装置ファイル指定変更 (OVRPRTF) コマンド、または印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF) コマンドを使用して、SPOOL(*NO) に変更することができます。

表示コマンドに OUTPUT パラメーターを指定しなかった場合は、デフォルト値である * を指定したものと見なされます。このデフォルト値の結果として生成される出力は、コマンドを入力したジョブのタイプによって決まります。次の表に、対話式ジョブおよびバッチ・ジョブの場合にどのように出力が生成されるかを示します。

出力 *	対話式ジョブ 表示	バッチ・ジョブ 印刷
*PRINT	印刷	印刷

指定可能な値

*: 対話式ジョブから要求した出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力の印刷となります。

***PRINT:** 出力は、ジョブのスプール出力の印刷となります。

***OUTFILE:** 出力は、指定したデータベース・ファイルに書き込まれます。

PRTTXT パラメーター

印刷テキスト (PRTTXT) パラメーターは、リストの最下部および区切りページに印刷するテキストを指定します。印刷テキストは、ジョブがシステムに入った時点で、ジョブ属性からコピーされます。別のシステムで開始された印刷ファイルでは、ターゲット・システムの印刷テキストは使用されません。印刷テキストは、特定のジョブの印刷テキストを定義するためのジョブ属性 (PRTTXT) であり、また、*SYSVAL が指定されたジョブのデフォルト値となるシステム値 (QPRTTXT) です。QPRTTXT は、システム全体にわたって、すべてのジョブのデフォルト値となります。

印刷テキストは、長さ 30 文字以内で指定できます。印刷テキストは、用紙幅の中央に位置合わせされ、オーバーフロー域に印刷されます。30 文字幅のテキスト・フィールド内でのテキストの中央そろえは、ユーザーが行わなければなりません。

印刷テキストがブランクでなければ、システムは、各ページの下に 30 文字のテキストを印刷します。このテキストは、通常、オーバーフロー行の次に置かれ、(用紙長において可能であれば) テキストの前に 1 行のブランクが設けられます。ユーザーの印刷したテキストがオーバーフロー行を超えている場合は、ユーザー・テキストの最後の行の次に印刷テキストが置かれ、この場合も、可能であればその印刷テキストの前に 1 行のブランクが設けられます。オーバーフロー行が用紙の最終行の場合には、印刷テキストも用紙の最終行に印刷されるため、ユーザー・テキストの上に重ねて印刷テキストが印刷されることもあります。

ジョブ区切りおよびファイル区切り用の印刷テキストは、区切りページの 1 行目に置かれます。ジョブ区切りには、ファイルの印刷時点でその区切り記号を作成したジョブの印刷テキストが入ります。ファイル区切りには、その後続くスプール・ファイルの印刷テキストと同じ印刷テキストが入ります。

印刷テキストは、あらゆるジョブ・タイプに指定できます。システムおよびサブシステムのモニター・ジョブでは、システム値が使用されます。読み取りプログラム・ジョブおよび書き出しプログラム・ジョブでは、システム値が使用されます。ただし、該当する読み取りプログラムまたは書き出しプログラムに関連した QSPLxxxx ジョブ記述内で印刷テキストを変更した場合は、別です。

印刷テキストは、次の階層順序に従って決定されます。ある階層で印刷テキストが指定されていなかった場合は、次の順序の階層のテキストが使用されます。

階層順序は、優先順位の高いものから示すと、次のようになります。

- 指定変更印刷ファイルの値
- 印刷ファイルの値
- ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドにより変更されたジョブ属性
- ジョブ投入 (SBMJOB) コマンドまたは、バッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンドにより設定されたジョブ属性
- ジョブ記述
- システム値

指定可能な値

システム値 QPRTTXT には、*SYSVAL 以外の任意の文字ストリングを指定できます。*BLANK を指定した場合は、印刷テキストは印刷されません。PRTTXT には、使用するコマンドに応じて次に示す値のいくつかを選択することができます。

***SAME:** 印刷テキストは変更されません。

***CURRENT**: 印刷テキストは投入ジョブから取られます。

***JOB**: 印刷テキストは、ジョブの実行を制御するジョブ記述から取られます。

***SYSVAL**: 印刷テキストは、システム値 QPRTEXT から取られます。

***BLANK**: 印刷テキストは印刷されずブランクになります。

'印刷テキスト': 30 文字のテキストを指定してください。テキストにブランクが含まれている場合には、項目全体をアポストロフィで囲まなければなりません。ページの中央にテキストを位置合わせして印刷するためには、その印刷テキストを、30 桁のフィールドの中央に位置合わせしなければなりません。

REPLACE パラメーター

置き換え (REPLACE) パラメーターは作成コマンドで使用されます。このパラメーターは、既存のオブジェクト (存在する場合) を、同じ名前、ライブラリー、オブジェクト・タイプを持つ、今回作成するオブジェクトと置き換えるように指定します。新しいオブジェクトのユーザーには、旧オブジェクトの場合と同じ権限が認可されます。置き換えられるオブジェクトが権限リストによって保護されている場合は、新しいオブジェクトも同じ権限リストによって保護されます。新しいオブジェクトの権限は、置き換えられるオブジェクトの共通権限と同じです。作成コマンドの AUT パラメーターは無視されます。置き換えられるオブジェクトの専用認可は、そのまま新しいオブジェクトに継承されます。置き換えられるオブジェクトの所有者は、新しいオブジェクトに継承されません。新しいオブジェクトの所有者は、そのオブジェクトの作成者、または作成者のグループ・プロファイルです。現行ジョブまたは別のジョブが使用中である場合、パネル・グループ、表示装置ファイル、およびメニューなどのいくつかのオブジェクトは、置き換えることができません。

作成されるオブジェクトがプログラムまたはサービス・プログラムの場合には、置き換えられるプログラムのユーザー・プロファイル (USRPRF パラメーター) の値が使用されます。プログラム作成コマンドまたはサービス・プログラム作成コマンドのユーザー・プロファイルの値 (USRPRF パラメーター) は、無視されます。置き換えられるプログラムまたはサービス・プログラムのユーザー・プロファイル (USRPRF パラメーター) の値が *OWNER の場合は、置き換えられるプログラムまたはサービス・プログラムの現在の所有者のみが、既存のプログラムまたはサービス・プログラムと置き換わる新しいプログラムまたはサービス・プログラムを作成できます。既存のオブジェクトと作成されるオブジェクトの所有者が一致しない場合、オブジェクトは作成されず、メッセージ CPF2146 が送られます。

作成されるオブジェクトがプログラムまたはサービス・プログラムの場合は、オブジェクトを作成するユーザーが、USEADPAUT(*YES) 属性によって、プログラムまたはサービス・プログラムを作成できる限り、置換されたプログラムまたはサービス・プログラムの使用借用権限 (USEADPAUT) 値が使用されます。ユーザーが借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成できるかどうかは、QUSEADPAUT システム値によって決まります。例えば、置換される既存のオブジェクトが USEADPAUT(*YES) を持ち、ユーザーが、借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成する権限を持たない場合、作成されるプログラムまたはサービス・プログラムは USEADPAUT(*NO) を持ちます。この場合、USEADPAUT 値はコピーされません。ユーザーが、借用権限を使用するプログラムまたはサービス・プログラムを作成する権限を持つ場合、作成されるプログラムまたはサービス・プログラムは、置換されるプログラムまたはサービス・プログラムと同じ USEADPAUT 値を持ちます。USEADPAUT 値が置換されるオブジェクトにコピーされたかどうかを示す通知メッセージが送られます。

作成中のオブジェクトがファイルであり、REPLACE パラメーターでデフォルトの値を取るか *YES を指定した場合は、保管ファイルおよび DDM ファイルを除く既存の装置ファイルのうちで、同じ修飾名を持つファイルが、新しいファイルで置き換えられます。例えば、既存の表示装置ファイルを、新しい印刷装置ファイルまたはテープ・ファイルなどで置き換えることができます。

既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えるには、その既存のオブジェクトに対するオブジェクト管理権 (*OBJMGT)、オブジェクト存在権 (*OBJEXIST)、および読み取り権 (*READ) が必要です。

新しいオブジェクトの作成が正常に完了すると、既存のオブジェクトは名前が変更され、ライブラリー QRPLOBJ に移されるか、あるいはそのオブジェクトが独立 ASP にある場合はライブラリー QRPLxxxxx に移されます (この「xxxxx」は、ASP グループの基本 ASP の番号です)。古いオブジェクトは、文字 Q の後にタイム・スタンプを付加した名前に変更され、ライブラリー QRPLOBJ に移されるか、あるいはそのオブジェクトが独立 ASP にあった場合はライブラリー QRPLxxxxx に移されます。

制約条件: プログラムは、実行中でも置き換えることができます。ただし、置き換えられたプログラムの名前が Q タイム・スタンプ名に変更された後で、そのプログラムがプログラム・メッセージ待ち行列を参照すると、プログラムは実行不能になり、該当するプログラム・メッセージ待ち行列が見つからないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

物理データベース・ファイル、論理データベース・ファイル、および保管ファイルは、いかなるファイルによっても置き換えることはできません。

ライブラリー QRPLOBJ は、システムの初期プログラム・ロード (IPL) が完了した時点で消去されます。ライブラリー QRPLxxxxx は、ASP グループの基本 ASP がオンに変更になった時点で消去されます。

指定可能な値

***YES:** 作成する新しいオブジェクトと同じ名前を持ち、しかも同じオブジェクト・タイプの既存のオブジェクトが同じライブラリーにある場合に、システムはその既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えます。

***NO:** 作成する新しいオブジェクトと同じ名前を持ち、しかも同じオブジェクト・タイプの既存のオブジェクトが同じライブラリーにあっても、システムはその既存のオブジェクトを新しいオブジェクトで置き換えません。

スケジューリング優先順位パラメーター (JOBPTY、OUTPTY、PTYLMT)

システムが処理すべきジョブとスプール・ファイルを選択する順序を決定するときには、スケジューリング優先順位パラメーターの指定が使用されます。各ジョブには、ジョブ選択およびスプール・ファイル出力の両方に使用するスケジューリング優先順位を指定します。ジョブのスケジューリング優先順位は、バッチ・ジョブ (BCHJOB)、ジョブ投入 (SBMJOB)、ジョブ記述作成 (CRTJOB)、およびジョブ記述変更 (CHGJOB) などのコマンドの JOBPTY パラメーターにより指定します。ジョブからのスプール出力を生成する場合の優先順位は、これらのコマンドの OUTPTY パラメーターにより指定します。

さらに、どのジョブも特定のユーザー・プロファイルのもとで処理されるので、各ジョブの優先順位には、ユーザー・プロファイルの作成 (CRTUSRPRF) コマンド、およびユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドに指定する PTYLMT パラメーターの値によって、制約を付けることができます。このパラメーター値は、当該ユーザー・プロファイルのもとで実行されるすべてのジョブが持ち得る最高ジョブ・スケジューリング優先順位および最高出力優先順位を制御します。すなわち、ジョブ・コマンドの JOBPTY パラメーターおよび OUTPTY パラメーターに指定する優先順位は、そのジョブに関連したユーザー・プロファイルの PTYLMT パラメーターに指定された優先順位を超えることはできません。スケジューリング優先順位は、ジョブ実行のために選択する順序を決めるために使用されるもので、クラス・オブジェクトに指定する実行優先順位とは関係ありません。

3 つのスケジューリング優先順位パラメーターで指定する項目は次のとおりです。

- PTYLMT パラメーターは、投入するすべてのジョブに対し、最高のスケジューリング優先順位を指定します。ユーザー・プロファイルに影響を及ぼすコマンドでは、PTYLMT パラメーターの値が、それぞれの特定のジョブに関連したコマンドの JOBPTY パラメーターに指定可能な最高優先順位となります。ジョブの投入に使用するコマンドには、これより低い優先順位をジョブの優先順位として指定することができます。BCHJOB コマンドまたは SBMJOB コマンドの JOBPTY に、関連するユーザー・プロファイルの PTYLMT に指定した優先順位より高い優先順位を指定した場合には、エラー・メッセージが画面に表示され、PTYLMT に指定した最高優先順位を指定したものと見なされます。CHGJOB コマンドまたは CHGJOB コマンドに PTYLMT 値より高い優先順位を指定した場合は、エラー・メッセージが表示され、ジョブの属性は変更されません。
- JOBPTY パラメーターは、投入する特定のジョブに使用される優先順位の値を指定します。投入する特定ジョブに関連したコマンドでは、JOBPTY パラメーターに、そのジョブの実際のスケジューリング優先順位を指定します。
- OUTPTY パラメーターでは、ジョブで作成されるすべてのスプール出力ファイルからの出力を生成するための優先順位を指定します。OUTPTY パラメーターに指定した優先順位の値は、各スプール・ファイルが出力のために処理する順序を決定します。ジョブで作成されるすべてのスプール・ファイルに対して、同じ値が適用されます。

スケジューリング優先順位として指定できるパラメーターの値は、0 から 9 までであり、1 が最高の優先順位、9 が最低の優先順位です。優先順位 0 が指定されているジョブはすべて、待機中の 1 から 9 までの優先順位を持つほかのすべてのジョブより先に、処理のためにスケジューリングされます。

優先順位パラメーターは、次のコマンドに指定できます。

優先順位パラメーター	優先順位パラメーターを指定できるコマンド
JOBPTY	ADDJOBJS、BCHJOB、CHGJOB、CHGJOB、CHGJOBJS、CRTJOB、SBMJOB、SBMJOBJS
OUTPTY	ADDJOBJS、BCHJOB、CHGDKTF、CHGJOB、CHGJOBJS、CHGJOB、CHGJOB、CHGJOBJS、CHGPJ、CHGPRTF、CHGSPLFA、CRTDKTF、CRTJOB、CRTPRTF、OVRDKTF、OVRPRTF、SBMJOB、SBMJOBJS
PTYLMT	CHGUSRPRF、CRTUSRPRF、RTVUSRPRF

指定可能な値

優先順位パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のうち 1 つ以上が適用されます。

5: CRTUSRPRF コマンドに値を指定しないと、5 がユーザー・プロファイルの優先順位の上限として使用されるデフォルトの値になります。その場合は、実行のために投入するどのジョブについても、ユーザーが指定できる最高優先順位は 5 となります。CRTJOB コマンドでほかに優先順位が指定されていなければ、5 がジョブ・スケジューリング優先順位および出力優先順位の両方について、デフォルト値となります。

***SAME:** 割り当てられた優先順位、または割り当て可能な最高優先順位は変更されません。

***JOB:** ジョブのスケジューリング優先順位は、そのジョブの実行に使用するジョブ記述から得られます。

スケジューリング優先順位: 0 から 9 までの値の 1 つを優先順位として指定してください。0 は最高の優先順位を、9 は最低の優先順位を表します。優先順位 0 は、CHGJOB でのみ指定することができます。

SEV パラメーター

重大度 (SEV) パラメーターは、次のような重大度コードを指定します。

- エラー・メッセージに関連した重大度のレベルを記述する。
- ユーザーまたはプログラムにメッセージが戻されるようにするための最小重大度レベルを示す。
- バッチ・ジョブを打ち切る。
- 重大な構文エラーがあった場合にコマンドの処理を打ち切る。

注: 一部のコマンドの LOG パラメーターでも、ロギングのため (どのジョブ活動メッセージ、およびエラー・メッセージをジョブ・ログに記録するかを制御するため) に、この重大度コードを使用します。

重大度コードは、00 から 99 までの範囲内の 2 桁の値です。値が大きくなるほど、状態の重大度または重要度が高くなります。ユーザーに送られるメッセージの重大度コードは、そのメッセージが示している状態の重大度を示します。複数のメッセージが同じ重大度コードを持てます。事前定義済みのメッセージに対して重大度コードが指定されていない場合は、00 (通知のみ) を指定したものと見なされます。

重大度コードは、メッセージをメッセージ記述追加 (ADDMSGD) コマンドで定義する際、どのようなメッセージに対しても指定することができます。メッセージの重大度コードを変更するには、メッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンドを使用します。

システムとともに出荷されるすべての IBM^(R) 提供のメッセージには、IBM^R 定義の重大度コードが使用されています。

00 - 通知: この重大度のメッセージは、情報の提供のみを行うものです。エラーが検出されたわけではないので、応答の必要はありません。この種のメッセージは、ある機能が実行中であることや、実行が正常に完了したことなどを示します。

10 - 注意: この重大度のメッセージは、エラーが起きた可能性があることを示します。プログラムは、欠落している入力を補うなど、デフォルトの処置を取っている場合もあります。この操作の結果は、意図されたとおりのものと見なされます。

20 - エラー: エラーが検出されましたが、それに対しては自動回復プロシージャが適用されたものと判断されるので、処理は続行されます。エラーの起きた入力の代わりにデフォルトの値が使用された可能性もあります。操作の結果は、必ずしも正しいとは限りません。実行された機能は、部分的にしか完了していない場合があります。例えば、リストのうちのある項目は正しく処理されたのに、別の項目は正しく処理されていない場合もあります。

30 - 重大エラー: 自動回復機能による修復が不可能な重大エラーが検出されたために、デフォルトの値を適用できません。このエラーがソース・データの中にある場合には、その入力レコード全体がスキップされます。プログラムの実行中にこの種のエラーが起きた場合は、プログラムの異常終了 (重大度 40) が生じます。操作結果は有効ではありません。

40 - プログラムまたは機能の異常終了: 操作が終了しました。多くの場合、データが正しくないために操作が打ち切られたか、あるいは、ユーザーが操作を打ち切ったためです。

50 - ジョブの異常終了: ジョブが打ち切られたか、あるいは開始されていませんでした。経路指定ステップが異常終了したか、その開始に失敗したか、ジョブ・レベルの機能が正しく実行されなかったか、あるいはジョブが打ち切られたなどの理由が考えられます。

60 - システム状況: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。この種のメッセージは、入出力装置、サブシステム、またはシステム全体についての状況あるいは注意を示します。

70 - 装置保全: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、ある装置が誤動作状態にあるか、または何らかの動作不能状態になっていることを示します。ユーザーがシステム操作を復元できる場合も、サービス技術員の援助が必要な場合もあります。

80 - システム警報: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、システムをただちに停止しなければならないほど深刻ではありませんが、何らかの予防措置を取らない限り、事態がさらに悪化する可能性があるということを警告するものです。

90 - システム保全: この重大度のメッセージは、システム・オペレーターに対してのみ出されます。このメッセージは、サブシステムまたはシステム全体が操作不能になった状態を示しています。

99 - 処置: この重大度のメッセージは、応答の入力、または印刷用紙の変更などの、手操作による何らかの処置が必要であることを示しています。

SPLNBR パラメーター

1 つのジョブで複数のスプール・ファイルを作成し、すべてのスプール・ファイルが同じ名前である場合には、スプール・ファイル番号 (SPLNBR) パラメーターを使用します。ファイルには、1 から始まり、ジョブがファイルをオープンする順序に従って番号が付けられます。ジョブ・ログは常に、ジョブの最後のファイルになります。

ファイル番号は、ジョブで各ファイルをオープンする (出力レコードを作成する) 際に生成され、システムにそのジョブまたはファイル (あるいはその両方) が存在している間は、システムにより使用されます。ファイルが 2 回以上オープンされたためにそれぞれに固有の名前が付いていない場合は、このファイル番号を使用して、CL コマンドの処理するファイル (または、ファイルがまだ完成していない場合にはレコード群) を指定します。

TEXT パラメーター

TEXT パラメーターは、作成または変更するオブジェクトを簡潔に説明するユーザー定義の記述を指定します。この記述には、最高 50 文字まで入れることができます。引用符付きストリング (すなわち、アポストロフィで囲まれているストリング) の場合には、256 個の EBCDIC 文字のどれでも指定できます。ストリングに空白およびその他の特殊文字が含まれていない場合は、アポストロフィは不要です。50 の文字位置のうち指定した記述に満たない桁は、空白で埋められます。

この記述は、オブジェクト記述表示 (DSPOBJD) コマンドを用いて指定のオブジェクトを画面に表示する場合に、OS/400^(R) オブジェクトを説明するために使用されます。ユーザーが表示できるのは、オブジェクト操作権を持っているオブジェクトのみです。OS/400 のオブジェクト・タイプのリストについては、77 ページの『OBJTYPE パラメーター』の説明を参照してください。

データベース・ソース・ファイルを用いて、何らかのタイプのオブジェクトを作成するコマンドの場合は、(デフォルトでは) ソース・ファイル・メンバーのテキストを、新たに作成するオブジェクトのテキストとして使用できます。例えば、CL プログラムを作成するのに制御言語プログラム作成 (CRTCLPGM) コマンドを使用する場合、TEXT パラメーターにテキストを指定しなければ、ソース・ファイル (SRCFILE パラメーター) のソース・ファイル・メンバー (SRCMBR パラメーター) に指定されているテキストが、CL プログラムの記述テキストとして使用されます。

指定可能な値

TEXT パラメーターには、使用するコマンドに応じて、次の値のうちの 1 つ以上を使用することができます。

***SRCMBRTXT:** データベース・ソース・ファイルに基づいてオブジェクトを作成するコマンドの場合に限り、指定したソース・メンバーのテキストが使用されます。装置またはインライン・ファイルをソース入力として使用する場合、またはソース入力を使用しない場合には、テキストはブランクになります。

***BLANK:** 作成または変更するオブジェクトのユーザー記述はブランクのままです。

***SAME:** ユーザー定義のテキストは変更されません。

‘記述’: 作成または変更するオブジェクトについての説明を指定してください。オブジェクトを説明するために、最高 50 文字をアポストロフィで囲んで (ブランクおよびその他の特殊文字が含まれている場合には必須) 指定できます。アポストロフィを 50 文字のうちの 1 文字として使用する場合、アポストロフィの文字を表すには 1 重でなく 2 重のアポストロフィ (‘’) を使用する必要があります。

VOL パラメーター


▶ ボリューム (VOL) パラメーターは、テープ操作または光ディスク操作で使用するボリュームのボリューム識別コードを指定します。1 テープ・ボリュームは、1 テープ・カートリッジまたは 1 リールで構成されます。◀◀ 1 光ディスク・ボリュームは、光ディスク・カートリッジの片面か、1 枚の CD-ROM で構成されます。光ディスク・カートリッジには両面があり、それぞれの面は別個のボリュームになります。

▶ ボリューム識別コードは、そのテープまたは光ディスクを識別する識別コードであり、各テープまたは光ディスク (ボリュームのラベル域) に保管されています。◀◀ ボリューム識別コードが抜けている場合や、順序が正しくない場合は、システム・オペレーターに照会メッセージが送られます。

テープ・ボリュームは、テープ装置ファイル・コマンドの VOL パラメーターに指定した識別コードと同じ順序で、かつ DEV パラメーターに指定した装置名の順序に従って、テープ装置にセットしなければなりません。ただし、テープが逆方向に読み取られる (COBOL でサポートされている機能) 場合は、VOL パラメーターに指定した順序とは逆の順序でボリュームをセットします。この場合にも、DEV パラメーターに指定する装置名の順序は正方向読み取りの順序です。

▶ 一般に、テープ・ボリュームの識別コードを指定するための規則として、6 桁までの文字および数字を任意に組み合わせて使用することができます。識別コードをアポストロフィで囲めば、特殊文字も使用することができます。ただし、そのテープを iSeriesTM 以外のシステムでも使用する場合は、そのシステムでの識別コードの指定に関する要件も考慮しなければなりません。◀◀

光ディスク・ボリューム識別コードには、32 文字まで指定することができ、数字と大文字を一緒に使用することができます。光ディスク・ボリューム識別コードは、固有のものを指定してください。同じ識別コードを持つ 2 つの光ディスク・ボリュームを、同時にシステムに提示することはできません。光ディスク・

ボリューム識別コードに関するすべての規則のリストが、「光ディスク・サポート」 に記載されています。

▶ ラベル付きテープについては、次の規則が適用されます。◀◀

- 文字: 各ボリューム識別コードを 6 文字まで指定することができます。英字および数字をどのような順序で指定しても差し支えありません。

- 固有性: 複数のボリュームに同じ識別コードを付けることができます。複数のボリュームに同じ識別コードを使用したファイルがある場合は、システムは各ボリュームに書き込まれた順序番号を用いて、内部的に順序を追跡します。ただし、各ボリュームには、できる限り固有の識別コードを付けてください。
- 順序: 1 つの操作で (識別コードの異なる) 複数のボリュームを使用する場合には、それらのボリュームは、VOL パラメーターに指定したボリューム識別コードと同じ順序になっていなければなりません。

マルチボリューム・ファイル

▶ 操作に使用する複数のボリューム (テープ) が、すべて同一のボリューム識別コードを持っている場合は、使用するボリュームごとに 1 回ずつ、その識別コードを VOL パラメーターに指定しなければなりません。◀ 例えば、QGPL という名前の 3 つのテープを保管操作に使用する場合は、VOL(QGPL QGPL QGPL) を指定する必要があります。

テープのマルチボリューム・ファイルを処理する際に、複数のテープ装置を使用する場合は、VOL パラメーターに指定した順序と同じ順序で、テープ・ボリュームをテープ装置にセットしなければなりません。例えば、5 個のボリュームと 3 台のテープ装置を使用する場合には、VOL1 は装置 1 に、VOL2 は装置 2 に、VOL3 は 3 に、VOL4 は装置 1 に、そして VOL5 は装置 2 にそれぞれセットします。

指定可能な値

***MOUNTED**: 装置内に現在置かれているボリュームが使用されます。

***NONE**: ボリューム識別コードは指定されません。

***SAME**: 前に指定されているボリューム識別コードは変更されません。

***SAVVOL**: システムは、保管/復元ヒストリーの情報を用いて、最新の保管バージョンが、どのテープ・ボリュームに入っているかを判断します。復元コマンドの DEV パラメーターに指定された装置が、当該オブジェクトの最新バージョンの保管されている装置と一致しない場合は、ユーザーにエラー・メッセージが戻され、その機能は終了します。コマンドに指定されている装置に誤ったボリュームが取り付けられている場合は、復元操作を始める前にまずセットしなければならないボリュームを示すメッセージが、システム・オペレーターに戻されます。

ボリューム識別コード: 1 つ以上のボリュームの識別コードを、装置に装着して使用する順序で指定します。各テープのボリューム識別コードには、最大 6 文字の英数字が入ります。各光ディスク・ボリューム識別コードには、最大 32 文字が使用されます。複数の識別コードをリストするときは、ブランクが区切り記号として使用されます。

WAITFILE パラメーター

WAITFILE パラメーターを使用すると、次について指定できます。

- ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られる間、プログラムが待機する最大秒数。
- APPC 装置に対して呼び出し機能が出されたときのセッション資源について
- 獲得操作を実行してファイルを読み取る際、割り振られる装置について

プログラムが待機しなければならない場合には、該当する資源が使用可能になるまで、またはこの待ち時間が切れるまで、待機状態になります。2 つ以上のファイル資源が必要で、それらのファイル資源がほかのシステム・ユーザーにより使用されているために使用できない場合は、プログラムはそれぞれの資源の割り振りを個別に待たなければならないことになります。このパラメーターに指定した最大値は、個々の待機状態ごとに適用されます。

待ち時間の長さは、このパラメーターで指定することも、オブジェクトに適用されるクラスのデフォルトの待ち時間を使用することもできます。指定した秒数の時間内にファイル資源が割り振られなかった場合は、プログラムにエラー・メッセージが戻されます。

割り振りの必要なファイル資源は、オープンされるファイルのタイプによって決まります。ファイル資源は、以下のものから成ります。

- スプールされない (SPOOL(*NO) が指定された) 装置ファイルの場合、ファイル資源には、ファイル記述および装置記述が含まれます。装置記述の割り振りが必要なために、該当の装置自体も使用可能になっていなければなりません。
- スプールされる (SPOOL(*YES) が指定された) 装置ファイルの場合、ファイル資源には、ファイル記述、指定した出力待ち行列、および、システム内でスプール・データのために使用される記憶域が含まれます。データはスプールされるので、装置記述 (および装置自体) が使用可能である必要はありません。
- データベース・ファイルの場合、ファイル資源は、ファイル・データおよびメンバー・データにより構成されています。ファイルの関連メンバーのパスはアクセスされません。したがって、システムがその関連メンバーを待機することはありません。アクセス・パスが使用可能でない場合 (例えばアクセス・パスが再作成中の場合) には、WAITFILE の指定時間が切れる前にファイルのオープン例外エラーが起きることがあります。

オブジェクト割り振り (ALCOBJ) コマンドを用いて、ファイルがオープンされる前に、特定のファイル資源を割り振ることができます。

APPC 装置による会話のために割り振られたセッション資源は、アプリケーション・プログラムが切り離し機能を出すか切り離し指示を受け取ってから別の呼び出し機能が出るまでの間に失われることがあります。セッション資源が失われた場合には、このパラメーターの値に基づいて、別のセッション資源の割り振りをシステムが待つ時間が決まります。

指定可能な値

***IMMED:** プログラムは待機しません。ファイルのオープン時に、ファイル資源の即時割り振りが必要になります。

***CLS:** クラス記述に指定されているデフォルトの待ち時間が、ファイル資源の割り振りの待ち時間として使用されます。

I-32767 : ファイル資源の割り振りをプログラムが待つ場合の、許容時間を秒単位で指定してください。

CL コマンドで使用されるデータベースおよび装置ファイル

IBM^(R) 提供の CL コマンドの多くは、処理時にデータベース・ファイルおよび装置ファイルを使用します。この項では、コマンドとコマンドが使用する IBM 提供ファイルを相互に参照できます。次の基準を満たすすべてのライセンス・プログラムのすべてのコマンドおよびファイルが含まれています。

- 記載されているファイルのタイプは、以下のとおりです。
 - データベース・ファイル: データが入っているファイルや、モデル・ファイルとして使用されるファイル (データなし) を含む、物理ファイル (PF) および論理ファイル (LF)。
 - 装置ファイル: テープ (TAPF)、および印刷装置 (PRTF)
- プログラムで宣言して別のファイルで指定変更できるようにするなど、ユーザーが使用する可能性のあるファイルのみが記載してあります。使用例を 2 つ示します。

- 使用するフォント (FONT パラメーター) や印刷される 1 インチあたりの行数 (LPI パラメーター) など、印刷装置ファイルの属性のいくつかを変更する
- IBM 提供のファイルをユーザー自身の出力ファイルで指定変更する (可能な場合)

この項に記載されていないファイル・タイプは、以下のとおりです。

- OS/400^(R) 提供の表示 (DSPF) 装置ファイル。これらのファイルを変更したり、指定変更したりしてはならないためです。
- ディレクトリー・コマンド、文書ライブラリー・オブジェクト コマンド、および光ディスク索引データベース・ファイルによって使用される、OS/400 提供のデータベース・ファイルの大部分。これらのファイルは指定変更できないためです。

上述のように、特定のコマンドの**モデル・ファイル**として使用される IBM 提供の物理 (PF) ファイルまたは論理 (LF) ファイルが、次の表にまとめてあります。(DSPFD コマンド、DSPJRN コマンド、および STRPFRMON コマンドのところにリストされているモデル・ファイルがその例です。) ほとんどの場合、これらのモデル・ファイルにはデータは含まれません。代わりに、コマンドを使用した結果得られる実際の出力データを保管するファイルの定義 (すなわちレコード様式) を含んでいます。これらのファイルのレコード様式については、オンラインでファイル記述を表示するか、そのコマンドについて記載している資料またはソフトコピー・マニュアルを参照してください。

さらに、IBM 提供のファイルであると見なされるファイルの中には、そのファイルを必要とする機能が使用されるまでは実際にはシステムに存在せず、必要になった時点で作成されるものもあります。

次の注では、コマンドおよびファイルの表の分類方法と、表で使われている肩文字の意味について説明します。

表の注:

1. 表の最初の欄には、OS/400 提供のファイル (3 番目の欄に示されています) を使用する CL コマンドをリストします。表の中では、まず、コマンド名 をアルファベット順に項目を並べています。1 つのコマンドに対して複数のライブラリーが存在する場合、ファイルのライブラリー名 順に項目を並べており、さらに、各ライブラリー内のファイル名 ごとに並べられています。
2. ファイルの説明に肩文字 **1** (1) が付いているファイルは、コマンドからの出力がそのコマンドの出力関連のパラメーターによって出力される形式 に送信される場合のみ使用されます。
 - 番号¹ が印刷装置ファイル (PRTF) 記述の末尾に付いている場合は、印刷装置ファイルが、ジョブ環境、およびコマンドに指定 (想定) された印刷関連の値に応じて使用されることを示します。コマンド (主に DSPxxx コマンドおよび WRKxxx コマンド) に OUTPUT パラメーターを指定する場合、バッチ・ジョブで OUTPUT(*) を指定するか、バッチ・ジョブまたは対話式ジョブで OUTPUT(*PRINT) を指定すると、出力が印刷されます。その他のコマンドの場合は、それぞれのパラメーターで *PRINT、*LIST、*SRC の値を指定すると、出力が印刷されます。
 - 番号¹ がデータベース・ファイル (PF または LF) 記述の末尾に付いている場合は、データベース・ファイルがコマンドに指定 (想定) された印刷関連の値に応じて使用されることを示します。コマンド (主に DSPxxx コマンドおよび SAVxxx コマンド) に OUTPUT パラメーターを指定する場合、OUTPUT(*OUTFILE) を指定すると、出力がデータベース・ファイルに送信されます。*OUTFILE に類似する値をパラメーターの 1 つに指定するその他のコマンドについても、同じことが言えます。
3. ファイルの説明に肩文字 **2** (2) が付いているファイルは、出力ファイルではなくモデル・ファイル です。モデル・ファイルでは、実際の出力を入れるために作成されるファイルのレコード様式を定義します。
4. ファイル・ライブラリーとして “ユーザー・ライブラリー” と示されているファイルは、ユーザーがこれらのファイルを作成しない限り、システムには存在しません。このコマンドを使用すると、ユーザーの指定したライブラリーに、示されたファイル名でファイルが作成されます。

CL コマンドで使用されるファイル (パート 1)

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
ADDDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理 ファイル。
	QUSRSYS	QAO1CVNP	PF	入出力用の文書変換物理 ファイル。
	QUSRSYS	QAO1DCVN	PRTF	文書変換印刷装置ファイル。
ADDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
ADDDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
ADDDSTSYSN	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
ADDNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目データベース・ファイル。
ADDSOCE	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲ファイル。
ADDTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID DB ファイル。
	QUSRSYS	QLTAMID	LF	カートリッジ ID 論理ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー DB ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
ADDTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
ADDTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP 構成ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
ADDTCPPORT	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTCPRSI	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 構成ファイル。
ADDTXTIDX	QUSRSYS	QABBADMNTB	PF	OfficeVision [®] テキスト検索サービス管理テーブル。
ANSQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
ANZACCGRP	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTPAGD	PF	処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムのパフォーマンス・データベース入力ファイル。
	QPFR	QPPTPAG	PRTF	環境、ジョブ、ファイル、およびプログラムの要約データを含む PAG データの印刷装置ファイル。
ANZDBF	QPFR	QAPTAZDR	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: アプリケーション・データベース・ファイル分析データ。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTANZD	PRTF	物理から論理へのデータベース・ファイルの関係と論理から物理へのデータベース・ファイルの関係を示すパフォーマンス印刷装置ファイル。
ANZDBFKEY	QPFR	QAPTAZDR	PF	論理ファイルのキー構造を示す、アプリケーション・データベース・ファイル分析データのパフォーマンス・入力ファイル。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTANKM	PRTF	論理ファイル・キー構造データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTANZK	PRTF	アクセス・パスおよびレコード選択データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
ANZPFRDTA	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、CIOP、CONF、DIOP、DISK、ECL、ETH、HDLC、IDLC、JOBS、LAPD、LIOP、MIOP、POOL、SYS、および X25 です。 ²
	QPFR	QPAVPRT	PRTF	アドバイザーのレポートを含む、パフォーマンス印刷装置ファイル。 ¹
ANZPGM	QPFR	QAPTAZPD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: アプリケーション・プログラム分析データ。
	QPFR	QPPTANZP	PRTF	プログラムからファイルへの関係とファイルからプログラムへの関係を示すパフォーマンス印刷装置ファイル。
➤ APYJRNCHG	QSYS	QAJRNCHG	PF	ジャーナル処理済み変更適用のモデル出力ファイル ⬅

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
APYJRNCHGX	QSYS	QAJRNCHG	PF	拡張ジャーナル処理済み変更適用のモデル出力ファイル
ASKQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CFGDSTSRV	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 宛先システム経路指定テーブル。
CFGTCP	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
	QUSRSYS	QATOCTCPIP	PF	TCP/IP 属性ファイル。
	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP ポート制約条件ファイル。
	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP RSI ファイル。
	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト名ファイル。
	QUSRSYS	QATOCPS	PF	TCP/IP サービス・ファイル。
CFGTCPSMTP	QUSRSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP ファイル。
	QUSRSYS	QATMSMTPA	PF	TCP/IP SMTP ファイル。
CHGDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理 ファイル。
CHGDTA	QIDU	QDTALOG	PRTF	監査制御ログ印刷装置ファイル。
	QIDU	QDTAPRT	PRTF	レコードおよびアキュムレーターの合計印刷装置 ファイル。
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
CHGDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
CHGDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
CHGFTPA	QUSRSYS	QATMFTP	PF	TCP/IP FTP 構成ファイル。
CHGHTTPA	QUSRSYS	QATMHTTP	PF	TCP/IP HTTP ファイル。
CHGLPDA ^R	QUSRSYS	QATMLPD	PF	TCP/IP LPD 構成ファイル。
CHGPOPA	QUSRSYS	QATMPOPA	PF	POP サーバー構成ファイル。
CHGPRB	QUSRSYS	QASXNOTE	PF	問題ログのユーザー注記ファイル。
	QUSRSYS	QASXPROB	PF	問題ログの問題ファイル。
CHGQSTDB	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CHGSMTPA	QUSRSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP 構成ファイル。
CHGTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	カートリッジ ID 論理データベース・ファイル。
CHGTCPA	QUSRSYS	QATOCTCPIP	PF	TCP/IP 属性ファイル。
CHGTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
CHGTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
CHGTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
CHGTELNA	QUSRSYS	QATMTELN	PF	TCP/IP TELNET 構成ファイル。
CHKTAP	QSYS	QSYSTAPE	TAPF	テープ出力用の印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
CMPJRNIMG	QSYS	QPCMPIMG	PRTF	ジャーナル・イメージ比較印刷装置ファイル。
CPYF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMDKT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMQRYF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
CPYFRMTAP	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテープ装置ファイル。
CPYPFRDTA	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、BUS、CIOP、CONF、DIOP、DISK、DMPT、ECL、ETH、HDLC、IOBS、JOBS、LIOP、MIOP、POOL、RESP、RWS、SBSD、SYS、TSK、およびX25 です。 ²
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテープ装置ファイル。
CPYSRCF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コピー・ファイル印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
CRTBNDC	QGPL	QCSRC	PF	C/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
CRTBNDCBL	QGPL	QCBLESRC	PF	ILE COBOL/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PF	ILE COBOL/400 ^R ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTBNDCL	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTBNDRPG	QGPL	QRPGLESRC	PF	ILE RPG/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ILE RPG/400 ^R ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCBLMOD	QGPL	QCBLESRC	PF	ILE COBOL/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PF	ILE COBOL/400 ^R ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCBLPGM	QGPL	QLBLSRC	PF	COBOL/400 ^(R) ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	COBOL/400 ^(R) ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLD	QGPL	QCLDSRC	PF	C ロケール記述デフォルト・ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	C ロケール記述ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLMOD	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCLPGM	QGPL	QCLSRC	PF	CL ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CL ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTCMD	QGPL	QCMDSRC	PF	コマンド定義ソース・デフォルト入力ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コマンド定義ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTCMOD	QGPL	QCSRC	PF	C/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	C/400 ^R ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTDSPF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTICFF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTLF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTMNU	QGPL	QMNUSRC	PF	デフォルトのメニュー・ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	メニュー・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTMSGFMNU	QGPL	QDDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTMENU	PRTF	\$BMENU ソース・リスト印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	Pascal ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	プログラム・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPNLGRP	QGPL	QPNLSRC	PF	デフォルトのパネル・グループ・ソース入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	パネル・グループ・ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTPRTF	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QPDDSSRC	PRTF	DDS ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTQSTDB	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
CRTQSTLOD	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
CRTRJESCF	QRJE	QRJESRC	PF	RJE BSC ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRJECFG	QRJE	QRJESRC	PF	RJE BSC または RJE 通信ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRJECMNF	QRJE	QRJESRC	PF	RJE 通信ファイルの作成に使用する DDS ソース・ファイル。
CRTRPGMOD	QGPL	QRPGLESRC	PF	ILE RPG/400 ^R ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ILE RPG/400 ^R ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTRPGPGM	QGPL	QRPGSRC	PF	RPG ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	RPG ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
CRTRPTPGM	QGPL	QRPGSRC	PF	RPG ソース・デフォルト入力ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	RPG ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLC	QGPL	QCSRC	PF	SQL C ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL C 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCI	QGPL	QCSRC	PF	SQL C ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL C 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCBL	QGPL	QLBLSRC	PF	SQL COBOL ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL COBOL 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLCBLI	QGPL	QCBLESRC	PF	SQL COBOL ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL COBOL 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLFTN	QGPL	QFTNSRC	PF	SQL FORTRAN ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL FORTRAN 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLPLI	QGPL	QPLISRC	PF	SQL PLI ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL PLI 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLRPG	QGPL	QRPGSRC	PF	SQL RPG ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL RPG 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSQLRPGI	QGPL	QRPGLESRC	PF	SQL RPG ソース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SQL RPG 印刷装置ファイル。 ¹
CRTSRVPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サービス・プログラム・ソース・リスト印刷装置 ファイル。 ¹
CRTS36CBL	#LIBRARY	QS36SRC	PF	S/36 互換 COBOL ソース・デフォルト入力ファ イル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	S/36 互換 COBOL ソース・リスト印刷装置ファ イル。 ¹
CRTS36DSPF	QGPL	QDDSSRC	PF	\$\$FGR によって表示装置ファイル用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$\$FGR によって表示装置ファイル用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTSFGR	PRTF	\$\$FGR ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTS36MNU	QGPL	QDDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QGPL	QS36DDSSRC	PF	\$BMENU によってメニュー用に作成された DDS ソース。
	QSSP	QPUTMENU	PRTF	\$BMENU ソース・リスト印刷装置ファイル。
CRTS36RPG	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム/36™ RPG II ソース・デフォルト入力 ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム/36™ RPG II ソース・リスト印刷装置 ファイル。 ¹
CRTS36RPGR	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム/36™ RPG II ソース・デフォルト入力 ファイル。
CRTS36RPT	#LIBRARY	QS36SRC	PF	システム/36™ RPG II 報告書簡易作成機能ソー ス・デフォルト入力ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム/36™ RPG II 報告書簡易作成機能ソース・リスト印刷装置ファイル。 ¹
CRTTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
CRTTBL	QGPL	QTBLSRC	PF	テーブル・ソース・デフォルト入力ファイル。
CVTPFRDTA	QPFR	QACPxxxx	PF	QACPxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CNFG、GPHF、PROF、および RESP です。
	QPFR	QAITMON	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データ。
	QSYS	QAPMyyyy	PF	QAPMyyyy パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、yyyy は、CIOP、CONF、DIOP、DISK、JOBS、LIOP、POOL、RESP、RWS、および SYS です。 ²
	QSYS	QAPMzzzz	PF	QAPMzzzz パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、zzzz は、ASYN、BSC、BUS、DMPT、ECL、ETH、HDLC、MIOP、および X25 です。 ²
	QPFR	QAPTAPGP	PF	機能域データのパフォーマンス・データ収集ファイル。
CVTRPGSRC	ユーザー・ライ ブラリー	QRPGSRC	PF	RPG/400 ^R ソース・ファイル (元ファイル)。
	ユーザー・ライ ブラリー	QRPGLESRC	PF	ILE RPG/400 ^R ソース・ファイル (宛先ファイル)。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ILE RPG/400 ^R リスト印刷装置ファイル。
	ユーザー・ライ ブラリー	QRNCVTLG	PF	ILE RPG/400 ^R 変換ログ・ファイル。
DLTALR	QUSRSYS	QAALERT	PF	警報データベース・ファイル。
DLTPFRDTA	QPFR	QAPGSUMD	PF	グラフィック・データのパフォーマンス・データ収集ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、BUS、CIOP、CONF、DIOP、DISK、DMPT、ECL、ETH、HDLC、IOBS、JOBS、LIOP、MIOP、POOL、RESP、RWS、SBSD、SYS、TSK、および X25 です。 ²
	QPFR	QAPTLOCKD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ロックと競合捕そくデータ。
	QPFR	QTRxxxx	PF	QTRxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxxx は、IDX、JOBT、JSUM、SLWT、および TSUM です。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
DLTPRB コマンド:				
DLTPRB コマンド用の 8 つの QASXxxxx ファイルは、すべて、DSPPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示したファイルのサブセットと同じです。これらのファイルの説明については、DSPPRB コマンドを参照してください。				
DLTPRB	QUSRSYS	QASXxxxx	PF	DSPPRB コマンドを参照してください。
DLTQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
DLTQSTDB	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
DLTTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DMPCLPGM	QSYS	QPPGMDMP	PRTF	CL プログラム・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPJOB	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPOBJ	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPSYSOBJ	QSYS	QPSRVDMP	PRTF	サービス・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPTAP	QSYS	QPTAPDMP	PRTF	テープ・ダンプ印刷装置ファイル。
DMPTRC	QSYS	QAPMDMPT	PF	パフォーマンス・トレース・ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	SDA ソース印刷装置ファイル。
DSPACC	QSYS	QSYSPRT	PRTF	アクセス・コード表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPACCAUT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	アクセス・コード表示権限印刷装置ファイル。 ¹
DSPACCGRP	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTPAGD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムに関するデータ。
	QPFR	QPPTPAG	PRTF	処理アクセス・グループ表示印刷装置ファイル。 ¹
	QPFR	QPPTPAGD	PRTF	処理アクセス・グループ (PAG) 内のファイルおよびプログラムを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
DSPACTPJ	QSYS	QSYSPRT	PRTF	活動事前開始ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAPPNINF	QUSRSYS	QALSxxx	PF	APPN 情報の保管に使用するレコード様式を含む 4 つの QALSxxx モデル・データベース・ファイルのセット。ここで、xxx は、DIR、END、INM、および TDB です。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	APPN 情報表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTHLR	QSYS	QADSHLR	PF	権限ホルダー・オブジェクト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPSYDShL	PRTF	権限ホルダー表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTL	QSYS	QAOBJAUT	PF	権限リスト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPOBJAUT	PRTF	権限リスト項目印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTLDLO	QSYS	QSYSPRT	PRTF	権限リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTLOBJ	QSYS	QADALO	PF	権限リスト・オブジェクト項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPSYDALO	PRTF	権限リスト・オブジェクト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPAUTUSR	QSYS	QPAUTUSR	PRTF	許可ユーザー印刷装置ファイル。 ¹
DSPBCKSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ状況表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPBCKUP	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ・オプション表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPBCKUPL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バックアップ・リスト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPBKP	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	ブレークポイント (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPBNDDIR	QSYS	QABNDBND	PF	バインド・ディレクトリー項目のレコード様式を含むモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	バインド・ディレクトリー内容表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPCFGL	QSYS	QPDCCFGL	PRTF	構成リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPCHT	QSYS	QPGDDM	PRTF	BGU 定義の図表出力印刷装置ファイル。 ¹
DSPCLS	QSYS	QPDSCLS	PRTF	クラス印刷装置ファイル。 ¹
DSPCMD	QSYS	QPCMD	PRTF	コマンド値印刷装置ファイル。 ¹
DSPCNNL	QSYS	QPDCNNL	PRTF	接続リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPCNNSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	接続状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPCOSD	QSYS	QPDCCOS	PRTF	サービス・クラス記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPCSI	QSYS	QSYSPRT	PRTF	通信サイド情報印刷装置ファイル。 ¹
DSPCTLD	QSYS	QPDCCTL	PRTF	制御装置記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPDBG	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	デバッグ表示 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPDBR	QSYS	QADSPDBR	PF	データベース・ファイルの関係に関する情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSDBR	PRTF	データベース・ファイルの関係に関する情報を含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPDDMF	QSYS	QPDSDDM	PRTF	分散データ管理 (DDM) ファイル・リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPDEV	QSYS	QPDCDEV	PRTF	装置記述印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QAOSDIRO	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE1)
	QSYS	QAOSDIRB	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE2) DETAIL(*BASIC)
	QSYS	QAOSDIRF	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE2) DETAIL(*FULL)
	QSYS	QAOSDIRX	PF	ディレクトリー表示出力ファイル: OUTFILFMT(*TYPE3) DETAIL(*FULL)
	QSYS	QPDSDDL	PRTF	表示されるディレクトリー項目の全 詳細用の印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPDSPDMSM	PRTF	表示されるディレクトリー項目の基本 詳細用の印刷装置ファイル。 ¹
DSPDLOAUT	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書ライブラリー・オブジェクト権限表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPDLONAM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書ライブラリー・オブジェクト表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTL	QSYS	QAOSDSTO	PF	配布リスト出力ファイル。
	QSYS	QPDSPLDL	PRTF	配布リスト詳細 印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPDSPLSM	PRTF	配布リストの要約 印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTCLGE	QSVMS	QACQFVOF	PF	MSS/400 配布カタログ項目表示コマンドの出力ファイル・モデル。 ²
DSPDSTLOG	QSYS	QPDSTD LG	PRTF	分散ログ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPDSTSRV	QSYS	QPDSTSRV	PRTF	配布サービス印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	経路指定テーブル・データベース・ファイル。
DSPDTA	QIDU	QDTAPRT	PRTF	DFU 監査制御印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
DSPDTAARA	QSYS	QPDSPDTA	PRTF	データ域印刷装置ファイル。 ¹
DSPDTADCT	QSYS	QPDSPPFD	PRTF	データ・ディクショナリー印刷装置ファイル。 ¹
DSPEDTD	QSYS	QPDCEDSP	PRTF	編集記述印刷装置ファイル。 ¹

CL コマンドで使用されるファイル (パート 2)

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPFD コマンド:				
<p>DSPFD コマンドの場合、次の項目のうちファイル・タイプが PF であるものはすべて物理ファイル (実際の出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、ファイルのタイプ (またはグループ) に関する特定のタイプの情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。(TYPE パラメーターおよび FILEATR パラメーターの説明については、DSPFD コマンドを参照してください。これらのパラメーターは、これらのファイルを使用することになるすべての値を識別します。) したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の 前 に くる各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。</p> <p style="text-align: center;">... を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。</p>				
DSPFD	QSYS	QAFDACC	PF	アクセス・パス・ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDBASI	PF	すべてのファイルに共通の基本的なファイル情報... ²



コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAFDBSC	PF	BSC ファイルおよび混合ファイルの装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDCMN	PF	通信ファイルおよび混合ファイルの装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDCSEQ	PF	照合順序情報... ²
	QSYS	QAFDCST	PF	制約関係情報... ²
	QSYS	QAFDDDM	PF	分散データ管理 (DDM) ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDDSP	PF	表示装置ファイルおよび混合ファイルの表示装置属性情報... ²
	QSYS	QAFDICF	PF	ICF ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDJOIN	PF	結合論理ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDLGL	PF	論理ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDMBR	PF	データベース・メンバー情報... ²
	QSYS	QAFDMBRL	PF	データベース・メンバー・リスト情報... ²
	QSYS	QAFDNGP	PF	ノード・グループ情報... ²
	QSYS	QAFDPHY	PF	物理ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDPRT	PF	印刷装置ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDRFMT	PF	レコード様式情報... ²
	QSYS	QAFDSAV	PF	保管ファイル情報... ²
	QSYS	QAFDSELO	PF	選択/省略情報... ²
	QSYS	QAFDSPOL	PF	装置ファイルのプール情報... ²
	QSYS	QAFDTAP	PF	テープ・ファイル属性情報... ²
	QSYS	QAFDTRG	PF	トリガー情報... ²
	QSYS	QPDPSPFD	PRTF	ファイル記述印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPFFD	QSYS	QADSPFFD	PF	ファイル・フィールド記述を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSPPFD	PRTF	ファイル・フィールド記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPFLR	QSYS	QADSPDOC	PF	文書リスト出力データベース・ファイル。
	QSYS	QADSPFLR	PF	フォルダー・リスト出力データベース・ファイル。
	QSYS	QPDSPPFLR	PRTF	フォルダー表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPFNTRSCA	QSYS	QPDSPFNT	PRTF	フォント資源属性印刷装置ファイル。 ¹
DSPGDF	QSYS	QPGDDM	PRTF	BGU 定義のグラフィック・データ印刷装置ファイル。 ¹
DSPGNDDIR	QSYS	QABNDBND	PF	システム提供の出力ファイル。 ¹
DSPHDWRSC コマンド:				
<p>DSPHDWRSC コマンドの場合、次の項目のうちファイル・タイプが PF であるものはすべて物理ファイル (実際出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、特定のタイプのハードウェア資源情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の 前 に くる各記述の固有の部分は、 ファイルの用途 の欄に記載してあります。</p> <p>... に関する情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。</p>				
DSPHDWRSC	QSYS	QARZDCMN	PF	通信資源... ²
	QSYS	QARZDLWS	PF	ローカル・ワークステーションの資源... ²
	QSYS	QARZDPRC	PF	プロセッサ資源... ²
	QSYS	QARZDTRA	PF	トークンリング LAN (TRLAN) アダプター資源... ²
	QSYS	QARZDSTG	PF	記憶装置資源... ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ハードウェア資源印刷装置ファイル。 ¹
DSPHFS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	階層ファイル・システム表示印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPHSTGPH	QPFR	QPPGGPH	PRTF	履歴グラフ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPIDXSTS	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision [®] テキスト検索サービス管理テーブル。
DSPIGCDCT	QSYS	QPDSPDCT	PRTF	DBCS 印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPJOB	QSYS	QPDSJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPJOBLOGO	PRTF	バージョン 2 リリース 3 より前の AS/400 [®] のジョブ用のジョブ・ログ印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QAMHJLPR	PF	1 次ジョブ・ログ・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAMHJLSC	PF	2 次ジョブ・ログ・モデル・ファイル。 ²

DSPJRN コマンド:

DSPJRN コマンドの場合、以下のファイルのうち、ファイル・タイプが PF のものは、すべて物理ファイル (実際の実出力ファイルではなく、モデル・ファイル) であり、ジャーナル・レシーバーから取得および変換されたジャーナル項目のグループを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義します。検索する項目のグループは、ジャーナル処理されていれば、特定のタイプの情報でもすべてのタイプの情報でも構いません。作成された各ファイルには、検出されたジャーナル項目が、4 つの基本的な形式 (*TYPE1、*TYPE2、*TYPE3、または *TYPE4) のいずれか、あるいは検出対象の特定のタイプのデータに定義された形式に変換されて保管されます。

- *TYPE1: 『ジャーナル管理』のトピックで説明されている基本ファイル様式。
- *TYPE2: *TYPE1 のすべてとユーザー・プロファイル・フィールド。
- *TYPE3: *TYPE2 のすべてとヌル値標識。
- *TYPE4: *TYPE3 のすべてと JID (参照保全およびトリガー情報)。
-  *TYPE5: *TYPE4 のすべておよびその他の情報。 
- タイプ依存形式 - 検索される情報の特定のタイプ (4 番目以降のファイルについては以下で説明しています) に関連する形式。例えば、モデル・ファイル QASYAFJE は、システムにおける権限障害 (AF) に関連するすべての検索されたジャーナル項目を保管するために、固有の形式を持ちます。

以下にリストされている DSPJRN PF ファイルについては、すべてのモデル・ファイル記述に、以下の太字で示すような共通部分があります。各ファイル記述の固有の部分は、ファイルの用途欄に記載されています。

... に関連する検索および変換されたジャーナル項目を入れるために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPJRN	QSYS	QADSPJRN	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE1 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR2	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE2 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR3	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE3 の形式で保管されます)... ²
	QSYS	QADSPJR4	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE4 の形式で保管されます)... ²
»	QSYS	QADSPJR5	PF	特定のタイプ (またはすべてのタイプ) の情報 (*TYPE5 の形式で保管されます)..... ² «
	QSYS	QADXERLG	PF	DSNX ログ・エラー... ²
»	QSYS	QADXERL4	PF	DSNX ログ・エラー...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QADXJRNL	PF	DSNX ログ・データ... ²
»	QSYS	QADXJRN4	PF	DSNX ログ・エラー...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QAJBACG	PF	ジョブ会計... ²
»	QSYS	QAJBACG4	PF	ジョブ会計...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QALZALK	PF	無効なライセンス・キー... ²
»	QSYS	QALZALK4	PF	無効なライセンス・キー...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QALZALL	PF	使用限度の拡大... ²
»	QSYS	QALZALL4	PF	使用限度の拡大...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QALZALU	PF	使用限度を超過したライセンス・ユーザー... ²
»	QSYS	QALZALU4	PF	使用限度を超過したライセンス・ユーザー...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QAPTACG	PF	印刷ジョブ会計... ²
»	QSYS	QAPTACG4	PF	印刷ジョブ会計...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QAPTACG5	PF	印刷ジョブ会計...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYADJE	PF	属性の監査に対する変更... ²
»	QSYS	QASYADJ4	PF	...属性の監査に対する変更; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYADJ5	PF	属性の監査に対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYAFJE	PF	権限の障害... ²
»	QSYS	QASYAFJ4	PF	権限の障害...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYAFJ5	PF	権限の障害...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYAPJE	PF	借用権限の使用... ²
»	QSYS	QASYAPJ4	PF	借用権限の使用...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYAPJ5	PF	借用権限の使用...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYAUJ5	PF	セキュリティー属性の変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYCAJE	PF	オブジェクト権限 (権限リストまたは権限オブジェクト) に対する変更... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
»	QSYS	QASYCAJ4	PF	オブジェクト権限 (権 限リストまたは権限オ ブジェクト) に対する 変更...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYCAJ5	PF	オブジェクト権限 (権 限リストまたは権限オ ブジェクト) に対する 変更...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYCDJE	PF	コマンド・ストリン グ... ²
»	QSYS	QASYCDJ4	PF	コマンド・ストリン グ...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYCDJ5	PF	コマンド・ストリン グ...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYCOJE	PF	システムで作成された オブジェクト... ²
»	QSYS	QASYCOJ4	PF	システムで作成された オブジェクト...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
»	QSYS	QASYCOJ5	PF	システムで作成された オブジェクト...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYCPJE	PF	ユーザー・プロファイ ルの作成操作、変更操 作、および復元操 作... ²
»	QSYS	QASYCPJ4	PF	ユーザー・プロファイ ルの作成操作、変更操 作、および復元操 作...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYCPJ5	PF	ユーザー・プロファイ ルの作成操作、変更操 作、および復元操作... *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYCQJE	PF	*CRQD オブジェクト に対する変更... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYCQJ4	PF	*CRQD オブジェクト に対する変更... *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCQJ5	PF	*CRQD オブジェクト に対する変更...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCUJ4	PF	クラスター操作...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCUJ5	PF	クラスター操作...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCVJ4	PF	接続検査...; *TYPE4 の形式で保管されま す。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCVJ5	PF	接続検査...; *TYPE5 の形式で保管されま す。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCYJ4	PF	暗号構成...; *TYPE4 の形式で保管されま す。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYCYJ5	PF	暗号構成...; *TYPE5 の形式で保管されま す。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYDIJ4	PF	ディレクトリー・サー ビス...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYDIJ5	PF	ディレクトリー・サー ビス...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYDOJE	PF	システムから削除され たオブジェクト... ²
➤	QSYS	QASYDOJ4	PF	システムから削除され たオブジェクト...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYDOJ5	PF	システムから削除され たオブジェクト...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYDSJE	PF	DST 機密保護担当者のパスワードのリセット... ²
»	QSYS	QASYDSJ4	PF	DST 機密保護担当者のパスワードのリセット...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYDSJ5	PF	DST 機密保護担当者のパスワードのリセット...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYEVJ4	PF	環境変数; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYEVJ5	PF	環境変数; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYGRJ4	PF	汎用監査レコード; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYGRJ5	PF	汎用監査レコード; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYGSJE	PF	記述子の提供... ²
»	QSYS	QASYGSJ4	PF	記述子の提供...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYGSJ5	PF	記述子の提供...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYIPJE	PF	プロセス間通信... ²
»	QSYS	QASYIPJ4	PF	プロセス間通信...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYIPJ5	PF	プロセス間通信...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYIRJ4	PF	IP 規則処置; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYIRJ5	PF	IP 規則処置; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYISJ5	PF	インターネット・セキュリティー管理; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYJDJE	PF	ジョブ記述の USER パラメーターに対する 変更... ²
➤	QSYS	QASYJDJ4	PF	ジョブ記述の USER パラメーターに対する 変更...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYJDJ5	PF	ジョブ記述の USER パラメーターに対する 変更...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYJSJE	PF	ジョブの変更... ²
➤	QSYS	QASYJSJ4	PF	ジョブの変更...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYJSJ5	PF	ジョブの変更...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYKFJ4	PF	キー・リング・ファイ ル...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYKFJ5	PF	キー・リング・ファイ ル...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYLDJE	PF	ディレクトリーのリン ク/リンク解除/探索... ²
➤	QSYS	QASYLDJ4	PF	ディレクトリーのリン ク/リンク解除/探索...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYLDJ5	PF	ディレクトリーのリン ク/リンク解除/探索...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYMLJE	PF	メール処置... ²
➤	QSYS	QASYMLJ4	PF	メール処置...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ⏪

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
»	QSYS	QASYMLJ5	PF	メール処置...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² <<
	QSYS	QASYNAJE	PF	ネットワーク属性に対 する変更... ²
»	QSYS	QASYNAJ4	PF	ネットワーク属性に対 する変更...; *TYPE4 の形式で保管されま す。 ² <<
»	QSYS	QASYNAJ5	PF	ネットワーク属性に対 する変更...; *TYPE5 の形式で保管されま す。 ² <<
	QSYS	QASYNDJE	PF	ディレクトリーの検索 違反... ²
»	QSYS	QASYNDJ4	PF	ディレクトリーの検索 違反...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYNDJ5	PF	ディレクトリーの検索 違反...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYNEJE	PF	末端地点違反... ²
»	QSYS	QASYNEJ4	PF	末端地点違反...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² <<
»	QSYS	QASYNEJ5	PF	末端地点違反...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² <<
	QSYS	QASYOMJE	PF	オブジェクトの移動操 作および名前変更操 作... ²
»	QSYS	QASYOMJ4	PF	オブジェクトの移動操 作および名前変更操 作...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYOMJ5	PF	オブジェクトの移動操 作および名前変更操 作...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYORJE	PF	オブジェクト復元操 作... ²
»	QSYS	QASYORJ4	PF	オブジェクト復元操 作...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² <<

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
»	QSYS	QASYORJ5	PF	オブジェクト復元操 作...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYOWJE	PF	オブジェクトの所有権 に対する変更... ²
»	QSYS	QASYOWJ4	PF	オブジェクトの所有権 に対する変更...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
»	QSYS	QASYOWJ5	PF	オブジェクトの所有権 に対する変更...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYO1JE	PF	シングル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス... ²
»	QSYS	QASYO1J4	PF	シングル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYO1J5	PF	シングル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYO2JE	PF	デュアル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス... ²
»	QSYS	QASYO2J4	PF	デュアル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYO2J5	PF	デュアル光ディスク・ オブジェクト・アクセ ス...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYO3JE	PF	光ディスク・ボリュー ム・アクセス... ²
»	QSYS	QASYO3J4	PF	光ディスク・ボリュー ム・アクセス...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
»	QSYS	QASYO3J5	PF	光ディスク・ボリュー ム・アクセス...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYPAJE	PF	所有者の権限を借用するプログラムに対する変更 (CHGPGM)... ²
»	QSYS	QASYPAJ4	PF	所有者の権限を借用するプログラムに対する変更 (CHGPGM)...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYPAJ5	PF	所有者の権限を借用するプログラムに対する変更 (CHGPGM)...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYPGJE	PF	オブジェクト基本グループに対する変更... ²
»	QSYS	QASYPGJ4	PF	オブジェクト基本グループに対する変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYPGJ5	PF	オブジェクト基本グループに対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYPOJE	PF	印刷装置出力処置... ²
»	QSYS	QASYPOJ4	PF	印刷装置出力処置...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYPOJ5	PF	印刷装置出力処置...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYPSJE	PF	プロファイルのスイッチング... ²
»	QSYS	QASYPSJ4	PF	プロファイルのスイッチング...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² <<
»	QSYS	QASYPSJ5	PF	プロファイルのスイッチング...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² <<
	QSYS	QASYPWJE	PF	無効なパスワードまたはユーザー・プロファイル名の使用試行... ²

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYPWJ4	PF	無効なパスワードまたはユーザー・プロファイル名の使用試行...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYPWJ5	PF	無効なパスワードまたはユーザー・プロファイル名の使用試行...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYRAJE	PF	権限変更時のオブジェクトの復元... ²
➤	QSYS	QASYRAJ4	PF	権限変更時のオブジェクトの復元...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYRAJ5	PF	権限変更時のオブジェクトの復元...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYRJE	PF	ユーザー・プロファイル名を含むジョブ記述の復元... ²
➤	QSYS	QASYRJJ4	PF	ユーザー・プロファイル名を含むジョブ記述の復元...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYRJJ5	PF	ユーザー・プロファイル名を含むジョブ記述の復元...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYROJE	PF	所有権が QDFTOWN に変更されたときのオブジェクトの復元... ²
➤	QSYS	QASYROJ4	PF	所有権が QDFTOWN に変更されたときのオブジェクトの復元...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYROJ5	PF	所有権が QDFTOWN に変更されたときのオブジェクトの復元...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYRPJE	PF	所有者の権限を借用するプログラムの復元... ²
»	QSYS	QASYRPJ4	PF	所有者の権限を借用するプログラムの復元...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYRPJ5	PF	所有者の権限を借用するプログラムの復元...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYRQJE	PF	*CRQD オブジェクトの復元... ²
»	QSYS	QASYRQJ4	PF	*CRQD オブジェクトの復元...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYRQJ5	PF	*CRQD オブジェクトの復元...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYRUJE	PF	RSTAUT コマンドの使用による、ユーザー・プロファイルに対する権限復元操作... ²
»	QSYS	QASYRUJ4	PF	RSTAUT コマンドの使用による、ユーザー・プロファイルに対する権限復元操作...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYRUJ5	PF	RSTAUT コマンドの使用による、ユーザー・プロファイルに対する権限復元操作...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYRZJE	PF	基本グループの復元時の変更 ... ²
»	QSYS	QASYRZJ4	PF	基本グループの復元時の変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYRZJ5	PF	基本グループの復元時の変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 2 ☐
	QSYS	QASYSDJE	PF	システム配布ディレクトリーに対する変更... ²
➤	QSYS	QASYSDJ4	PF	システム配布ディレクトリーに対する変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ☐
➤	QSYS	QASYSDJ5	PF	システム配布ディレクトリーに対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ☐
	QSYS	QASYSEJE	PF	サブシステムの経路指定に対する変更... ²
➤	QSYS	QASYSEJ4	PF	サブシステムの経路指定に対する変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ☐
➤	QSYS	QASYSEJ5	PF	サブシステムの経路指定に対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ☐
	QSYS	QASYSFJE	PF	スプール・ファイルでの処置... ²
➤	QSYS	QASYSFJ4	PF	スプール・ファイルでの処置...; *TYPE4 の形式で保管されます。 2 ☐
➤	QSYS	QASYSFJ5	PF	スプール・ファイルでの処置...; *TYPE5 の形式で保管されます。 2 ☐
➤	QSYS	QASYSGJ4	PF	非同期シグナル...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ☐
➤	QSYS	QASYSGJ5	PF	非同期シグナル...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ☐
➤	QSYS	QASYSKJ4	PF	ソケット接続の保護...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ☐

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
»	QSYS	QASYSKJ5	PF	ソケット接続の保護...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYSMJE	PF	システム管理の変更... ²
»	QSYS	QASYSMJ4	PF	システム管理の変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYSMJ5	PF	システム管理の変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYSOJE	PF	サーバー・セキュリティの変更... ²
»	QSYS	QASYSOJ4	PF	サーバー・セキュリティの変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYSOJ5	PF	サーバー・セキュリティの変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYSTJE	PF	システム保守ツールの使用... ²
»	QSYS	QASYSTJ4	PF	システム保守ツールの使用...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYSTJ5	PF	システム保守ツールの使用...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYSVJE	PF	システム値に対する変更... ²
»	QSYS	QASYSVJ4	PF	システム値に対する変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYSVJ5	PF	システム値に対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYVAJE	PF	アクセス制御リストに対する変更... ²
»	QSYS	QASYVAJ4	PF	アクセス制御リストに対する変更...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² «

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYVAJ5	PF	アクセス制御リストに対する変更...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYVCJE	PF	接続の開始および終了... ²
➤	QSYS	QASYVCJ4	PF	接続の開始および終了...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVCJ5	PF	接続の開始および終了...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYVFJE	PF	サーバー・ファイルのクローズ... ²
➤	QSYS	QASYVFJ4	PF	サーバー・ファイルのクローズ...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVFJ5	PF	サーバー・ファイルのクローズ...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYVLJE	PF	アカウント限界の超過... ²
➤	QSYS	QASYVLJ4	PF	アカウント限界の超過...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVLJ5	PF	アカウント限界の超過...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
	QSYS	QASYVNJE	PF	ネットワークのログオンおよびログオフ... ²
➤	QSYS	QASYVNJ4	PF	ネットワークのログオンおよびログオフ...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVNJ5	PF	ネットワークのログオンおよびログオフ...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVOJ4	PF	妥当性検査リスト処置...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⏪
➤	QSYS	QASYVOJ5	PF	妥当性検査リスト処置...; *TYPE5 の形式で保管されます。 ² ⏪

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QASYVPJE	PF	ネットワーク・パスワード・エラー... ²
»	QSYS	QASYVPJ4	PF	ネットワーク・パスワード・エラー...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
»	QSYS	QASYVPJ5	PF	ネットワーク・パスワード・エラー...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYVRJE	PF	ネットワーク資源への アクセス... ²
»	QSYS	QASYVRJ4	PF	ネットワーク資源への アクセス...; *TYPE4 の形式で保管されま す。 ² «
»	QSYS	QASYVRJ5	PF	ネットワーク資源への アクセス...; *TYPE5 の形式で保管されま す。 ² «
	QSYS	QASYVSJE	PF	サーバー・セッション の開始および終了... ²
»	QSYS	QASYVSJ4	PF	サーバー・セッション の開始および終了...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
»	QSYS	QASYVSJ5	PF	サーバー・セッション の開始および終了...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYVUJE	PF	ネットワーク・プロフ ァイルに対する変 更... ²
»	QSYS	QASYVUJ4	PF	ネットワーク・プロフ ァイルに対する変 更...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYVUJ5	PF	ネットワーク・プロフ ァイルに対する変 更...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYVVJE	PF	サービス状況に対する 変更... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QASYVVJ4	PF	サービス状況に対する 変更...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² ◀
➤	QSYS	QASYVVJ5	PF	サービス状況に対する 変更...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² ◀
➤	QSYS	QASYXOJ4	PF	ネットワーク認証...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² ◀
➤	QSYS	QASYXOJ5	PF	ネットワーク認証...; *TYPE5 の形式で保管 されます。 ² ◀
	QSYS	QASYYCJE	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトに対する変 更... ²
➤	QSYS	QASYYCJ4	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトに対する変 更...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² ◀
➤	QSYS	QASYYCJ5	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトに対する変 更...; *TYPE5 の形式 で保管されます。 ² ◀
	QSYS	QASYRJE	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトの読み取り 操作... ²
➤	QSYS	QASYRJ4	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトの読み取り 操作...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² ◀
➤	QSYS	QASYRJ5	PF	文書ライブラリー・オ ブジェクトの読み取り 操作...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² ◀
	QSYS	QASYZCJE	PF	オブジェクトに対する 変更... ²
➤	QSYS	QASYZCJ4	PF	オブジェクトに対する 変更...; *TYPE4 の形 式で保管されます。 ² ◀

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
»	QSYS	QASYZCJ5	PF	オブジェクトに対する 変更...; *TYPE5 の形 式で保管されます。 ² «
	QSYS	QASYZMJE	PF	オブジェクト・メソッド ・アクセス... ²
»	QSYS	QASYZMJ4	PF	オブジェクト・メソッド ・アクセス...; *TYPE4 の形式で保管 されます。 ² «
	QSYS	QASYZRJE	PF	オブジェクトの読み取 り操作... ²
»	QSYS	QASYZRJ4	PF	オブジェクトの読み取 り操作...; *TYPE4 の 形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QASYZRJ5	PF	オブジェクトの読み取 り操作...; *TYPE5 の 形式で保管されます。 ² «
»	QSYS	QATOFIPF	PF	IP フィルター・ルー ル処置... ² «
»	QSYS	QATOFNAT	PF	IP NAT ルール処 置... ² «
»	QSYS	QATOQQOS	PF	QoS ポリシーの変 更... ² «
	QSYS	QATOSLOG	PF	SNMP ログ項目... ²
»	QSYS	QATOSLOG	PF	SNMP ログ項目...; *TYPE4 形式で保管さ れます。 ² «
»	QSYS	QATOVSOFF	PF	VPN 情報... ² «
	QSYS	QAWCTPJE	PF	パフォーマンスの調 整... ²
»	QSYS	QAWCTPJ4	PF	パフォーマンスの調 整...; *TYPE4 の形式 で保管されます。 ² «
»	QSYS	QAZDALLG	PF	SNADS 警報ロギン グ... ² «
	QSYS	QAZDCFLG	PF	SNADS 配布待ち行列 テーブルに対する構成 の変更... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QAZDCFL4	PF	SNADS 配布待ち行列 テーブルに対する構成 の変更...; *TYPE4 の 形式で保管されます。 2 ⏪
	QSYS	QAZDERLG	PF	SNADS ログ・エラ ー... ²
➤	QSYS	QAZDERL4	PF	SNADS ログ・エラ ー...; *TYPE4 の形式 で保管されます。2 ⏪
	QSYS	QAZDJRNL	PF	SNADS ログ・デー タ... ²
➤	QSYS	QAZDJRN4	PF	SNADS ログ・デー タ...; *TYPE4 の形式 で保管されます。2 ⏪
	QSYS	QAZDRTLГ	PF	SNADS の経路指定テ ーブルおよび 2 次シ ステム名テーブルに対 する変更... ²
➤	QSYS	QAZDRTL4	PF	SNADS の経路指定テ ーブルおよび 2 次シ ステム名テーブルに対 する変更...; *TYPE4 の形式で保管されま す。2 ⏪
	QSYS	QAZDSYLG	PF	SNADS のその他のロ ギング対象システム・ レベル・オカレン ス... ²
➤	QSYS	QAZDSYL4	PF	SNADS のその他のロ ギング対象システム・ レベル・オカレン ス...; *TYPE4 の形式 で保管されます。2 ⏪
	QSYS	QAZMFCF	PF	メール・サーバー・フ レームワーク (MSF) 構成変更ロギング... ²
➤	QSYS	QAZMFCF4	PF	メール・サーバー・フ レームワーク (MSF) 構成変更ロギング...; *TYPE4 の形式で保管 されます。2 ⏪
	QSYS	QAZMFER	PF	メール・サーバー・フ レームワーク (MSF) エラー・ロギング... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
➤	QSYS	QAZMFER4	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) エラー・ロギング...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⬅
	QSYS	QAZMFLG	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) データ・ロギング... ²
➤	QSYS	QAZMFLG4	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) データ・ロギング...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⬅
	QSYS	QAZMFSY	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) システム情報ロギング... ²
➤	QSYS	QAZMFSY4	PF	メール・サーバー・フレームワーク (MSF) システム情報ロギング...; *TYPE4 の形式で保管されます。 ² ⬅
	QSYS	QPDSPJRN	PRTF	ジャーナル表示印刷装置ファイル。 ¹

CL コマンドで使用されるファイル (パート 3)

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
DSPJRNRCVA	QSYS	QPDSPRCV	PRTF	ジャーナル・レシーバー属性印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIB	QSYS	QPDSPLIB	PRTF	ライブラリー印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIBD	QSYS	QPRTLBD	PRTF	ライブラリー記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIBL	QSYS	QPRTLBL	PRTF	ライブラリー・リスト印刷装置ファイル。 ¹
DSPLIND	QSYS	QPDCLINE	PRTF	回線記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPLOG	QSYS	QPDSPLG	PRTF	ログ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPMNUA	QSYS	QPDSPMNU	PRTF	メニュー属性印刷装置ファイル。 ¹
DSPMOD コマンド:				
<p>DSPMOD コマンドの場合、次のすべての項目は、ファイルのタイプ (またはグループ) に関する特定のタイプの情報を保管するために使用されるファイルのファイル・タイプを持ちます。(DETAIL パラメーターの説明については、DSPMOD コマンドを参照してください。このパラメーターは、これらのファイルを使用することになるすべての値を識別します。) したがって、各モデル・ファイルの記述の最後には 以下のような共通部分があります。共通部分の前にくる各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。</p> <p>... を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。</p>				
DSPMOD	QSVMS	QACQSRC	PRTF	セキュリティー出口プログラム例のソース... ¹

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QABNDMBA	PF	基本情報と互換性のセクション... ¹
	QSYS	QABNDMSI	PF	解凍したサイズおよびサイズの限界... ¹
	QSYS	QABNDMEX	PF	このモジュールで定義され、他のモジュールにエクスポートされる記号... ¹
	QSYS	QABNDMIM	PF	このモジュールの外部の定義済みの記号... ¹
	QSYS	QABNDMPR	PF	プロシージャ名とタイプのリスト... ¹
	QSYS	QABNDMRE	PF	プログラムまたはサービス・プログラムにモジュールをバインドしたときにモジュールによって参照されていたシステム・オブジェクトのリスト... ¹
	QSYS	QABNDMCO	PF	モジュールの著作権情報...
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	モジュール印刷装置ファイル... ¹
DSPMODD	QSYS	QPDCMOD	PRTF	モード記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPMODSTS	QSYS	QPDCMOD	PRTF	モード状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPMSG	QSYS	QPDSMSG	PRTF	メッセージ表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPMSGD	QSYS	QPMSGD	PRTF	メッセージ記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPNETA	QSYS	QANFDNTF	PF	ネットワーク・ファイル項目のレコード様式を定義するために使用するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSNET	PRTF	ネットワーク属性表示印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFNJE	PRTF	ネットワーク・ジョブ項目表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPNWID	QSYS	QPDCNWID	PRTF	ネットワーク・インターフェース記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPOBJAUT	QSYS	QAOBJAUT	PF	オブジェクト権限項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPOBJAUT	PRTF	オブジェクト権限印刷装置ファイル。 ¹
DSPOBJD	QSYS	QADSPOBJ	PF	オブジェクト記述項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPRTOBJD	PRTF	オブジェクト記述印刷装置ファイル。 ¹
DSPOVR	QSYS	QPDSPOVR	PRTF	指定変更表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPDGPRF	QGPL	QPCJPDGPRF	PRTF	印刷記述子グループ・プロファイル用の印刷装置ファイル。 ¹
DSPFRGPH	QPFRRDATA	QAPGGPHF	PF	パフォーマンス・データベース・ファイル: グラフ様式データ。
	QPFRRDATA	QAPGPKGF	PF	パフォーマンス・データベース・ファイル: グラフ・パッケージ・データ。
	QPFRR	QPPGGPH	PRTF	パフォーマンス・グラフ印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGM	QSYS	QPDPGM	PRTF	プログラム表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGMADP	QSYS	QADPGMAD	PF	指定のプロファイルを採用するプログラム名の保管用に作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPPGMADP	PRTF	指定のプロファイルを適用するプログラムをリストする印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
DSPPGMREF	QSYS	QADSPPGM	PF	プログラム参照を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPDSPPGM	PRTF	プログラム参照を含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPPGMVAR	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	プログラム変数 (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
下記の QUSRSYS ライブラリー内の 8 つの QASXxxxx ファイルは、すべて、DLTPRB コマンドおよび WRKPRB コマンドによっても使用されます。以下のそれ以外のファイル (QSYS 内) は、これらのコマンドでは使用されません。				
DSPPRB	QSYS	QASXxxxx	PF	問題出力ファイルのレイアウトを含む 5 つの QASXxxxx モデル・データベース・ファイルのセット。ここで、xxxx は、CAOF、FXOF、PBOF、SDOF、および TXOF です。 ²
	QSYS	QSPRTRD	PRTF	問題ログの詳細 印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSPRRTL	PRTF	問題ログの要約 印刷装置ファイル。 ¹
³ 以下の 8 ファイルは、DLTPRB コマンドおよび WRKPRB コマンドによっても使用されます。				
	QUSRSYS	QASXCALL ³	PF	問題ログの呼び出し指定変更ファイル。
	QUSRSYS	QASXDTA ³	PF	問題ログのデータ識別コード・ファイル。
	QUSRSYS	QASXEVT ³	PF	問題ログの事象ログ・ファイル。
	QUSRSYS	QASXFRU ³	PF	問題ログの考えられる原因のファイル。
	QUSRSYS	QASXNOTE ³	PF	問題ログのユーザー注記ファイル。
	QUSRSYS	QASXPROB ³	PF	問題ログの問題ファイル。
	QUSRSYS	QASXPTF ³	PF	問題ログの PTF ファイル。
	QUSRSYS	QASXSYMP ³	PF	問題ログの徴候ストリング・ファイル。
DSPPPTF	QSYS	QADSPPTF	PF	プログラム一時修正 (PTF) 情報を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	プログラム一時修正 (PTF) 表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPPWRSCD	QSYS	QSYSPRT	PRTF	電源スケジュール表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPRCDLCK	QSYS	QPDSPLRK	PRTF	レコード・ロック表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPRCYAP	QSYS	QSYSPRT	PRTF	アクセス・パス印刷装置ファイルの回復表示
DSPRDBDIRE	QSYS	QSYSPRT	PRTF	分散リレーショナル・データベース・ディレクトリー印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QADSPDE	PF	RDB ディレクトリー項目のレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。
DSPRJECFG	QRJE	QPRTCFG	PRTF	RJE 構成印刷装置ファイル。 ¹
DSPSAVF	QSYS	QPSRODSP	PRTF	保管ファイルの保管/復元情報用の印刷装置ファイル。 ¹
DSPSBSD	QSYS	QPRTSBSD	PRTF	サブシステム記述印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
DSPSFWRSC	QSYS	QARZLCOF	PF	IBM ライセンス・プログラムおよび SystemView [®] パッケージ・アプリケーションに関する情報を保管するために作成されるファイルのモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ソフトウェア資源印刷装置ファイル。 ¹
DSPSOCSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	制御範囲状況印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲データベース・ファイル。
DSPSRVPGM	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サービス・プログラム印刷装置ファイル。 ¹
DSPSYSSTS	QSYS	QPDPSPST	PRTF	システム状況表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPSYSVAL	QSYS	QPDPSPVL	PRTF	システム値印刷装置ファイル。 ¹
DSPTAP	QSYS	QPTAPDSP	PRTF	テープ出力用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QPSRODSP	PRTF	保管/復元形式のテープ用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置ファイル。
DSPTAPCGY	QSYS	QTAPCGY	PRTF	テープ・カテゴリー 1 用の印刷装置ファイル。
	QSYS	QATACOF	PF	テープ・カテゴリー 2 のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DSPTAPCTG	QSYS	QPTACTG	PRTF	テープ・カートリッジ識別コード 1 用の印刷装置ファイル。
	QSYS	QATAVOF	PF	テープ・カートリッジ識別コード 2 のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	PF	ライブラリー装置データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	ライブラリー装置論理データベース・ファイル。
DSPTAPSTS	QSYS	QPTAPSTS	PRTF	テープ・ライブラリー用の印刷装置ファイル。
	QSYS	QATAIOF	PF	テープのモデル出力ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置ファイル。
	QSYS	QPTYSWTD	PRTF	電話スイッチ項目を印刷するための印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRAPRF	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネットワーク・アダプター・プロファイルを含む印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRC	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	トレース (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRCDTA	QSYS	QPDBGDSP	PRTF	トレース・データ (デバッグ・モード) 印刷装置ファイル。 ¹
DSPTRNSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネットワーク状況印刷装置ファイル。 ¹
DSPUSRPMN	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書権限表示印刷装置ファイル。 ¹
DSPUSRPRF	QSYS	QADSPUPA	PF	TYPE(*OBJAUT) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QADSPUPB	PF	TYPE(*BASIC) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QADSPUPO	PF	TYPE(*OBJOWN) の場合のユーザー・プロファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPUSRPRF	PRTF	ユーザー・プロファイル印刷装置ファイル。 ¹
DSPWSUSR	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ワークステーション・ユーザー印刷装置ファイル。 ¹
DUPTAP	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入出力に使用するテーブ装置ファイル。
EDTIGCDCT	QSYS	QPDSPDCT	PRTF	DBCS 印刷装置ファイル。
EDTQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
EJTEMLOUT	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置ファイル。
ENDDSKCOL	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTDSKD	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ディスク活動データ。
ENDIDXMON	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision [®] テキスト検索サービス管理テーブル。
ENDJOBTRC	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTTRCJ	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ・トレース・データ。
	QPFR	QPPTTRCD	PRTF	ジョブ・トレース分析詳細 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC1	PRTF	物理ディスク活動のジョブ・トレース分析要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC2	PRTF	ジョブ・トレース分析入出力要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
ENDPRTEML	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置ファイル。
	QPFR	QAPTSAMH	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 高水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QAPTSAMV	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 低水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
FMTDTA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	データ形式印刷装置ファイル。
	QGPL	QFMTSRC	PF	分類ソース・デフォルト入力ファイル。
FNDSTRPART	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	ユーザーのストリング検索要求の PDM 印刷装置出力ファイル。
FNDSTRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	ユーザーのストリング検索要求の PDM 印刷装置出力ファイル。
HLDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
INZTAP	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテーブ装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテーブ装置ファイル。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
LODQSTDB	QQALIB	QAQAxxxx00	PF	質問回答が提供するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。
MGRFORMD	QPDA	QPAPFPRT	PRTF	組み合わせ形式記述印刷装置ファイル。
MRGTCPHT	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
PRTACTRPT	ユーザー・ライブラリー	QAITMON	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データ。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPITACTR	PRTF	ジョブおよびライセンス内部コードのタスク・データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
PRTAFPDTA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	Advanced Function Printing (AFP) TM データ印刷装置ファイル
PRTCMDUSG	QSYS	QSYSPRT	PRTF	コマンド使用法印刷装置ファイル。
PRTC MNTRC	QSYS	QASCCMNT	PF	通信トレース・レコードを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPCSMPT	PRTF	通信トレース印刷装置ファイル (並行保守モニター)。 ¹
PRTCPTRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTCPT	PRTF	構成要素レベルの活動データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、CIOP、CONF、DIOP、DISK、ECL、ETH、HDLC、JOBS、LIOP、MIOP、POOL、RESP、RWS、および SYS です。 ²
PRTDEVADR	QSYS	QPDDEVA	PRTF	装置アドレス印刷印刷装置ファイル。
PRTDOC	QSYS	QAPOUFL	PF	文書出力データベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	文書印刷印刷装置ファイル。 ¹
PRTDSKINF	QSYS	QAEZDISK	PF	ディスク・スペース情報のモデル出力ファイル。
	QUSRSYS	QAEZDISK	PF	ディスク・スペース情報のデータベース入力ファイル。
	QSYS	QPEZDISK	PRTF	ディスク・スペース報告印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	ディスク・スペース報告印刷装置ファイル。 OVRPRTF を使用する場合は、このファイルを指定しなければなりません。
PRTDSKRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QAPTDSKD	PF	ディスク活動収集データのパフォーマンス・データベース入力ファイル。
	QPFR	QPPTDSK	PRTF	ディスク装置入出力活動データの印刷装置ファイル。
PRTERLOG	QSYS	QAPRTELG	PF	エラー・ログ・レコードを保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAVOLSTA	PF	ボリューム統計を保管するために作成されるファイルのレコード様式を定義するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPCSMPT	PRTF	エラー・ログ (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。 ¹
PRTINTDTA	QSYS	QPCSMPT	PRTF	内部データ (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
PRTJOBTRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVJ	PRTF	ジョブ間隔収集データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CONF および JOBS です。 ²
PRTJOBTRC	QPFR	QAJOBTRC	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ・トレース・データ。
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QAPTTRCJ	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: ジョブ・トレース・データ。
	QPFR	QPPTTRCD	PRTF	ジョブ・トレース分析詳細 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC1	PRTF	物理ディスク活動のジョブ・トレース分析要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QPPTTRC2	PRTF	ジョブ・トレース分析入出力要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
PRTLCKRPT	ユーザー・ライブラリー	QAPTLCKD	PF	ロックと競合捕そくデータを含むパフォーマンス・データ収集出力 ファイル
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTLCK	PRTF	ロックと競合捕そくデータを含むパフォーマンス・データ収集印刷装置 ファイル
	QSYS	QAPMDMPT	PF	システムのロックと競合捕そくのトレース・データを含むパフォーマンス・データ収集入力 ファイル。 ²

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
PRTPOLRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVP	PRTF	サブシステムおよびプール活動の間隔データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、CONF、JOBS、および POOL です。 ²
PRTRSCRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTITVR	PRTF	ディスクおよび通信回線の活動間隔データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、CIOP、CONF、DIOP、DISK、ECL、ETH、HDLC、LIOP、MIOP、RESP、RWS、および SYS です。 ²
	QPFR	QAPTSAMH	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 高水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QAPTSAMV	PF	パフォーマンス・データ収集ファイル: 低水準のサンプル・アドレス・モニター (SAM) データ。
	QPFR	QPPTSAM	PRTF	SAM パフォーマンス・データの印刷装置ファイル。
PRTSYSRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QPPTSYSR	PRTF	システムの作業負荷および資源の使用状況データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、ASYN、BSC、CONF、DISK、ECL、ETH、HDLC、JOBS、POOL、SYS、および X25 です。 ²
PRTTNSRPT	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QPFR	QSPDJS	PRTF	ジョブ要約 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QSPDJD	PRTF	ジョブ状態遷移 データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QPFR	QSPDTS	PRTF	ジョブ・トランザクション・データを含むパフォーマンス印刷装置ファイル。
	QSYS	QAPMxxxx	PF	QAPMxxxx パフォーマンス・データ収集ファイル。ここで、xxxx は、DMPT および JOBS です。 ²
PRTTRC	QSYS	QPSRVTRC	PRTF	ジョブ・トレース印刷装置出力ファイル。 ¹
PRTTRCRPT	ユーザー・ライブラリー	QTRTJOB	PF	バッチ・ジョブ・トレース・データを含むパフォーマンス・データ収集入力 ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・データ DDS ソース・ファイル。
	QSYS	QAPMDMPT	PF	システム・トレース・データを含むパフォーマンス・データ収集入力ファイル。 ²
QRYDOCLIB	QSYS	QAOSIQDL	PF	文書ライブラリー QUERY 出力ファイル。
QRYDST	QSYS	QAOSILIN	PF	着信配布出力ファイル。
	QSYS	QAOSILOT	PF	発信配布出力ファイル。
RCLSTG	QSYS	QPRCLDMP	PRTF	ダンプ出力リスト再利用。
RCVDST	QSYS	QAOSIRCV	PF	着信メール配布受信モデル・データベース・ファイル。 ²
RCVTIEF	QSYS	QPTIRCV	PRTF	受信ファイル要約印刷装置ファイル。 ¹
RLSDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
RMVDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
RMVDSTRTE	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
	QUSRSYS	QASNADSR	PF	SNADS 経路指定テーブル。
RMVDSTSYSN	QUSRSYS	QASNADSA	PF	SNADS 2 次ノード ID テーブル。
RMVJRNCHG	QSYS	QAJRNCHG	PF	ジャーナル処理済み変更除去のモデル出力ファイル
RMVNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目データベース・ファイル。
RMVSOCE	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲ファイル。
RMVTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTAMID	LF	カートリッジ ID 論理データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
RMVTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
RMVTCPIFC	QUSRSYS	QATOCIFC	PF	TCP/IP インターフェース・ファイル。
RMVTCPPORT	QUSRSYS	QATOCPORT	PF	TCP/IP ポート制約条件ファイル。
RMVTCPRSI	QUSRSYS	QATOCRSI	PF	TCP/IP リモート・システム情報ファイル。
RMVTCPRTE	QUSRSYS	QATOCRTE	PF	TCP/IP 経路ファイル。
RMVXTIDXE	QUSRSYS	QABBADM TB	PF	OfficeVision [®] テキスト検索サービス管理テーブル。
RNMTCPHTE	QUSRSYS	QATOCHOST	PF	TCP/IP ホスト・ファイル。
RST	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテーブ装置ファイル。
RSTCFG	QSYS	QASRRSTO	PF	構成のモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテーブ装置ファイル。
RSTDLO	QSYS	QAOJRSTO	PF	復元される文書ライブラリー・オブジェクトのモデル出力ファイル。 ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・ タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QPRSTDLO	PRTF	復元される文書およびフォルダー用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTLIB	QSYS	QASRRSTO	PF	ライブラリーのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTLICPGM	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTOBJ	QSYS	QASRRSTO	PF	復元されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSRLDSP	PRTF	復元オブジェクト状況印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RSTUSRPRF	QSYS	QASRRSTO	PF	ユーザー・プロファイルのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力に使用するテープ装置ファイル。
RTVDOC	QSYS	QAOSIRTV	PF	文書ライブラリー出力ファイルからの文書の検索。
RTVDSKINF	QSYS	QAEZDISK	PF	ディスク情報のモデル・ファイル。
	QUSRSYS	QAEZDISK	PF	ディスク情報用のデータベース出力ファイル。
RUNQRY	QSYS	QPQUPRFL	PRTF	QUERY 出力に使用する印刷装置ファイル。 ¹
▶ SAV	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。◀
SAVCFG	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVCHGOBJ	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVDLO	QSYS	QAOJSAVO	PF	保管される文書およびフォルダーのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVDLO	PRTF	保管される文書およびフォルダー用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVLIB	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
▶	QUSRSYS	QSRPNTWK	PRTF	保管されるデータベース・ファイル・ネットワーク用の印刷装置ファイル。◀
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVOBJ	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVSAVFDTA	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
SAVSECDTA	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SAVSYS	QSYS	QASAVOBJ	PF	保管されるオブジェクトのモデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QPSAVOBJ	PRTF	保管されるオブジェクト用の印刷装置ファイル。 ¹
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力に使用するテープ装置ファイル。
SBMFNCJOB	QSYS	QDFNDATA	DSPF	非 ICF 金融機関表示装置ファイル。
	QUSRSYS	QFNDEVTBL	PF	装置テーブルに関するデータを含むファイル。
	QUSRSYS	QFNPGMTBL	PF	プログラム・テーブルに関するデータを含むファイル。
	QUSRSYS	QFNUSRTBL	PF	ユーザー・テーブルに関するデータを含むファイル。
SETTAPCGY	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・データベース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイル。
SNDDSTQ	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 配布待ち行列テーブル。
SNDFNCIMG	QSYS	QCRFDWNL	ICFF	4701 制御装置との通信に使用する ICF ファイル。
SNDPTFORD	QGPL	Qnnnnnnn	SAVF	PTF 保管ファイル。ここで、nnnnnnn は、PTF 番号です。
	QSYS	QESPRTF	PRTF	PTF カバー・レター用の印刷装置ファイル。
SNDSRVRQS	QGPL	Qnnnnnnn	SAVF	PTF 保管ファイル。ここで、nnnnnnn は、PTF 番号です。
	QSYS	QESPRTF	PRTF	PTF カバー・レター用の印刷装置ファイル。
	QUSRSYS	QAEDCDBPF	PF	保守連絡先情報を含むファイル。
STRCODE	ユーザー・ライブラリー	EVFCICFF	ICFF	ワークステーションとの通信に使用する ICF ファイル。
STRCPYSCN	QSYS	QASCCPY	PF	画面コピー出力ファイルのパターン。
STRDFU	QSYS	QDFUPRT	PRTF	DFU 印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
STRIDXMOM コマンド:				
STRIDXMOM コマンドおよび STRRGZIDX コマンドは、OfficeVision ^(R) テキスト検索サービス内の 10 ファイルのうち、9 ファイルを使用します。これらのファイルは、STRUPDIDX コマンドでも使用されます。これらの 9 ファイル (名前はすべて QABBxxxx) については、STRUPDIDX コマンドの箇所を参照してください。このリストの 10 番目 (最後) のファイル (QABBLADN) は、STRIDXMOM でも STRRGZIDX でも使用されません。				
STRIDXMOM	QUSRSYS	QABBxxxx	PF	注 E を参照。
STRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。

CL コマンドで使用されるファイル (パート 4)

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
CRTPFRTDA コマンド:				
<p>CRTPFRTDA コマンドの次のファイルはすべて、物理ファイル (PF) または論理ファイル (LF) です。これらのファイルは、(実際の実出力ファイルとしてではなく) モデル・ファイルとして使用され、このコマンドが収集したパフォーマンス・データを保管するために作成されたファイルのレコード様式を定義します。これらのモデル・ファイルはすべて QSYS ライブラリーに入っており、これらが作成するファイルはユーザーが決めたライブラリーに入ります。(このライブラリーは、デフォルトは、*MGTCOL オブジェクト用に指定したものと同一ライブラリー (通常は QPFRTDATA) です。)作成された各ファイルには、特定のタイプのパフォーマンス・データが、収集対象の特定のタイプのデータに定義された形式で保管されます。</p> <p>以下にリストされているファイルについては、各モデル・ファイルの記述に、下記に示す太字の共通部分があります。冒頭に入る各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。</p> <p>... を保管するために作成されるデータ収集ファイルのレコード様式を定義するモデル・パフォーマンス・モニター・データベース・ファイル。</p>				
CRTPFRTDA	QSYS	QAPMAPPN	PF	APPN データ... ²
	QSYS	QAPMASYN	PF	非同期データ... ²
	QSYS	QAPMBSC	PF	2 進同期データ... ²
	QSYS	QAPMJOBMI	PF	MI からのジョブ・データ...
	QSYS	QAPMJOBOS	PF	OS/400 からのジョブ・データ...
	QSYS	QAPMJOBWT	PF	ジョブ待機バケット・データ... ²
	QSYS	QAPMJOBWTD	PF	ジョブ待機バケット記述... ²
	QSYS	QAPMJSUM	PF	要約されたジョブ・データ...
	QSYS	QAPMBUS	PF	バス・カウンター・データ... ²
	QSYS	QAPMCIOP	PF	通信制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMCONF	PF	システム構成データ... ²
	QSYS	QAPMDDI	PF	DDI 分散インターフェース・データ... ²
	QSYS	QAPMDIOP	PF	記憶装置制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMDISK	PF	ディスク記憶域 (DASD) データ... ²
	QSYS	QAPMDOMINO	PF	Domino TM データ... ²
	QSYS	QAPMECL	PF	ECL またはトークンリング LAN のデータ... ²
	QSYS	QAPMETH	PF	イーサネット統計データ... ²

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMFRLY	PF	フレーム・リレー・データ... ²
	QSYS	QAPMHDLC	PF	HDLC および SDLC の制御データ... ²
	QSYS	QAPMHTTPB	PF	HTTP サーバー (powered by Apache) 基本データ... ²
	QSYS	QAPMHTTPD	PF	HTTP サーバー (powered by Apache) 詳細データ... ²
	QSYS	QAPMIDLC	PF	ISDN データ・リンク制御ファイル項目データ... ²
	QSYS	QAPMJOBL	LF	QAPMJOBMI および QAPMJOBOS のジョブ・データの論理ビュー... ²
	QSYS	QAPMLAPD	PF	ISDN LAPD ファイル項目データ... ²
	QSYS	QAPMLIOP	PF	ローカル・ワークステーション制御装置 (WSC) データ... ²
	QSYS	QAPMMIOP	PF	多機能制御装置データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLB	PF	主記憶域プール・データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLT	PF	プール調整データ... ²
	QSYS	QAPMPOOLL	LF	プール・データとしての論理ビュー... ²
	QSYS	QAPMPPP	PF	PPP プロトコル・データ... ²
	QSYS	QAPMRESP	PF	ローカル・ワークステーションの応答データ... ²
	QSYS	QAPMSAP	PF	トークンリング LAN、イーサネット、分散データ・インターフェース、およびフレーム・リレーのサービス・アクセス・ポイント... ²
	QSYS	QAPMSBSD	PF	サブシステム記述データ... ²
	QSYS	QAPMSNA	PF	SNA データ... ²
	QSYS	QAPMSNADS	PF	SNADS データ... ²

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QAPMSTND	PF	DDI 端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNE	PF	イーサネット端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNL	PF	トークンリング LAN 端末データ... ²
	QSYS	QAPMSTNY	PF	フレーム・リレー端末データ... ²
	QSYS	QAPMSYSCPU	PF	システム CPU データ... ²
	QSYS	QAPMSYSL	LF	ログ表示 CPU システム・データ... ²
	QSYS	QAPMSYSTEM	PF	システム・パフォーマンス・データ... ²
	QSYS	QAPMTCP	PF	TCP システム・データ... ²
	QSYS	QAPMTCPIFC	PF	TCP インターフェース・データ... ²
	QSYS	QAPMTSK	PF	システム内部データ... ²
	QSYS	QAPMUSRTNS	PF	ユーザー定義トランザクション・データ... ²
	QSYS	QAPMX25	PF	X.25 通信データ... ²
STRPRTEML	QSYS	QPEMPRTF	PRTF	エミュレーション印刷装置ファイル。
STRPRTWTR	QSYS	QPSPLPRT	PRTF	すべての印刷装置の書き込みに使用する印刷装置ファイル。
STRQMQRV	QSYS	QPQXPRTF	PRTF	QUERY CPI によって使用される印刷装置ファイル。 ¹
STRQST	QQALIB	QAQAxxxx00	PF	質問回答が提供するモデル・データベース・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	LF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QAQA00xxxx	PF	質問回答データベース・モデル・ファイル。 ²
	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置ファイル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
STRRGZIDX コマンド:				
STRRGZIDX コマンドおよび STRIDXMOM コマンドは、OfficeVision テキスト検索サービス内の 10 ファイルのうち、9 ファイルを使用します。これらのファイルは、STRUPDIDX コマンドでも使用されます。これらの 9 ファイル (名前はすべて QABBxxxx) については、STRUPDIDX コマンドの箇所を参照してください。このリストの 10 番目 (最後) のファイル (QABBLADN) は、STRRGZIDX でも STRIDXMOM でも使用されません。				
STRRGZIDX	QUSRSYS	QABBxxxx	PF	注 F を参照。
STRSDA	QGPL	QDDSSRC	PF	DDS ソース・デフォルト入力ファイル。
STRSEU	QGPL	QTXTSRC	PF	SEU ソース・デフォルト入力ファイル。
	QPDA	QPSUPRTF	PRTF	SEU ソース・メンバー印刷装置ファイル。
STRSST	QSYS	QPCSMPT	PRTF	保守ツール印刷装置ファイル。 ¹
	QTY	QATYALMF	PF	警報レコード様式の電話データベース・モデル・ファイル。
	QUSRSYS	QATYSWTE	PF	ユーザーが作成したスイッチ項目の電話データベース・ファイル。
	QTY	QATYCDRF	PF	警報レコード様式の電話データベース・モデル・ファイル。
	QUSRSYS	QATYSWTE	PF	ユーザーが作成したスイッチ項目の電話データベース・ファイル。
STRUPDIDX コマンド:				
STRUPDIDX コマンドは、OfficeVision ^R テキスト検索サービスに関連付けられている、次の 10 個のファイルを使用します。このうちの最初の 9 ファイル (QABBLADN 以外のすべて) は、STRIDXMOM コマンドおよび STRRGZIDX コマンドでも使用されます。				
次のすべてのファイルの記述には、共通部分があります。すなわち、各ファイル記述の共通部分は、下記の太字部分で始まります。続く 各記述の固有の部分は、ファイルの用途の欄に記載してあります。				
OfficeVision^R テキスト検索サービス...				
STRUPDIDX	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	... 管理テーブル。
	QUSRSYS	QABBKAN	PF	... 候補ファイル。
	QUSRSYS	QABBKCOX	PF	... コンテキストの索引。
	QUSRSYS	QABBDEX	PF	... 外部文書索引識別コード。
	QUSRSYS	QABBKIC	PF	... デクショナリー。
	QUSRSYS	QABBKIX	PF	... 内部文書見出し識別コード。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QUSRSYS	QABBDOX	PF	...文書索引テーブル。
	QUSRSYS	QABBFIX	PF	...部分構文索引。
	QUSRSYS	QABBIQTB	PF	...スケジューリング待ち行列。
	QUSRSYS	QABBLADN ⁴	PF	...索引付き LADN (ライブラリー割り当て文書名) のリスト。
TRCCNN	QSYS	QSYSPRT	PRTF	接続トレース印刷装置ファイル。
⁴ この QABBLADN ファイルは、STRRGZIDX コマンドでも STRIDXMON コマンドでも使用されません。				
TRCCPIC	QSYS	QACM0TRC	PF	CPI 通信データベース・トレース・モデル出力ファイル。 ²
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	CPI 通信トレース印刷装置ファイル。 ¹
TRCICF	QSYS	QAIFTRCF	PF	ICF データベース・トレース出力ファイル。
	QSYS	QPIFTRCF	PRTF	ICF トレース印刷装置ファイル。 ¹
TRCINT	QSYS	QPCSMPT	PRTF	内部トレース (並行保守モニター用) 印刷装置ファイル。
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	出力用のテープ装置ファイル。
TRCJOB	QSYS	QATRCJOB	PF	トレース・レコードを保管するために作成されたファイルのレコード様式を定義するデータベース・ファイル。 ²
	QSYS	QPSRVTRC	PRTF	ジョブ・トレース印刷装置出力ファイル。 ¹
UPDDTA	QSYS	QPDZDTALOG	PRTF	DFU 実行時監査ログ。
	QSYS	QPDZDTAPRT	PRTF	DFU 実行時印刷装置データ・ファイル。
VFYLNKLPDA ^R	QSYS	QSYSPRT	PRTF	LPDA ^R をサポートしているリンク -2 印刷装置ファイルの検査。 ¹
WRKACTJOB	QSYS	QPDSPAJB	PRTF	活動ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKALR	QUSRSYS	QAALERT	PF	警報データベース・ファイル。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSPRT	PRTF	警報印刷装置ファイル。 ¹
WRKCFGSTS	QSYS	QSYSPRT	PRTF	構成状況印刷装置ファイル。 ¹
WRKCNTINF	QUSRSYS	QAEDCDBPF	PF	接続データを含むデータベース・ファイル。
WRKDDMF	QSYS	QPWRKDDM	PRTF	分散データ管理 (DDM) ファイル属性印刷装置ファイル。 ¹
WRKDEVTBL	QUSRSYS	QFNDEVTBL	PF	装置テーブルに関するデータを含むファイル。
WRKDIR	QSYS	QPDSPDDL	PRTF	ディレクトリー項目の詳細印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDSPDSM	PRTF	ディレクトリー項目の要約印刷装置ファイル。
WRKDOCCVN	QUSRSYS	QAO1CRL	LF	入出力用の文書変換論理ファイル。
	QUSRSYS	QAO1CVNP	PF	入出力用の文書変換物理ファイル。
	QUSRSYS	QAO1DCVN	PRTF	文書変換印刷装置ファイル。
WRKDPCQ	QSYS	QPDXWRKD	PRTF	DSNX/PC の待機配布要求用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKDSKSTS	QSYS	QPWCDSKS	PRTF	ディスク状況印刷装置ファイル。 ¹
WRKDSTL	QSYS	QPDSPLDL	PRTF	配布リストの詳細印刷装置ファイル。
	QSYS	QPDSPLSM	PRTF	配布リストの要約印刷装置ファイル。
WRKDSTQ	QSYS	QPSTSTS	PRTF	配布状況印刷装置ファイル。 ¹
	QUSRSYS	QASNADSQ	PF	SNADS 宛先待ち行列テーブル。
WRKFCT	QRJE	QPDSPFCT	PRTF	用紙制御テーブル印刷装置ファイル。 ¹
WRKGRPPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKHDWRSC	QSYS	QASUPTL	PF	ハードウェア資源ロック・データベース・ファイル。

コマンド名	ファイルライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKHTTPCFG	QUSRSYS	QATMHTTPC	PF	TCP/IP HTTP ファイル。
WRKJOB	QSYS	QPDSPJOB	PRTF	ジョブ表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKJOBQ	QSYS	QPRTSPLQ	PRTF	ジョブ待ち行列印刷装置ファイル (スプール待ち行列)。 ¹
WRKJOBSCDE	QSYS	QSYSVRT	PRTF	ジョブ・スケジュール項目印刷装置ファイル。 ¹
WRKJRNA	QSYS	QPDSPJNA	PRTF	ジャーナル属性印刷装置ファイル。 ¹
WRKLIBPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMBRPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMSG	QSYS	QPDSMSG	PRTF	メッセージ待ち行列メッセージ用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKMSGD	QSYS	QPMSGD	PRTF	メッセージ記述印刷装置ファイル。
WRKNAMSMTP	QSYS	QATMSMTP	PF	TCP/IP SMTP パーソナル別名テーブル。
	QSYS	QATMSMTPA	PF	TCP/IP SMTP システム別名テーブル。
WRKNETF	QSYS	QANFDNTF	PF	ネットワーク・ファイル表示用のデータベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFDNTF	PRTF	ネットワーク・ファイル表示用の印刷装置ファイル。 ¹
WRKNETJOBE	QUSRSYS	QANFNJE	PF	ネットワーク・ジョブ項目のデータベース・ファイル。 ¹
	QSYS	QPNFNJE	PRTF	ネットワーク・ジョブ項目の印刷装置ファイル。 ¹
WRKOBJLCK	QSYS	QPDSPOLK	PRTF	オブジェクト・ロック表示印刷装置ファイル。 ¹
WRKOBJPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リスト用の印刷装置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKOUTQ	QSYS	QPRTSPLQ	PRTF	出力スプール待ち行列 印刷装置ファイル。 ¹
WRKOUTQD	QSYS	QPDSPSQD	PRTF	出力待ち行列記述。 ¹
WRKPARTPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リス ト用の印刷装置ファ イル。
WRKPGMTBL	QUSRSYS	QFNPGMTBL	PF	プログラム・テーブ ルに関するデータを含 むファイル。
WRKPRB コマンド:				
WRKPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示されている 8 つの QASXxxxx というファイルは、すべて、 DSPPRB コマンドの QUSRSYS ライブラリーに示されているファイルのサブセットと同じです。これらのファイルの 説明については、 DSPPRB コマンドを参照してください。				
WRKPRB	QSYS	QSPRTD	PRTF	問題ログの詳細 印刷 装置ファイル。
	QSYS	QSPRTL	PRTF	問題ログの要約 印刷 装置ファイル。
	QUSRSYS	QASXxxxx	PF	QUSRSYS ライブラ リー内にあるこれら 8 つのファイルについ ては、 DSPPRB コマ ンドを参照してくだ さい。
WRKPRJPDM	QPDA	QPUOPRTF	PRTF	PDM の表示対象リス ト用の印刷装置ファ イル。 ¹
WRKQRY	QSYS	QPQPRFIL	PRTF	QUERY 出力に使用す る印刷装置ファイル。
WRKQST	QSYS	QPQAPRT	PRTF	質問回答印刷装置フ ァイル。
WRKRDBDIRE	QSYS	QSYSPRT	PRTF	分散リレーショナル・ データベース・ディレ クトリー印刷装置フ ァイル。 ¹
WRKRDR	QSYS	QPRTRDWT	PRTF	読み取りプログラム表 示印刷装置ファイル。 ¹
WRKRJESSN	QRJE	QPRJESTS	PRTF	RJE セッションの活 動状況印刷装置ファ イル。 ¹
WRKRPYLE	QSYS	QPRTRPYL	PRTF	システム応答リスト印 刷装置ファイル。 ¹
WRKSBMJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	投入済みジョブ印刷装 置ファイル。 ¹

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
WRKSBS	QSYS	QPDSPSBS	PRTF	サブシステム表示印刷 装置ファイル。 ¹
WRKSBSJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	サブシステム・ジョブ 表示印刷装置ファイ ル。 ¹
WRKSHRPOOL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	共用記憶域プール印刷 装置ファイル。 ¹
WRKSOC	QUSRSYS	QAALSOC	PF	制御範囲データベー ス・ファイル。
WRKSPLF	QSYS	QPRTSPLF	PRTF	スプール・ファイル印 刷装置ファイル。 ¹
WRKSPLFA	QSYS	QPDSPSFA	PRTF	スプール・ファイル属 性印刷装置ファイル。 ¹
WRKSPTPRD	QSYS	QSYSPRT	PRTF	サポート・プロダクト 印刷装置ファイル。 ¹
WRKSRVPVD	QUSRSYS	QAEDSPI	PF	サービス提供者情報フ ァイル。
WRKSRVRQS	QUSRSYS	QANSSRI	PF	サービス要求装置ファ イル。
WRKSSND	QRJE	QPRTSSND	PRTF	セッション記述印刷装 置ファイル。 ¹
WRKSYSACT	ユーザー・ライブラリ ー	QAITMON	PF	パフォーマンス・デー タ収集ファイル: ジョ ブおよびライセンス内 部コードのタスク・デ ータ。 ¹
	QPFR	QAPTDDS	PF	パフォーマンス・デー タ DDS ソース・ファ イル。
WRKSYSSTS	QSYS	QPDSPSTS	PRTF	システム状況印刷装置 ファイル。 ¹
WRKSYSVAL	QSYS	QSYSPRT	PRTF	システム値印刷装置フ ァイル。 ¹
WRKTAPCTG	QUSRSYS	QATAMID	PF	カートリッジ ID デ ータベース・ファイ ル。
	QUSRSYS	QATAMID	LF	カートリッジ ID 論 理データベース・ファ イル。
	QUSRSYS	QATACGY	PF	カテゴリー・データバ ース・ファイル。
	QUSRSYS	QLTACGY	LF	カテゴリー論理ファイ ル。

コマンド名	ファイル ライブラリー	ファイル名	ファイル・タイプ	ファイルの用途
	QSYS	QSYSTAP	TAPF	入力用のテープ装置ファイル。
WRKTCPTP	QUSRSYS	QATOCPTP	PF	TCP/IP Point-to-Point プロファイル構成。
	QUSRSYS	QATOCMODEM	PF	TCP/IP Point-to-Point モデム構成。
WRKTIE	QSYS	QPTIRCV	PRTF	受信されたファイルの 印刷装置ファイル要 約。
WRKTRA	QSYS	QSYSPRT	PRTF	トークンリング・ネッ トワーク・アダプター のリストを含む印刷装 置ファイル。 ¹
WRKTXIDX	QUSRSYS	QABBADMTB	PF	OfficeVision [®] テキス ト検索サービス管理テ ーブル
WRKUSRJOB	QSYS	QPDSPSBJ	PRTF	ユーザー・ジョブ表示 印刷装置ファイル。 ¹
WRKUSRTBL	QUSRSYS	QFNUSRTBL	PF	ユーザー・テーブルに 関するデータを含むフ ァイル。
WRKWTR	QSYS	QPRTRDWT	PRTF	書き出しプログラム表 示印刷装置ファイル。 ¹

サーバーでのコマンド記述の印刷

iSeries^(TM) サーバーで、コマンドのパラメーターおよび値の説明を印刷する際には、以下の手順に従ってください。

- あるコマンドについて、ヘルプの全体を印刷するには、次のいずれかを行います。
 - 任意のコマンド行からコマンド名 (例えば CRTUSRPRF) を入力し、F1 を押します。そのコマンドの一般ヘルプおよび各コマンドのパラメーターのヘルプが画面に表示されます。F14 を押すと、そのコマンド・ヘルプが印刷されます。
 - 任意のコマンドのプロンプト画面で先頭行までカーソルを移動し、F1 を押します。その後 F14 を押します。
- CL コマンドの特定のキーワード・パラメーターに関するヘルプを印刷するには、以下を実行します。
 - コマンド行から CL コマンド名を入力して F4 を押し、コマンドのプロンプト画面を表示します。ヘルプが必要なキーワード・パラメーターの行の任意の位置にカーソルを置きます。F1 を押すと、そのキーワード・パラメーターに関するヘルプが表示されます。F14 を押すと、そのヘルプが印刷されます。

CL に関する情報の PDF 版を印刷する方法については、『トピックの印刷』を参照してください。

付録 A. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced 36

AS/400

COBOL/400

IBM

OfficeVision

OS/400

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

付録 B. 資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM^(R) の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

付録 C. コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM^(R) お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan